

31

31-637



1200501246514



始



10-287



THE MARINE ALMANAC

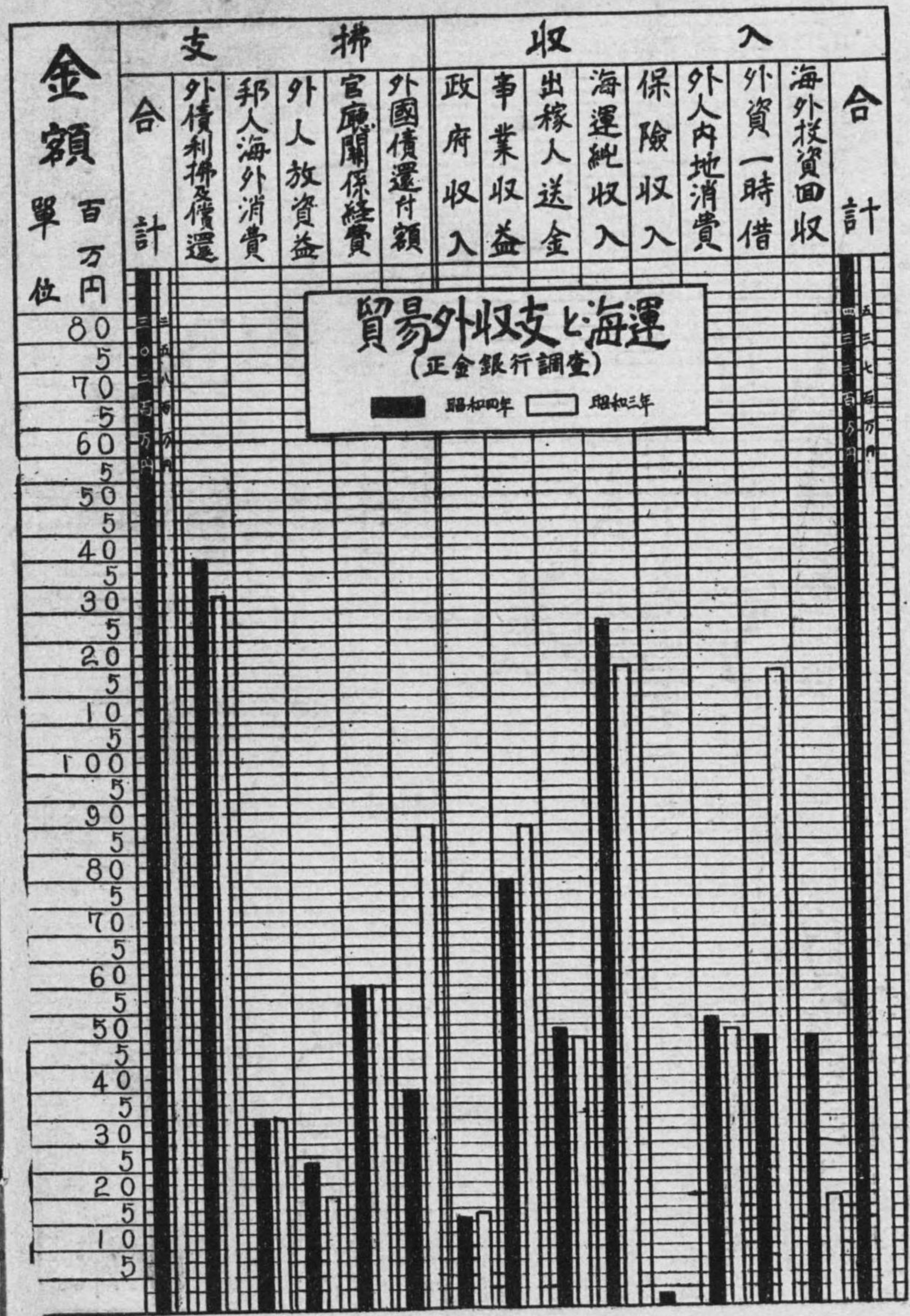
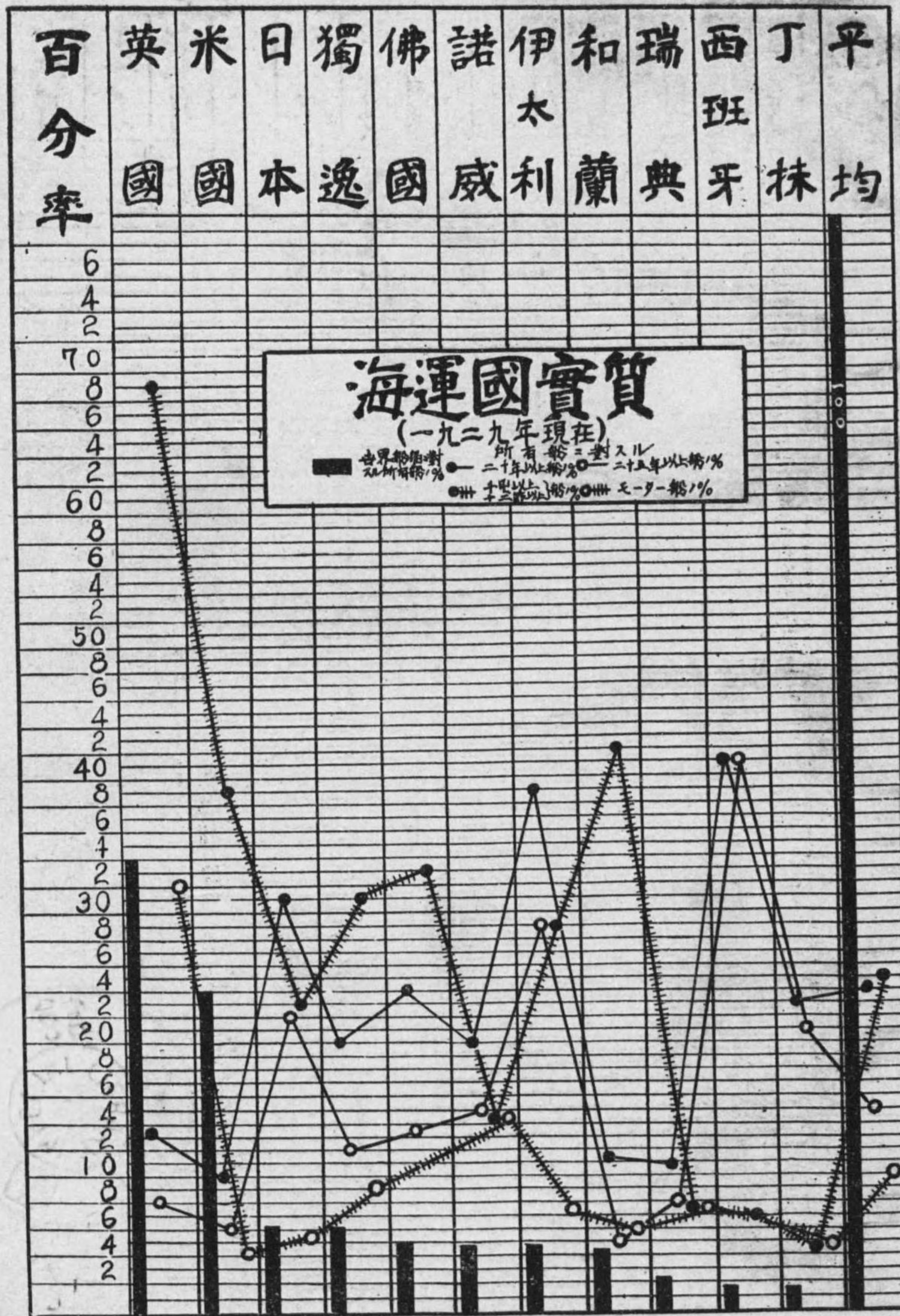
1930—31

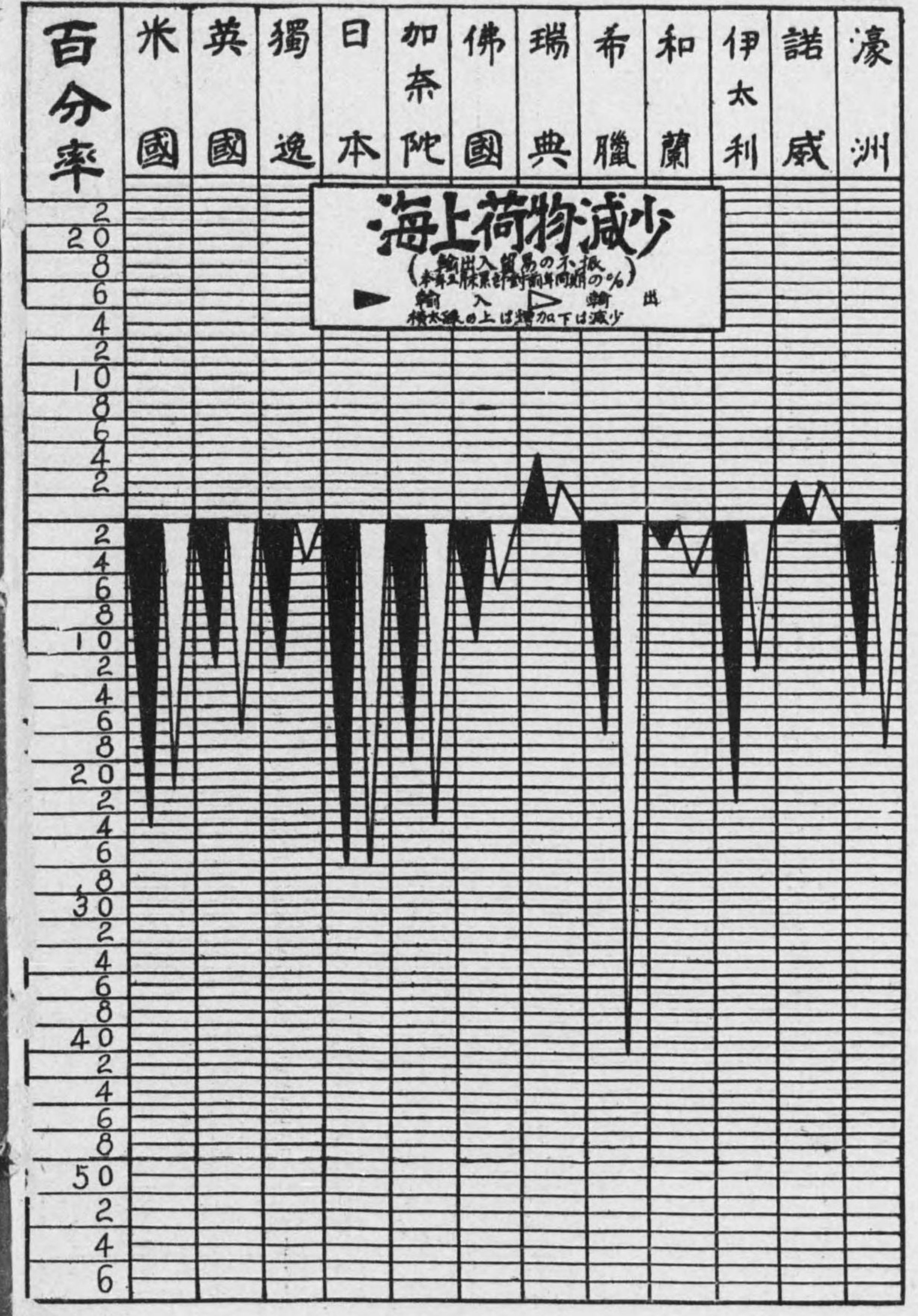
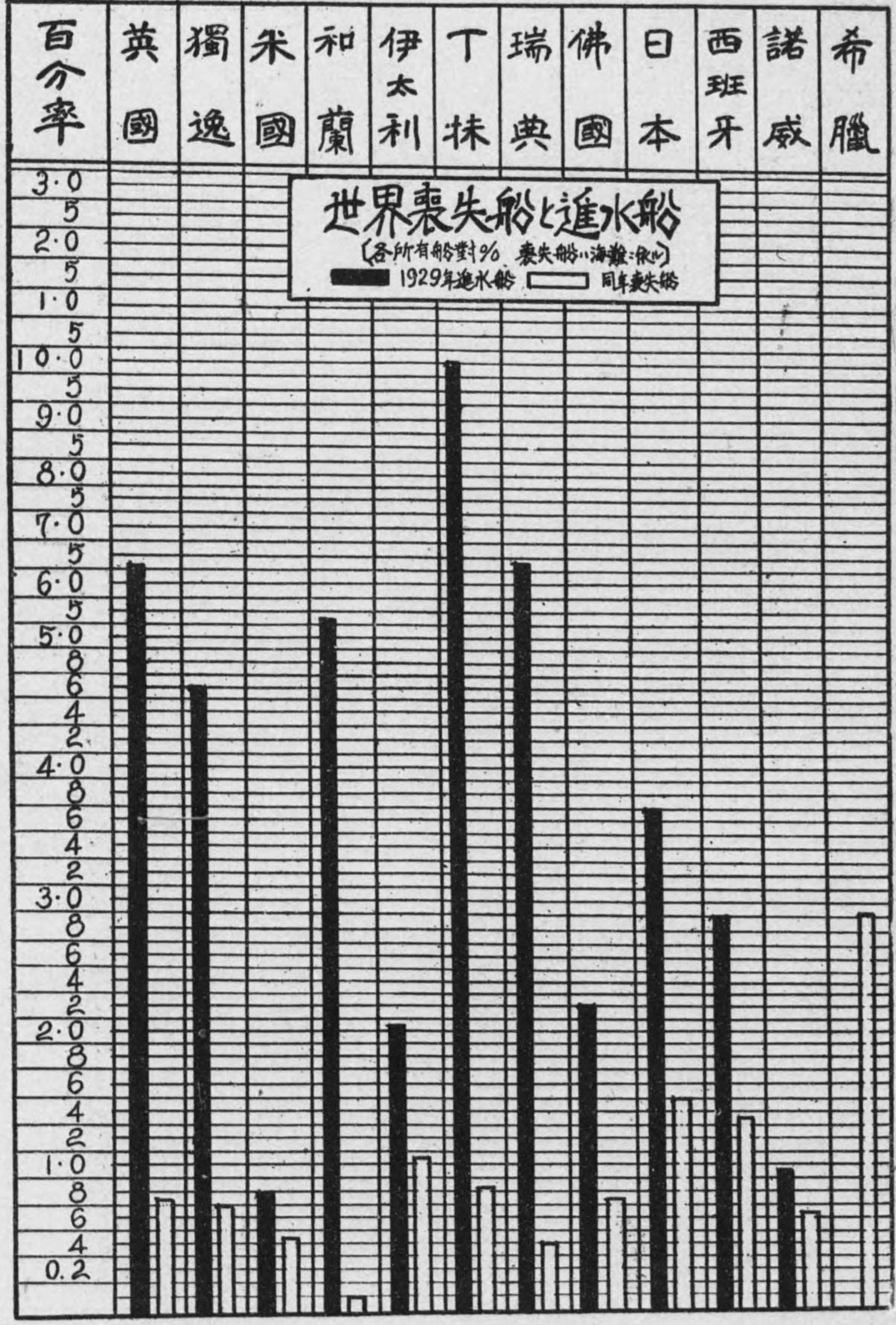
海 事 年 鑑

版年六·五和昭

行發社報彙事海





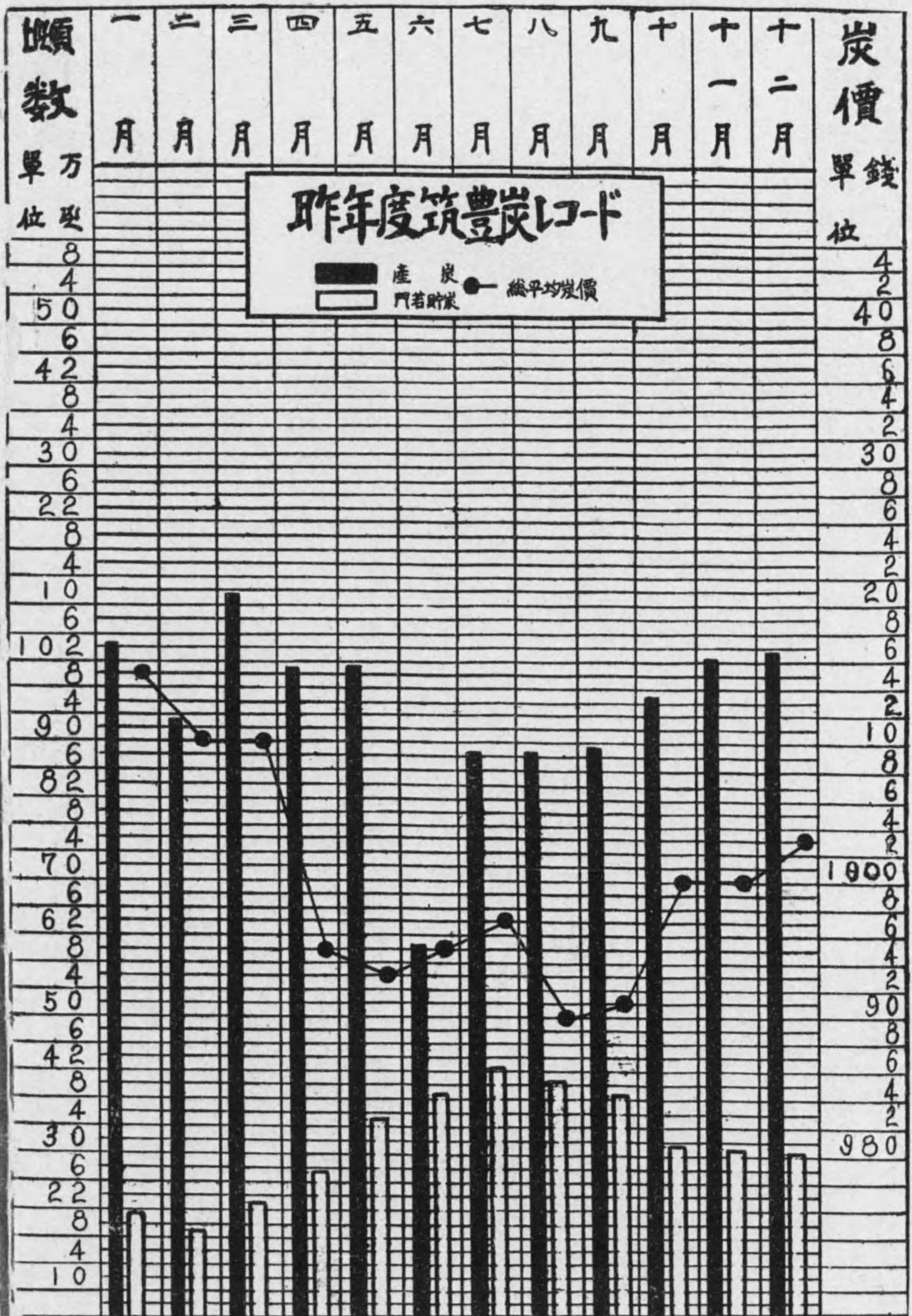


本書は毎年一回定期発行にして本版は其第拾四輯なり
 本書は昭和四年中及昭和四年七月より昭和五年六月に至る世界海事全般を描
 寫し併而統計的趨勢を表示して世界海運歴史の一部を綴れるものなり
 本書構成主體たる貿易及荷動、海運、港灣、造船、保險、燃料、事業成績を通
 じ網羅せる材料は各方面より蒐集せる爲め昨年との關係等多少統一を缺ぎ且つ
 戦時中の統計は殆んど正確なる材料の據るべきなく不正確の點なきを保せず
 本書は當業者の日常便覽の爲め末尾に海事關係官公署及海運、造船、保險に涉
 る會社役員録並に全國關係當業者の住所録を附録添綴せり
 附録役員録は豫め標準を定め照會せしも回答は意の如くならず或は回答未着等
 の向ありて多少統一を欠けるを遺憾とす

昭和五年十一月

調査部編

凡例



31-637

海事年鑑目次

卷 頭

- 一 我國運の發展趨勢……………一
- 一 世界列國の大勢……………二
- 一 世界の主な海洋……………三
- 一 世界の主な海峡……………三
- 一 世界主要運河……………四
- 一 世界主要島嶼……………五
- 一 船舶所有者分布表……………六
- 一 我國の國富……………七
- 一 世界物價趨勢……………七
- 一 内外貨幣換算表……………八
- 一 各國度量衡換算表……………九
- 一 世界標準時表……………一〇

海事累年記錄

海事法令沿革

- 一 海事年譜……………二
- 一 海事通覽……………五
- 一 船舶法……………六
- 一 同 施行細則……………六
- 一 船舶積量測定法……………六
- 一 同 規程……………七
- 一 船舶滿載吃水線法……………七
- 一 同 施行細則……………七
- 一 船舶検査法……………七
- 一 同 施行細則……………七
- 一 船員法……………八
- 一 同 施行細則……………八
- 一 船舶最低年齡法……………八
- 一 船舶職員法……………九
- 一 同 施行細則……………九
- 一 船舶職員試驗規程……………九
- 一 船員職業紹介法……………九
- 一 同 施行規則……………九
- 一 船舶無線電信施設法……………一〇
- 一 海商法(第五編)……………一〇
- 一 開港港則……………一一
- 一 船舶通報規則……………一一
- 一 海上衝突豫防法……………一〇
- 一 海員懲戒法……………一〇
- 一 同 施行細則……………一〇
- 一 水先法……………一〇
- 一 海事協同會規約……………一〇
- 一 同 施行規則……………一〇
- 一 重要品輸出入番附……………一五
- 一 輸出重要品累年比較……………一六
- 一 對外國別貿易表……………一七
- 一 輸出入貿易船國別表……………一九
- 一 主要港貿易順位比較……………二二
- 一 五港入港船舶……………二三
- 一 日英米外國貿易月表……………二三

附錄

- 一本邦主要造船所職工數……………二六六
- 一歐米造船職工勞銀比較表……………二七七
- 一世界鐵礦包藏量……………二七七
- 一世界銑鋼產額……………二八七
- 一本邦鋼材需給趨勢……………二八八
- 一本邦炭界趨勢……………三〇三
- 一筑豐炭成績……………三〇三
- 一世界燃料炭標準價……………三〇五
- 一若松港平均炭價……………三〇六
- 一世界原油產額……………三〇六
- 一世界原油價一覽……………三〇六
- 一世界重油供給港……………三〇七
- 一歷代遞信大臣……………一
- 一同 遞信次官……………二
- 一同 管船局長……………二
- △役員錄
- 一官公署團體……………三
- 一汽船會社……………三
- 一造船會社……………三
- 一海上保險會社……………三
- 一運輸倉庫會社……………三
- 一船舶用品會社……………三
- △任所錄
- 一船 主……………八
- 一海運業者……………八
- 一造船業者……………一〇五
- 一海上保險業者……………一〇七
- 一船用品業者……………一一一
- 一倉庫業者……………一二四
- 一辯護士補佐人代願人……………一二七

保 險

- 一海上保險契約趨勢……………二八九
- 一海上保險會社成績……………二八九
- 一世界主要海上保險成績……………二九二
- 一世界海難喪失船統計……………二九三
- 一本邦海難喪失船統計……………二九四
- 一本邦海難船及海難者……………二九四
- 一本邦汽船遭難明細……………二九五
- 一本邦全損船舶表……………二九九
- 一世界石炭埋藏量……………三〇一
- 一世界石炭產額……………三〇一
- 一本邦海事關係會社成績……………三〇九
- 一汽船會社……………三〇九
- 一造船會社……………三〇九
- 一保險會社……………三〇〇
- 一炭業會社……………三一
- 一關係會社株債……………三一
- 一本邦汽船會社累年營業成績……………三一
- 一外國汽船會社成績……………三一
- 一米國船船院……………三三
- 一英獨主要汽船會社……………三三
- 一新設會社……………三四
- 一船……………八
- 一海運業者……………八
- 一造船業者……………一〇五
- 一海上保險業者……………一〇七
- 一船用品業者……………一一一
- 一倉庫業者……………一二四
- 一辯護士補佐人代願人……………一二七

燃 料

- 一世界石炭埋藏量……………三〇一
- 一世界石炭產額……………三〇一
- 一本邦海事關係會社成績……………三〇九
- 一汽船會社……………三〇九
- 一造船會社……………三〇九
- 一保險會社……………三〇〇
- 一炭業會社……………三一
- 一關係會社株債……………三一
- 一本邦汽船會社累年營業成績……………三一
- 一外國汽船會社成績……………三一
- 一米國船船院……………三三
- 一英獨主要汽船會社……………三三
- 一新設會社……………三四
- 一船……………八
- 一海運業者……………八
- 一造船業者……………一〇五
- 一海上保險業者……………一〇七
- 一船用品業者……………一一一
- 一倉庫業者……………一二四
- 一辯護士補佐人代願人……………一二七

我國運の發展趨勢

(註)單位千、物價は指數百、十一、二年人口は不明(殖民地除外)

年	人口	歲出	貿易	正貨	公債	物價	汽船	進水船
大正四年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同五年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同六年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同七年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同八年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同九年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同十年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同十一年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同十二年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同十三年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同十四年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
昭和元年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同二年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同三年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九
同四年	五九,九三四	出 一七五,八五七	入 一七五,八五七	五二六,〇〇〇	二,五二四,六四	九九	一,五五七	四九



世界列國の大勢

國名	面積 (平方哩)	人口 (千人)	歳入 (千鎊)	歳出 (千鎊)	輸入 (千鎊)	輸出 (千鎊)	國債 (千鎊)	金準備 (千鎊)	紙幣 (千鎊)
日本	377,170	59,736	160,389	23,615	224,855	6,035,875	86,693	53,373	67,382
支那	4,277,170	377,672	61,970	258,847	183,928	23,833	367,379	3,151,283	3,151,283
英吉利	8,551,197	439,300	801,060	1,133,143	839,143	7,634,000	1,772,966	1,386,446	1,386,446
佛蘭西	3,780,409	91,000	244,693	208,448	200,353	3,060,000	1,133,087	1,033,599	1,033,599
獨逸	185,885	62,568	27,951	338,447	487,655	63,199	141,700	20,388	3,155,430
伊太利	1,088,741	40,330	76,083	794,637	599,648	141,700	776,833	4,732	596,980
白蘭義	92,398	33,474	27,453	794,637	91,974	776,833	208,522	31,151	332,855
和蘭	1,588,090	56,398	56,755	136,033	136,033	208,522	208,522	9,354	28,433
露西亞	8,273,130	133,133	357,108	257,103	50,455	3,497	478,523	100,177	834,000
西班牙	355,233	23,091	70,595	91,099	3,497	24,874	33,831	200	6,490
葡萄牙	97,744	14,870	26,913	5,802	52,110	33,679	46,893	2,560	149,196
希臘	41,933	5,556	51,950	62,494	62,494	51,250	166,893	2,060	206,647
希臘	57,008	3,358	24,666	27,703	62,494	60,798	79,081	14,996	206,647
瑞典	170,035	5,900	38,627	29,900	167,833	65,732	67,811	8,234	139,340
挪威	124,960	2,647	29,900	78,200	87,900	65,732	67,811	8,234	139,340
米爾威	3,141,942	17,705	78,200	78,200	1,052,000	4,795,250	784,074	7,880	624,030
亞爾然丁	1,153,119	8,658	53,798	56,056	1,052,000	2,211,660	2,211,660	7,880	624,030
伯刺西爾	3,275,520	30,635	48,030	42,833	38,952	276,573	276,573	800	955,280

本調査は千九百廿七年の發行に係る英國ステーツマンズ、エイヤープ
ツク金準備及紙幣一九二八年ウオールド年鑑に據るものなり、面積人
口は殖民地加算他は本國のみ亦日、英、米貿易は千九百二十九年度なり

世界の主な海洋

海洋名	面積 (平方哩)	平均深度 (米)	表面平均水温 (攝氏)	表面塩分 (千分率)
太平洋	165,755,490	4,097	3.73	34.91
大西洋	81,657,800	3,850	4.02	35.37
印度洋	73,441,906	3,929	3.82	34.81
北極海	330,855,250	3,997	—	35.00
オーストラリア海	14,352,300	1,170	0.66	33.50
リヤ海	8,125,060	1,089	6.90	33.87
アメリカ海 (カリブ)	4,584,570	2,090	6.60	35.95
地中海 (ヨーロッパ)	2,967,570	1,431	13.35	34.85
アドソン湾	1,333,610	238	1.02	7.8
紅海	458,480	488	33.69	38.8
バルト海	406,720	55	3.91	26.0
ベルシヤ湾	233,850	25	2.00	26.7
地中海 (大陸間)	3,350,200	1,133	—	30.7
ベリリಂಗ海	2,274,800	1,444	2.0	30.3
オホーツク海	1,507,610	1,170	1.50	30.9
東支那海	1,242,480	1,177	9.9	33.1

〔理科〕に據る

世界の主な海峡

名種 (所在地)	長 (基米)	幅 (基米)	最深所 (米)	最浅所 (米)	航路中
日本海	1,043,820	—	0.90	—	34.1
アンダマン海	790,550	—	7.9	—	31.5
イギリス海	571,920	—	9.4	—	34.2
カリフォルニア湾	293,300	—	2.8	—	30.5
ローレンシヤ湾	233,380	—	3.2	—	30.8
北海	166,790	—	9.87	—	35.5
タスマン海	83,170	—	7.3	—	35.5
沿海海	8,133,810	—	9.7	—	31.6
近海 (地中海)	40,464,010	—	1,180	—	30.6
十沿海海	—	—	—	—	—
近海 (大洋)	3,279,260	—	3.61	—	34.9

〔理科〕に據る

シアラタル(イスバ)	九〇	一四	九〇	二〇〇
ニア、アフリカ)				
ベル・アイル(ニュー)	一三〇	二二	一四六	四
フアグンドランド、				
ラブラドル)				
カボット(ニューファウ)	九〇	五〇	五九	三八〇
ンドランドの南)				
モナパツセーシ(アンチ	二〇〇	一〇五	一五七〇	六〇
ル諸島の中央)				
朝鮮(九州、朝鮮)	二〇〇	一四〇	二二五	一七〇
臺灣(臺灣、支那)	三〇〇	二〇〇	二七	四〇
シンガポール(シンガ	五〇	一六・五	五	六
ポール、マライ半島)				
マライ(マライ半島、	七〇	六	七	三
スマトラ)				
バルク(インド、セイロン)	二〇〇	五	二	七
ホルムス(アラビヤ、	五	一五	一四	三
ベルシヤ)				
バベル・マンデブ(アフ	五	一七・五	三〇	六
リカ、アラビヤ)				
ホスボラス(トルコ)	三〇	〇・七	二〇	七
ダーダネルス(トルコ、	七	一・三	一〇五	二七
ギリシヤ)				
オトラント(イタリー、	二〇	七・五	九七	二五
ギリシヤ)				
メツシナ(イタリー、	四三	三・五	二五	八五
シシリ)				

ウインドワード(キュー	三三〇	六五	一四五〇	二九〇
バ、ハイチ)				
フロリダ(北米キューバ)	二〇〇	八〇	一八三〇	二〇〇
ニカタン(中米キューバ)	二七〇	三〇〇	二〇〇〇	九〇
◎南 半 球				
クツク(南北ニュージ	二〇	八五	三三〇	一四〇
ランド)				
バス(オーストラリア、	三三〇	一六〇	一四〇	五
タスマニア)				
トーレス(オーストラリ	四〇〇	八五	三	九
ヤ、ニューギニー)				
スンダ(スマトラ、ジャ	一〇〇	五〇	一〇六	三
ヴァ)				
マシエラン(南アフリカ)	六〇〇	四三	三〇	三

世界主要運河

名 稱 (所在地)	長サ(幅)基米	開通年
スエス(エジプト)	一六八(八〇—一三〇)	一八六九
キール(ドイツ)	九九(一〇三)	一八九五
パナマ(中米)	九三(六七)	一九一五
エルベ及トラブ(獨)	六四(三三)	一九〇〇
マンチエスター(英)	五七(六・六)	一八九四
ウエラント(カナダ)	四三(三〇)	一八八七
スクル(インド)	三二(一)	開鑿中

北 海(和 蘭)
クロンスタットレーニンゲ
ラード(ロシヤ)

世界主要島嶼

名 種 (所屬)	(面積一萬平方哩以上)	(所在)	面積(平方哩)
グリーンランド(丁)	北氷洋	八七、三〇〇	
ニューギニー(英、和)	太平洋	三〇、〇〇〇	
ホルネオ(英、和)	同	二〇、〇〇〇	
バフィンランド(英)	北氷洋	三六、〇〇〇	
マダガスカー(佛)	印度洋	三三、〇〇〇	
スマトラ(和)	印度洋	一六〇、〇〇〇	
大不列顛	大西洋	八八、六三	
本 州(日)	太平洋	八七、五〇〇	
セレベス(和)	印度洋	七三、〇〇〇	
プリス・アルバート(英)	北氷洋	六〇、〇〇〇	
ニュージラランド南島(英)	太平洋	五八、五〇〇	
瓜 哇(和)	印度洋	四八、四〇〇	
ニュージラランド北島(英)	太平洋	四四、五〇〇	
馬 呂	太平洋	四四、〇〇〇	
宋 (米)	太平洋	四一、〇〇〇	
ニューファウランド(英)	大西洋	四〇、二〇〇	
アイスランド	同	四〇、〇〇〇	
エレスミア(英)	北氷洋	四〇、〇〇〇	

北 海(和 蘭)
ミンダナオ(米)
愛 蘭(日)
ノヴァヤ・ジエムリア(露)
樺 太(日、露)
ハイチー
タスマニア(英)
錫 蘭(英)
バンクス(英)
ノース・デヴォン(英)
晚 香 坡(英)
メルウイール・ランド(英)
チエラ・デル・フエゴ
(アルゼンチン)
サムプトン(英)
西スピッツベルゲン(諸)
プリンス・オウウェールス(英)
臺 灣(日)
北ソマーセット(英)
シシリ(伊)
コルシカ(佛)
新嘉坡(英)
セント・ヘレン(英)
香 港(英)

名 稱 (所在地)	長サ(幅)基米	開通年
スエス(エジプト)	一六八(八〇—一三〇)	一八六九
キール(ドイツ)	九九(一〇三)	一八九五
パナマ(中米)	九三(六七)	一九一五
エルベ及トラブ(獨)	六四(三三)	一九〇〇
マンチエスター(英)	五七(六・六)	一八九四
ウエラント(カナダ)	四三(三〇)	一八八七
スクル(インド)	三二(一)	開鑿中

船舶所有者分布表

(昭和五年六月現在)

汽船總噸數五百噸以上者

港名	會社數	總隻數	總噸數
東京	四六	三九	一、六九七〇噸
大阪	一三	二五	二、五五九
神戶	一三	二五	八、四七三
小樽	一	一	七〇、九六五
函館	一	一	八、三三五
室蘭	一	一	四、九三三
釧路	一	一	二、八四六
鹽釜	一	一	八、九七
新船	一	一	七、五八
伏見	一	一	二、〇三
京都	一	一	九、〇二
島根	一	一	一、八八
境	一	一	二、五、六三
名	一	一	二、二七
福	一	一	一、〇七
高	一	一	二、七〇
桑	一	一	四、四三
富	一	一	四、〇九
古	一	一	七、九
山	一	一	二、九三
名	一	一	一、六三
石川	一	一	一、九三
川	一	一	一、九三
名	一	一	一、九三
石	一	一	一、九三
岐	一	一	一、九三
岡	一	一	一、九三
下	一	一	一、九三
德	一	一	一、九三
波	一	一	一、九三
字	一	一	一、九三
高	一	一	一、九三
嚴	一	一	一、九三
門	一	一	一、九三
若	一	一	一、九三
博	一	一	一、九三
長	一	一	一、九三
佐	一	一	一、九三
佐	一	一	一、九三
鹿	一	一	一、九三
仁	一	一	一、九三
清	一	一	一、九三
大	一	一	一、九三
樺	一	一	一、九三

我國の國富 (大正十三年現在)

項目	大正十三年末 (萬圓)	戰後 (大正八年) 較比	戰前 (大正二年) 較比
國富總額	一〇、三、四、三九	一、六、六、六三	七、〇、〇、〇三
人口一人當	一、七、三三圓	二〇一圓	一、二、五五圓
國富內譯 (主要項目)			
家具及家材	九六、四〇〇		
製造工業機械	一九、七〇〇		
鐵道及軌道	三、五、〇、〇〇		
農產品	三、三、〇、〇〇		
工業產品	三、三、〇、〇〇		
貨幣及金銀地金	二、三、一、二六		
各省財產	六、四、八、三三八		
土地	三、三、四、七〇		
礦山	三、三、三、三三		
海湖川及港灣	五、五、八、六〇		
樹木	一、七、四、七六		
建物	一、三、三、七二		

世界物價趨勢 (大正三年七月を基準とする指數)

年	東京	倫敦	紐育	巴里
三年七月	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
開戰後第一年平均	九八	一〇六	一〇八	一一四
開戰後第五年平均	二八	三三	三三	三三
講和後第一年平均	三三	二九	三三	三三
十年平均	三一	一八	一三	一三
十一年平均	二〇八	一六	一三	一三
十二年平均	三三	一六	一三	一三
十三年平均	二七	一三	一三	一三
十四年平均	一九〇	一三	一三	一三
十五年平均	一九〇	一三	一三	一三
二年平均	一八七	一五	一四	一四
三年平均	一八四	一五	一四	一四
四年平均	一八三	一五	一四	一四
五年平均	一八一	一五	一四	一四
六年平均	一八〇	一五	一四	一四
七年平均	一七三	一四	一三	一三
八年平均	一六〇	一三	一二	一二
九年平均	一五五	一二	一二	一二
十年平均	一五〇	一二	一二	一二
十一年平均	一四七	一一	一一	一一
十二年平均	一四三	一一	一一	一一
十三年平均	一三九	一一	一一	一一
十四年平均	一三五	一〇	一〇	一〇
十五年平均	一三〇	一〇	一〇	一〇

表算換幣貨外内

西班牙	葡萄牙	伊太利	瑞白佛	獨逸	合衆國	北米	英吉利	純分比價ノ部
「ミルリ」	「ベセタ」	「リラ」(百參)	「法」(百參)	「麻克」(百布)	「仙」(百仙)	「志」(十二片)	「志」(十二片)	「磅」(二十志)
同	同	同	同	同	同	同	同	凡我
二・六・八〇	六・七	六・七〇	六・七〇	四・七・八〇	二・〇・六〇	四・〇・七	四・八・八二	九・七・六三
然亞	秘露	印英	比律賓	露西亞	匈地	土耳古	和蘭	瑞丁
丁爾	「ソル」	「安」(十二杯)	「比」(十六安)	「哥」(百哥)	「クローネ」	「ピアストル」	「ギルドル」	「クローン」
同	同	同	同	同	同	同	同	同
一・九・三・五〇	九・七・六三	四・〇・七	一・〇・〇・〇	一・〇・三・二〇	四・〇・七	八・八・〇	八・〇・六〇	五・三・八〇
墨西哥	暹羅	支那	支那	英吉利	西伯	爾刺	智利	
「ドル」	「チカル」	「錢」(十錢)	「兩」(十錢)	「弗銀」	「紙幣」	「金貨」	「弗」	
同	同	同	同	同	同	同	同	
八・五・四〇	七・六・五〇	一・〇・〇	一・〇・〇	九・〇・四〇	六・五・〇〇	一・〇・九・六〇	七・三・三三	

表算換衡量度國各

支那	伊獨佛	英米	印度	暹羅	支那
寸尺丈里	糶糧米基	吋呎碼鑽哩	分	ソバ	斤
同	突米	同	同	同	同
〇・二・七・三	〇・〇・三・三	〇・〇・八・三・六	〇・〇・一・七	一・五・五・六	一・六・二・七
獨逸	伊獨佛	英米	印度	暹羅	瓜哇
瓦	基	封本	重	輕	瓦
同	同	同	同	同	同
〇・〇・〇・七	〇・二・六・七	〇・二・九・六	一・三・五・七〇	二・四・一・九・六〇	一・三・五・七〇
暹羅	瓜哇	西國	墨國	印度	支那
カルチ	ピク	カッ	リ	ア	バ
同	同	同	同	同	同
一・六・三・三〇	一・六・三・三〇	一・六・三・三〇	一・六・三・三〇	一・六・三・三〇	一・六・三・三〇

日本施行メートル法(要項)

長さ(長) 1メートル = 100センチメートル = 1000ミリメートル

面積(面) 1平方メートル = 100平方分メートル = 10000平方センチメートル

容積(容) 1立方メートル = 1000立方分メートル = 1000000立方センチメートル

重量(重) 1キログラム = 1000グラム = 1000000ミリグラム

長さ(長) 1海里 = 1852メートル

面積(面) 1ヘクタール = 10000平方メートル

容積(容) 1立方メートル = 1000リットル

重量(重) 1トン = 1000キログラム

長さ(長) 1海里 = 1852メートル

面積(面) 1ヘクタール = 10000平方メートル

容積(容) 1立方メートル = 1000リットル

重量(重) 1トン = 1000キログラム

海事累年記録

世界標準時表

メルボルン	東京	京城	上海	香港	新嘉坡	蘭賞	甲谷陀	古倫母	孟買	アデン	パテログラード	伯林	倫敦	經度、分	午、時、分	正、午、分	東京、正、午、分
東 一四、三〇 後	東 一五、〇〇 後	東 一七、三〇 後	東 二〇、〇〇 後	東 二二、三〇 後	東 二五、〇〇 後	東 二九、三〇 後	東 三〇、〇〇 後	東 三三、三〇 後	東 三五、〇〇 後	東 三九、〇〇 後	東 四二、〇〇 後	東 四八、〇〇 後	東 五〇、〇〇 後	東 一〇、〇〇 後	東 一五、〇〇 後	東 二〇、〇〇 後	東 二五、〇〇 後
九、三〇 後	九、〇〇 正	八、三〇 前	八、〇〇 前	七、三〇 前	七、〇〇 前	六、三〇 前	六、〇〇 前	五、三〇 前	五、〇〇 前	三、〇〇 前	二、〇〇 前	一、〇〇 前	〇、〇〇 前	三、〇〇 前	三、〇〇 前	三、〇〇 前	三、〇〇 前
三、三〇 午	二、三〇 午	二、〇〇 午	一、三〇 午	一、〇〇 午	〇、三〇 午	〇、〇〇 午	九、三〇 午	九、〇〇 午	八、三〇 午	八、〇〇 午	六、〇〇 午	五、〇〇 午	四、〇〇 午	三、〇〇 午	三、〇〇 午	三、〇〇 午	三、〇〇 午
墨西 哥	ウ ル グ ア イ	亞 爾 然 丁	愛 爾 蘭	希 臘	和 蘭	露 國	露 國	露 國	露 國	露 國	露 國	露 國	露 國	露 國	露 國	露 國	露 國
西 九 九、〇三、四三 前	西 五 六、二二、五五 前	西 六 四、二二、〇〇 前	西 六 二、二〇、五五 前	東 三 三、四三、一五 後	東 四 四、五三、〇〇 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後
五、二四、三三 後	八、一五、二二 後	七、四三、二二 後	一、三三、三九 前	一、三三、三九 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前
八、二四、三三 後	二、一五、二二 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後
西 九 九、〇三、四三 前	西 五 六、二二、五五 前	西 六 四、二二、〇〇 前	西 六 二、二〇、五五 前	東 三 三、四三、一五 後	東 四 四、五三、〇〇 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後	東 三 〇、一九、四四 後
五、二四、三三 後	八、一五、二二 後	七、四三、二二 後	一、三三、三九 前	一、三三、三九 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前	〇、二九、三三 前
八、二四、三三 後	二、一五、二二 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後	一、〇四、三三 後

海事累年記録

世界標準時表

地名	経度	分	時	分	時	分
倫敦	東	00	正	午	東	正
伯林	東	15	後	前	東	正
ペテログラード	東	30	後	前	東	正
アムステルダム	東	45	後	前	東	正
孟買	東	75	後	前	東	正
古倫	東	83	後	前	東	正
甲谷	東	90	後	前	東	正
蘭貢	東	97	後	前	東	正
新嘉坡	東	105	後	前	東	正
香港	東	113	後	前	東	正
上海	東	120	後	前	東	正
京城	東	127	後	前	東	正
東京	東	135	後	正	東	正
メルボルン	東	143	後	後	東	正
シドニー	東	150	後	後	東	正
新西蘭	東	157	後	後	東	正
ホノルル	西	165	前	後	東	正
サンフランシスコ	西	173	前	後	東	正
メキシコ	西	180	前	後	東	正
市古	西	187	前	後	東	正
紐約	西	195	前	後	東	正
リオデジャネイロ	西	203	前	夜	東	正
グリニチ	西	00	前	夜	東	正
露國	東	30	後	前	東	正
和蘭	東	45	後	前	東	正
希臘	東	60	後	前	東	正
愛蘭	西	15	前	後	東	正
亞丁	西	30	前	後	東	正
ウルク	西	45	前	後	東	正
墨西哥	西	90	前	後	東	正

海事年譜

(海事主要抄録)

(註一) 印ヲ附セルハ外國記録

年號	年	月	西洋紀元	事	項
紀元前	一	五	前六五	神武天皇日向を發し海路東征の途に就き給ふ (甲寅の歲)	
紀元	元	二	六〇	神武天皇即位	
	二		六〇	〔フィニシヤの一船長ジラルタルを越え阿弗利加を一週して紅海に入る〕	
	三		六〇	〔マツシリア港建設せらる今の馬耳塞港であつて現存せる世界最古の商港とさる〕	
	三		三三	〔埃及亞歷山港建設さる〕	
	三		三三	〔羅馬のジュリアス・シイザー英國及白耳義を侵す〕	
	七		三三	崇神天皇の六十五年任那國使蘇那曷叱智來朝す	
	七		四三	〔ロンドン港建設さる〕	
	二		二〇	神功皇后三韓親征	
	二		三〇	新羅良船匠を貢す	
	二		三〇	使を吳に遣はし縫工女を求む	
	二		三〇	〔白耳義安土府港誌始めて文書に現はる〕	

【海事年譜】

【海事年譜】

白雉	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

肅慎人佐渡に来る
 小野妹子を隨に遣はす
 隨答使裴世清妹子と共に來朝す
 犬上御田歙を唐に遣はす
 入唐學僧等歸朝す
 諸國に命じて大船を造らしむ
 吉士長丹を大使として唐に遣はす
 阿部比羅夫蝦夷肅慎を征伐す
 中絶せる遣唐使を再興す
 阿倍仲麻呂遣唐使として出發
 唐より飛舟を獻す
 天竺僧來朝す
 〔北歐の海賊船ヴァイキン盛に英國並に西歐海岸を浸す〕
 〔シヤールレマン大帝漢堡港を建つ〕
 藤原純友兵船千五艘を卒ひて博多沖に戦ふ (本邦海戦の始)
 刀伊賊筑紫に寇す
 〔第一十字軍遠征(爾後一二七〇年まで數回行はれ)海上交通の發達を促す〕
 〔佛國西岸の小島オレロン海法にロール・ド・オレロン發達す〕
 〔ベニースはアドリアアチック海支配權を主張す〕

【海事年譜】

文治	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

〔英國リチャード一世十字軍編成の爲大海軍を鑿裝す〕
 〔瑞典ゴットランドの小島ウキスビー商業上に勃興してウキスビー海法を形成す〕
 我邊民宋商と結んで大に彼土を侵略す
 〔伊太利に海上保險起る〕
 〔英國王リチャード一世英國最初の海法を制定すオレロン法に則るを稱す〕
 〔海上貿易に一方の覇を稱へたゼノア切りにベニスと海權を争ふ〕
 北條義時船法三十一條を制定す
 〔北獨沿岸諸市ハンザ同盟を起し海賊に當る〕
 〔英國最初の備船契約行はる〕
 〔マルコ・ポロ支那より羅針盤を齎らし歐州に傳ふ〕
 蒙古使來り時宗之を御く
 高麗使者を齎し蒙古來寇の企圖を告ぐ
 〔ベニス商船保護法を制定す〕
 蒙古の兵三萬壹岐對馬筑前に寇す
 元使杜世忠を時宗鎌倉に斬る
 元軍大舉筑前を寇す七月大風起り艦船覆没、兵燹殺さる
 〔ロツターダム港誌初めて文書に出づ〕
 〔伊太利人フラッグ・オ・ギョツア羅針盤指針の懸垂を發明す〕

【海事年譜】

延元	六	一三四
正平	五	一三五〇
文中	三	一三六七
天授	二	一三七三
應永	元	一三七九
	八	一三九四
	九	一四〇一
	六	一四〇二
	七	一四〇三
文明	同	一四〇〇
元	元	一四八七
明	元	一四九三
應	元	一四九七
	六	一四九七
	同	一四九七
	八	一四九七

足利直義天龍寺船二隻を以て元と貿易を始む
 倭寇始めて起る
 元使倭寇の難を訴ふ
 明王修好使を日本に遣はし書を足利義滿に致す
 〔佛人ド・ウイック時計製造に成功す〕
 〔葡萄牙の航海獎勵王子ヘンリー・ザ・ナビゲーター生る〕
 八幡船起る。倭寇滋し
 足利義滿明使を引見す
 南蠻使若狭に来る
 〔葡萄牙マデイラ、カナリーの二島をさる〕
 〔平面海圖及羅針盤始めて航海に用ひらる〕
 〔バーソロミユ・ド・ゲアツ喜望峰を發見す〕
 〔クリストフ・コロムブス亞米利加を發見す（八月三日サンタマリア號、ヒンタ號ニナ號の三隻西班牙ボロス港を解纜す）〕
 〔ヴァスコ・ダ・ガマ喜望峯を迂回して印度カルカッタに至り印度航路を開拓す〕
 〔伊太利人ジヨン・カボット英王ヘンリー八世の命により北米探検に上り加奈陀東端アレト岬を發見す〕
 〔西班牙人アメリカ・ヴェスバツチ米大陸沿岸を航し亞米利加の名を生ず〕

【海事年譜】

永正	三	一五二六
	四	一五二七
	六	一五二九
天文	二	一五三三
	三	一五三四
	四	一五三五
	五	一五三六

〔西班牙人ヴァインセント・ヤーネーツ・ピンツオン伯刺西爾を發見す〕
 〔葡人錫蘭島を侵す〕
 〔英國最初海上保險現はる〕
 〔英王ヘンリー八世即位永久的英艦隊を建設す〕
 〔葡人孟買に至り更にスマトラ島アチンに至る〕
 〔葡人マラッカに植民地を開く〕
 〔英人セバスチアン・カボト加奈陀ハドソン灣に至る〕
 〔西班牙人ヴァスコ・ヌネーツ・バルボア巴奈馬ダリエン地峽を過りて太平洋を發見す〕
 足利幕府遣明船の勘合符を大内義興に專管せしむ
 〔西班牙軍人フェルナンド・ヘルナンデス・コルドヴァ墨西哥を發見す〕
 〔葡人フェルナンド・マガリエンス世界最初の周航をなし南米南端の海峽をマゼラン海峽と名く〕
 〔西班牙人フランシスコ・ピツアロ秘露を攻略してリマ市を建つ〕
 〔西班牙人北米カリフォルニヤを發見す〕
 〔西班牙人シエド・フルタード・メンドーツア亞爾然丁ベノスアイレッツ港を建つ〕
 〔西班牙人ジコゴ・ド・アルマケロ智利を發見し翌年同國人ジユアン・サーベドレイはヴァルパライソ港を建つ〕

【海 事 年 譜】

三	一五三	葡萄牙人ピント種子島に來り鐵砲を傳ふ
二	一四九	フランソワ・ザビエール鹿兒島に來り布教を始む
一	一五〇	〔セキスタントの發明〕
二	一五〇	〔丁抹の星學者タイチヨ・アラヘ獨立アウクスブルクに於て六分儀を發見す〕
三	一五〇	〔フランダーズ(今の白耳義)地理學者セラール・ド・マーカーター漸増緯度海圖を創立す〕
四	一五八	〔エリサベス女皇即位、頻りに西班牙と戰爭して領土を爭奪す〕
元	一五〇	天主教徒初めて京都に入る
三	一五七〇	〔英人ブールン初めてロク・ラインを航海に用ふ〕
五	一五七〇	〔英海將サー・フランシス・ドレーク第二回目の世界周航を遂ぐ〕
八	一五八〇	英國船始めて平戸に來る
九	一五八〇	西班牙船始めて平戸に來る
一〇	一五八二	大友宗麟、有馬晴信、大村純忠の諸大名使をローマに遣はす。日本人印度洋通航の最初なり
三	一五八五	〔英人ジョン・ダビス、ダビス海峡を發見す〕
同	一五八六	〔サー・ウォルター・ラレー北米ヴァージニア州に英國植民地を開く〕
四	一五八六	〔葡國マ那澳門を獲得す〕
五	一五七	〔英將サー・フランシス・ドレーキ西班牙船を拿捕し印度通商の有利を知る〕
六	一五八八	〔英將ワード卿英佛海峡に百二十九隻の西班牙無敵艦隊と戦ひて之を全滅す〕

文 祿
慶 長

元	一五三	御未印船始めて許さる
同	一五八	豊臣秀吉朝鮮征伐の帥を起し兵船七百艘を繕す
三	一五八	和蘭船始めて豊後に漂着す
同	一五九	〔獨星學者ヨハン・ケプラー潮汐の理法を發見す〕
四	一六〇	〔マーカトルのチャート出す〕
五	一六〇	〔英國東印度會社設立せらる〕
同	一六〇	英人三浦按針、蘭人耶揚子等平戸に來り家康之を重用して西洋形船を造らしむ
六	一六〇	〔英國に於て保險に關する最初法律出す〕
七	一六〇	〔蘭人濠洲發見を主張す〕
同	一六〇	〔和蘭東印度會社設立さる〕
八	一六〇	〔サー・ウォルター・ラレー海上貿易論を著し和蘭船壓迫を論ず〕
九	一六〇	始めて蠶糸貿易の制を定め京都、堺、長崎に布く
三	一六〇	〔英人ウキリアム・パローウエ航用羅針盤を完成す〕
同	一六〇	〔佛人サムエル・ド・シャムプレーン加奈陀クエベック市を建つ〕
一五	一六〇	〔英人ヘンリー・ハドソン加奈陀ハドソン灣に至る〕
同	一六〇	〔蘭人瓜哇の統治を創む〕
八	一六三	徳川家康葡、西兩國船の來泊を禁す
同	一六三	伊達政宗家臣支倉六右衛門常長を羅馬に遣はす

【海 事 年 譜】

【海事年譜】

享保	五	一七〇〇	伊豆下田を閉じ相模浦賀を開港す
	同	〃	洋書舶載の禁を解く
	同	〃	〔最初の海上保険會社創立〕
	三	一七六八	〔丁抹人ヅキタス・ペーリング太平洋最北の海峡（ペーリング海峡）を発見す〕
	同	一七六八	〔ロイツ新聞がロイブリストに改稱〕
	六	一七五五	〔最初のクロメーター發明さる〕
寶曆	元	一七六六	〔英佛七年戦争起る（佛國は英國に加奈陀を割讓）〕
明和	二	一七六三	〔船底の銅覆初めて行はる〕
	同	一七六四	〔ロイツ組合船舶登録を始む〕
	同	〃	〔英國機械師ジョン・ハリソンの時辰儀航海に應用せらる〕
	四	一七六六	〔英人キヤプテン・ウオリス世界周航の途次濠洲其他を発見す〕
	同	〃	〔最初の航海曆刊行せらる〕
	五	一七六八	〔英人キヤプテン・ジエームス・クック第一次世界周航の途に就く（第二次一七七二年第三次一七七五年）〕
安永	六	一七六九	〔ジエームス・ワット蒸気機關發明の特許を受く〕
	三	一七七三	〔ロイツ組合事務所をローヤル・エキスチエンジに移す〕
	同	一七七四	〔英國印度統治中心をマドラス甲谷陀に移す〕
	四	一七七五	〔米國獨立戦争起る（一七八三年巴里に媾和條約調印）〕
	同	〃	〔米國議會は海軍法を可決し米國商船は砲一門を備ふべき事を命令す米國海軍の萌芽なり〕

天明	五	一七六六	〔西班牙人初めて桑港に至リエルバ・プエナと呼ぶ〕
	七	一七六七	〔蘇克蘭の富豪ボトリック・ミラー蒸気機關を備へたる遊船を作る〕
寛政	八	一七六八	幕府長崎奉行に令して拔荷禁令を布く
	三	一七七一	漂着外國船處分令を發す
	四	一七五二	林子平海國兵談十六卷を著はし罪に處せらる
	同	〃	露國船我漂流民を送りて函館に入る
	同	〃	〔奈翁戦争起り英佛宣戰す〕
	五	一七五三	〔佛人ニコラス・ジャック・コンテ無水晴雨計を發明す〕
	〇	一七五八	〔ネルソン提督ナイル海戦に佛國艦隊を撃破す〕
	同	〃	近藤重藏蝦夷を巡視す
	同	〃	高田屋嘉兵衛樺探検の途に就く
享和	元	一八〇〇	間宮倫宗樺太韃韃探検の途に就く
	三	一八〇一	〔英人ウキリアム・シミングトン七十噸積の蒸気船シャロット・ダングスを作りクライド河を航行せしむ汽船の初めなり〕
	同	〃	米船初めて長崎に入る
文化	二	一八〇三	〔ネルソン提督トラファルガーに佛國聯合艦隊を撃破し戦死す〕
	三	一八〇五	〔奈翁大陸條例を宣し大に通商航海を妨ぐ〕
	四	一八〇六	〔米人ロバート・フルトン外車汽船クラーモント號を作りハドソン河を航行せし〕
	同	〃	

【海事年譜】

【海事年譜】

同	六	五	一八五九	横濱、長崎、函館の三港を假開港す 〔英國技師二萬噸の外車汽船グレート・イースタン號を作る（四回大西洋を往復せるも暴風に會ひ大破す）〕
同	七	一	一八六〇	〔佛國大西洋汽船會社設立馬耳塞伯刺西爾間郵便契約を結ぶ〕 遣米使搭乘の軍艦咸臨初めて太平洋を横斷す 〔最初の装甲鐵汽船進水〕
元	〃	〃	一八六一	幕府鎖國令の一部を撤廢し庶民大船所有許可の布告を發す 長崎製鐵所落成す幕府が船舶製造修繕の目的を以て安政二年起工せるものなり
同	〃	〃	〃	〔米國南北戦争起る、水雷初めて實戦に用ひらる〕 暴風警戒初て出す
同	〃	〃	一八六二	幕府海外渡航解禁、鎖國令撤廢を布告す
〃	〃	〃	〃	〔佛國ゼネラル・トランスアトランチック汽船會社設立、ハーブル紐育航路を開く〕
〃	〃	〃	一八六三	幕府神戸造船所を設立す
元	三	〃	一八六四	幕府横須賀造船所を設立す
〃	〃	〃	一八六六	〔丁抹聯合汽船會社（デト・フォレノード）設立さる〕
〃	〃	〃	〃	〔英國ギオン汽船會社設立され大西洋速力競争盛となる〕
〃	〃	〃	一八六七	〔米國バシフィック・メール汽船會社桑港支那線を開き年額五十一萬弗の補助を受く第一船は木造汽船グレート・レバリック號（三、三八一噸）なり〕

明治

同	元	三	一八六八	幕府兵庫開港を決行す 大政奉還、當時の幕府所有西洋形船數四十四隻なり
同	〃	〃	〃	明治政府の樹立、太政官を設置す
同	〃	〃	〃	太政官に内國事務局を置き水陸運輸、驛路、港口を管理せしむ 新政府最初の管船令を發す
同	〃	〃	一八六九	太政官に民部官を置き水陸運輸の事務を掌らしむ 西洋形風帆船、蒸氣船購入獎勵を達示す 汽船購入の検査令を布告す。（汽船検査の創始）
同	〃	〃	〃	〔英國アリス汽船會社設立さる〕
同	〃	〃	〃	〔蘇士運河開通し歐亞航路に大變革を來す〕
同	〃	〃	〃	〔米國横斷鐵道（ユニオン・バシフィック）竣成し桑港を終點とす〕
同	〃	〃	一八七〇	〔英國白星線會社設立、英國紐育航路開始〕
同	〃	〃	〃	〔和蘭ネデルランド汽船會社設立〕
同	〃	〃	〃	本邦最初の汽船會社廻漕會社設立
同	〃	〃	〃	商船規則の制定
同	〃	〃	〃	西洋形船所有保護令發布
同	〃	〃	〃	不開港場規則難船救助心得方公布さる
同	〃	〃	〃	貢米運輸規則發布さる
同	〃	〃	〃	長崎製鐵所に於て汽船瓊浦丸を建造す（本邦汽船製造の嚆矢）

【海事年譜】

【海事通覽】

- 一、海事研究會は小泉遞相を招待し内田會長から海事行政統一以下數件の希望を述べた
- 一、小泉遞相主催者となり主要船主を招待し海運政策に對する意見を聴取した
- 一、懸案の船舶二重課稅除去に就て英米丁三國と相互協定成立

十月

- 一、郵船桑港航路船第一船淺間丸(優秀船)は十一日横濱出帆處女航海に就く
- 一、大藏省が立案中の國際汽船整理愈決定
- 一、十日からセネバに於て第十三回國際勞働會議開催
- 一、勞働保險調查會で船員保險案承認
- 一、國際汽船は大藏省の整理案に基き八千萬圓の資本金を四千萬圓に減資
- 一、郵船會社は社内重役を異動した大谷氏副社長渡還清水及小松原三氏専務に就任

十一月

- 一、國際貸借審議會は船舶金融案を決定し政府に答申

一月

- 一、南京政府は國營海運業の立案民間海運業補助の二大方針を決定した
 - 一、政府は一月十一日を以て多年の懸案であつた金の輸出禁止を解除した
 - 一、乗組海員の給料支拂不能から遂に本船を差押へ競賣に附する事件がハドソン丸に實現結局任意賣船に解決
 - 一、國際汽船新造船二隻は川崎と浦賀兩造船へ注文決定
 - 一、帝國議會は二十一日解散
- 二月
- 一、米國政府は郵便航送補助七百弗を計上し下院通過
 - 一、北洋材初航積取九十五圓にされた
 - 一、若槻禮次郎主席全權以上出席倫敦海軍縮會議開會さる
 - 一、船舶職員法施行細則を二月十五日公布五月十日から實施

【海事通覽】

- 一、世界動力會議は東京に開催
- 一、日清汽船社長森辨治郎氏辭任深尾隆太郎氏就任
- 一、明治海運は大英斷で五百萬圓の資本金を三百萬圓に減資

十二月

- 一、帝國海事協會に十八日三十周年祝賀會を開催
 - 一、米國大統領フーヅア氏は二億弗の豫算で巨船三十隻の建造案發表
 - 一、播磨船渠は今回獨立して株式會社播磨造船所を設立
- 海事資源調査規則發布一日實施
- 大連埠頭完成
- 社會政策審議會は勞働組合法案を決定答申
- 海運界極度の不審に海員減給案提唱
- 世界造船界の研究であつた鉄なし造船が海軍省に於て驅逐艦漣に實施
- 神戸東京兩船主會は提携して北洋材運賃百四十圓以上を協定し先物契約を一月廿五日迄に決議した

三月

- 一、總選舉の結果海事關係議員は僅に勝田、若宮、山本(平)、山本(厚)、板谷、中橋、内田、福田、中谷及佐々木諸氏が當選した
 - 一、隆洋丸は横濱出帆バンクバーへ向け北氷洋アリユーシヤン群島附近に於て舵を失ひ假舵で二千哩難航を繼續し安全を得た世界的レコードを作る
 - 一、政府獎勵の砂鐵埋藏量百億噸の精銑方法が三菱製鐵の向山福田兩技師により發見さる
- 我造船界の權威海運造船中將男爵近藤基樹氏逝去
- 日本海員組合は國際運輸勞働聯盟に加盟した
- 北洋材運賃維持のための國際、三井、山下、太平洋運、川崎の五社に於て北洋打プール組織さる
- 渡運不況對策として山下、川村及黒川諸氣發起で船主組合(強制)設立が決議され具體案の大綱を決定した
- 國際船主會議倫敦に國際共通の吃水線設定に賛成を決議した
- 北洋材第一船能登呂丸及伏見丸十九日大泊向け小

【海事通覽】

樽出帆

- 一、大西洋の快速巨船オイロバ號十五日プレーメンハフィン出帆大西洋處女航に上る

四月

- 一、日本瓜哇同盟協定成立
- 一、白城山下汽船常務辭任山下太郎氏就任
- 一、大阪商船南米移民船ヴェノスアイルス丸處女航に上る
- 一、郵船會社は社内の刷新と緊張を圖るため職制改正と支店長並に副長以下の大更迭を發表
- 一、日清汽船社長恩田氏辭任し森辨治郎氏就任した
- 一、日本郵船は三步減の五步配當案を決定

五月

- 一、日本海員組合は例年通り八日正副組合長選舉（重任）並に大會を開催
- 一、大阪鐵工所は參事技師課長級以下社員の更迭淘汰の大整理を發表
- 一、船舶金融法案議會通過
- 一、船主組合法案は衆議院委員會通過

- 一、郵船シヤトル航路優秀船第一船水川丸十二日横濱出帆處女航海に上る
- 一、逓信省は宮崎管船局長辭職廣幡氏就任を動機に局課抜の大更迭發表

六月

- 一、船舶金融補助制度一日實施
- 一、燈臺局長に安光元一氏任命
- 一、勝田汽船の海久丸（巨船）二十三日神戸港に繋船した
- 一、海員失業問題起り海員協會海員組合は授産場案其他失業對策に奔走
- 一、北海道主要物産に對する海上保險プール成立
- 一、石原海運は保險協同會との交渉斷絶遂に倫敦會社と直接契約を締結した
- 一、大阪商船大阪鐵工所兩社は無配當を發表した
- 一、共同繋船問題起り船主協會の議となる
- 一、無線技師の標準組料創案愈二十三日の委員會に提出特別委員に委託
- 一、海運關係株慘落し郵船三十二圓商艦十八圓五十錢川崎三圓六十錢大阪鐵工所十二圓五十錢に低落（何れも拂込濟）

法
例

【海事通覽】

榜出帆

- 一、大西洋の快速巨船オイロ、號十五日ブレインメンハ
フニン出帆大西洋處女航に上る

四月

- 一、日本瓜哇同盟協定成立
- 一、白城山下汽船常務幹任山下太郎氏就任
- 一、大阪商船南米移民船ゾエノスアイレス丸處女航に
上る
- 一、郵船會社は社内の刷新と緊張を圖るため職制改正
と支店長並に副長以下の大更迭を發表
- 一、日清汽船社長恩田氏辭任し森幹治郎氏就任した
- 一、日本郵船は三步減の五歩配當案を決定

五月

- 一、日本海員組合は例年通り八日正副組合長選挙を重
任一並に大會を開催
- 一、大阪鐵工所に參事技師課長級以下社員の更迭淘汰
の大整理を發表
- 一、船主組合法案は衆議院委員會通過
- 一、船主組合法案は衆議院委員會通過

- 一、郵船シヤトル航路後秀船第一船水川丸九十二日横濱
出帆處女航海に上る
- 一、逓信省は宮崎管船局長藤廣福氏就任を動機に局
課級の大更迭發表

六月

- 一、船主組合補助制度一日實施
- 一、燈臺局長に安光元一氏任命
- 一、勝田汽船の海久丸巨船二十三日神戸港に繋船し
た
- 一、海員失業問題起り海員協會海員組合は授産場案共
他失業対策に奔走
- 一、北海道主要物産に對する海上保險マール成立
- 一、石原海運は保險協同會との交渉断絶遂に倫敦會社
と直接契約を締結した
- 一、大阪商船大阪鐵工所兩社は無配當を發表した
- 一、共同繋船問題起り船主協會の議となる
- 一、無線技師の標準租料創案愈二十三日の委員會に提
出特別委員に委託
- 一、海運關係株修落し郵船三十二圓商船十八圓五十錢
川崎三圓六十錢大阪鐵工所十二圓五十錢に低落、何
れも拂込濟

法
例

露光量違いの為重複撮影

法例抜萃

船舶法

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員ガ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス
 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本國旗ヲ掲グルコトヲ得ス

第三條 日本船舶ニ非サレハ不問港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若シハ條約ニ別段ノ定ムルトキ、海難若シハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ非ラズ

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス
 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得
 外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得
 第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ニ定メタル登録ヲシタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス
 第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、吃水ノ尺度

【法例抜萃】

索引

船舶法	三	船舶職員試驗規程	九七
同 施行細則	三	船舶職業紹介法	九八
船舶積量測度法	六	同 施行規則	九八
同 規程	七	海事協同會規約	一〇一
船舶滿載吃水線法	七	水先法	一〇三
同 施行細則	七	同 施行規則	一〇三
船舶検査法	七	海員懲戒法	一〇七
同 施行細則	七	海上衝突豫防法	一〇八
船舶職員法	八	船舶通報規則	一一〇
同 施行細則	八	開港港則	一一一
船員最低年齢法	九	海商法(第五編)	一一三
船舶職員法	九	船舶無線電信施設法	一一四
同 施行細則	九		

法例拔萃

船舶法

- 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
- 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
 - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
 - 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
 - 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員ガ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
- 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス
- 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

【法例拔萃】

- 第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ非ラス
- 第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス
- 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得
- 外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得
- 第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
- 前項ニ定メタル登録ヲナシタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス
- 第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、吃水ノ尺度

索引

船舶法	三	船舶職員試驗規程	九七
同 施行細則	三	船舶職業紹介法	九八
船舶積量測度法	六	同 施行規則	九八
同 規程	七	海事協同會規約	一〇一
船舶滿載吃水線法	七	水先法	一〇三
同 施行細則	七	同 施行規則	一〇三
船舶検査法	七	海員懲戒法	一〇七
同 施行細則	七	海上衝突豫防法	一〇八
船舶職員法	九	船舶通報規則	一一〇
同 施行細則	九	開港港則	一一一
船舶職員法	九	海商法(第五編)	一一三
同 施行細則	九	船舶無線電信施設法	一一四

【法例 拔萃】

其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ得ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船

舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲グル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一ヶ月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲サ、ルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 日本船舶ニアラスシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情状重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但シ捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハコノ限りニアラス日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニアラサル旗章ヲ掲ケタルトキ又前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情状重キトキハ其

【法例 拔萃】

船舶ヲ沒收ス(以下罰則規定ハ省略)

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニアリテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

船舶法施行細則

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラス之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條 淺濠船ハ推進器ヲ有セサレハ之ヲ船舶ト看做サス

第二條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

一 肋骨ヲ有スル船舶

二 機械力ヲ以テ運航スル装置ヲ有スル船舶

三 日本型ニアラサル帆裝ヲ有スル船舶

【法例 拔萃】

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ハ石數ヲ以テ積量ヲ表
示スヘシ

第三條 船舶港ハ市町村ノ名稱ニ依ル但シ市制町村制
ヲ施行セサル地方ニアリテハ市町村ニ準スヘキ區畫
ノ名稱ニ依ル

船舶港トナスヘキ市町村及之ニ準スヘキ區畫ハ船舶
ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ノ受有前ト雖
モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコ
トヲ得

一 試運轉ノトキ

二 積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ

三 正當ノ事由アルトキ

第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度
ヲ申請セントスル者ハ附錄第一號書式ノ申請書ヲ管
海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキハ前項ノ申
請書ノ外造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名
ヲ證スル書面ヲ差出サシムルコトヲ得

量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

第十條第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項
ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付
スルトキハ同時ニ船舶積量測度表ノ謄本ヲ交付スヘ
シ

前二項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ
謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ
該謄本ヲ申請書ニ添付スヘシ

第三章 船舶ノ登録

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登
録ヲ爲スニハ申請書ニ登録ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官
廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルト
キハ關係書類ヲ調査シ總噸數百噸以上ノ汽船及總噸
數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項
ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類

【法例 拔萃】

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セントスル船
舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線
縱截面圖及各甲板平面圖ヲ差出サシムルコトヲ得

第八條ノ二 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ
改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケント
スル部分及改測ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントス
ル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 積量ノ測度又ハ改測ハ船舶検査施行地ニ於テ
之ヲ行フ但シ船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事
由ニ依リ船舶ヲ検査施行地マデ航行セシムルコト能
ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ
此限リニ在ラス

外國ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ヲ行フ場所ハ當該官
廳之ヲ指定ス

第十三條 外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ行
ヒタル場合ニアリテハ當該官廳ハ運滯ナク船舶港ヲ
管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造
スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積

四 船名

五 籍港

六 甲板ノ層數

七 船質

八 帆船ノ帆裝

九 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後
面ニ至ル長

十 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅

十一 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上
甲板梁ノ上面ニ至ル深

十二 總噸數

上甲板下ノ噸數

上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

船首樓ノ噸數

船橋樓ノ噸數

船尾樓ノ噸數

甲板室ノ噸數

艙口ノ超過噸數

機關室ノ噸數

其他ノ場所ノ噸數

【法例 拔萃】

- 十三 控除噸數
 - 船員常用室ノ噸數
 - 荷足水艙ノ噸數
 - 機關室ノ噸數
 - 帆船ノ帆庫ノ噸數
 - 其他ノ場所ノ噸數
 - 十四 登簿噸數
 - 十五 汽機ノ種類及數
 - 十六 推進器ノ種類及數
 - 十七 造船地
 - 十八 造船者
 - 十九 進水ノ年月
 - 二十 原名
 - 二十一 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ特分
- 總噸數百噸未滿ノ汽船及前項ノ帆船以外ノ帆船ニシテ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノニ在リテハ前項第一號乃至第十一號第十四號乃至第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス
- 一 總噸數

- 上甲板下ノ噸數
 - 上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數
 - 二 控除噸數
 - 船員常用室ノ噸數
 - 機關室ノ噸數
 - 其他ノ場所ノ噸數
- 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第一項第一號第三號乃至第五號第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス
- 一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
 - 二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅
 - 三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深

三 所有者ニ於テ船舶ノ名稱ノ爲ニ著シキ不便ヲ受クルトキ

- 第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶原簿ヲ閉鎖ス
- 船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登錄ノミヲ謄寫ス
- 乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登錄ヲ移ス
- 第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添付シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ
- 前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若クハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十七條 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ抹削ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタルコトヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添ヘ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ

【法例 技 萃】

之ヲ差出スヘシ

- 第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得
- 第四章 船舶國籍證書
 - 第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ノ二ニ依リ船舶ノ登錄ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス
- 第五章 國旗及船舶ノ表示
 - 第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲ケシ
 - 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
 - 二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ
 - 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
 - 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
 - 五 法例ニ別段ノ定メアルトキ
- 第四十四條 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ表示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ
 - 一 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ

【法 例 拔 萃】

- 船名及船籍港名ヲ四吋以上ノ國字ヲ以テ記スル事
 - 二 中央ノ船梁ニ船梁ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘着スルコト
 - 三 船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ喫水ヲ示ス爲メ船底ヨリ最大喫水線以上ニ至ルマテ一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致セシムルコト
 - 四 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除シタル室及場所ニハ見易キ所ニ室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スコト
- 特殊ノ構造ヲ有スル爲メ前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ付テハ検査官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ表スルコトヲ得
- (第四十五條以下略ス)

第六章 登 簿 稅

第四十八條 登錄稅法ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登錄稅納付書ヲ登錄ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

- トス但シ左ニ掲グル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノ、噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス
 - 一 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所
 - 二 機關室、操舵室、賄室及出入口室
 - 三 採光通風ニ要スル場所及便所
 - 四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲グルモノニ準スヘキモノト認ムル場所
- 前項ニ掲グル機關室ノ噸數ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルコトヲ得
- 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ噸數ニ舷端以上截圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス
- 第四條 總噸數ヨリ左ニ掲グル場所ノ噸數ヲ控除シタルモノヲ登簿噸數トス但シ總噸數ニ算入セサル場所ノ噸數ハ之ヲ控除セス
- 一 船員常用室及海圖室
 - 二 荷足水艙
 - 三 機關室

【法 例 拔 萃】

- 一 第十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第一號
 - 二 船籍港以外ノ登錄事項ノ變更ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號
 - 三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號
 - 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第二號
- (第四十八條以下略ス)

船舶積量測度法

- 第一條 船舶ノ積量ハ百立方「フット」ヲ以テ一噸トシ之ヲ測度ス
- 第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ量噸甲板トス
- 第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及上甲板截圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス

- 四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所
 - 五 水夫長倉庫
 - 六 帆船ノ帆庫
 - 七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲グルモノニ準スヘキモノト認ムル所
- 第六條 登簿噸數ノ算定ニ付機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スベキ噸數ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム
- 一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十七
 - 二 前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ四分ノ三外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得

【法例 拔萃】

前項ノ規定ニ依リ算定シタル噸數カ登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スベキ機關室以外ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ減シタル噸數ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スベキ帆庫ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ二十五ニ止ム

第八條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘキ船舶ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トシ之ヲ測度シ回漕船ニ在リテハ船梁上下船艙ノ石數、其ノ他ノモノニ在リテハ艙端以下ノ船艙ノ積石數トス

第九條 積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

〔參考〕 船舶積量測度法互認國(英、米、丁、獨、瑞、露、蘭の諸國)

船舶積量測度規定

第一條 長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ尺ヲ以テ單位トシ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ尺ヲ以テ

量噸甲板ノ長

等分數

五十呎以下

四

五十呎ヲ超エ二百二十呎以下

六

百八十呎ヲ超エ二百二十呎以下

八

百八十呎ヲ超エ二百二十呎以下

十

二百二十五呎ヲ超ユルモノ

十二

第五條 分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ニ應ジ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及上下兩端ノ點ヲ謂フ

等分數

量噸甲板ノ長

ノ中央ニ於ケル分長點ノ深

二重底内底板力

其他ノ場合

十六呎以下

五

十六呎ヲ超ユルモノ

七

副分深點ト稱スルハ二重底内底板力凹面ナル場合ニ於テ最下ノ分深點間隔ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

(六條以下省略)

船舶滿載吃水線法

第一條 日本船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外本法ニ

【法例 拔萃】

單位トシ單位以下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ但分長點及分深點ノ間隔ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ四位以下ハ四捨五入スヘシ面積、容積及噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入シ石數ハ算定スルニハ單位ニ止メ單位下ハ四捨五入スヘシ

第二條 量噸甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板上ニ沿ヒ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ艙側板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離

第三條 分長點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示スヘシ

一 船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶

二 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限トスル船舶

三 總噸數百噸未滿ニシテ近海航路ヲ航路定限トスル帆船

四 漁獵、曳船、海難救助、渡漈又ハ測量ニノミ從事スル船舶其他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認メタル船舶

第二條 滿載吃水線ノ指定ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ヲ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ之ヲ受ケヘシ

本法施行地ニ於テ製造スル船舶ハ製造中ト雖モ滿載吃水線ノ指定ヲ受クルコトヲ得

第四條 滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示シタル船舶ニハ船舶滿載吃水線證書ヲ交付ス

第九條 主務大臣ノ認定シタル船級協會ニ於テ本法及本法ニ基ク規程ニ準據シ滿載吃水線ヲ指定シ船舶滿載吃水線證書ヲ發給シタルトキハ其ノ證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス

【法例拔萃】

第十二條 主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶
滿載吃水線證書ヲ受ケサル船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又
ハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行シ若シクハ航
行セントスルトキハ船長又ハ之ニ代リテ其職務ヲ行
フ者ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶滿載吃水線法施行細則

第一條 水先案内船及石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶
ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セス
第二條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶カ修繕、自然衰
耗其他ノ事由ニ依リ滿載吃水線ヲ變更スヘキ必要ヲ
生シタルトキハ再指定ヲ受ケヘシ
第三條 船舶滿載吃水線規程ニ掲クル冬期季節ノ航海
又ハ熱帶若ハ冬期北大西洋ノ航路ノ航海ヲ爲ス船舶
ハ淡水中ニ於テハ同規程ニ依リ限度迄當該季節又ハ
航路ノ海水ニ對スル滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ
航行スルコトヲ得
第四條 汽船ハ河川又ハ内海ニ於テハ滿載吃水線ノ標
示又ハ前條ノ限度ニ相當スル吃水線ヲ超エ外海ニ達

スル迄ニ消費スヘキ燃料ト同一重量ノ旅客又ハ貨物
ヲ積載シタル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得
前項ノ内海ハ日本ニ於テハ船舶検査法施行細則ニ定
ムル沿海航路ノ區域内トス

第五條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶滿載吃水線證書
ヲ受ケサル船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得
一 船舶検査法施行細則第三十二條第一項第二號乃
至第四號第七號及第八號並第三十三條ニ該當スル
トキ
二 船舶滿載吃水線法第一條各號ノ船舶カ船舶検査
施行地外ニ於テ滿載吃水線ノ指定ヲ受ケヘキモノ
ト爲リタル場合ニ於テ指定ヲ受ケル爲之ヲ検査執
行地迄回航セシムルトキ
三 滿載吃水線ノ一部ノ指定ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘
ノ指定ヲ受ケル爲工場所在地又ハ検査執行地迄回
航セシムルトキ
四 第十八條ノ規定ニ依リ指定ノ引繼又ハ囑託ヲ爲
ス場合ニ於テ他ノ管海官廳ノ管轄區域内迄船舶ヲ
回航セシメ且囑託ノ場合ニ於テハ囑託ヲ爲シタル
管轄區域内迄更ニ回航セシムルトキ

五 第二十八條ノ規定ニ依リ船舶滿載吃水線證書ノ
再交付ヲ申請シ未タ其ノ交付ヲ受サル時
六 正當ノ事由ニ依リ管海官廳ノ許可ヲ受ケタル片
〔參考〕
船級協會(帝國海事協會、ロイド船級協會)
滿載吃水線互認國(蘭、英、濠、白、獨、佛)

船舶検査法

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此ノ
法律ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケヘシ
一 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ帆船
二 端舟其ノ他櫂權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ
櫂權ヲ以テ運轉スル舟
三 倉庫船、繫留船
四 平水航路ノミヲ航行スル帆船
第二條 (削除)
第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航
行ノ用ニ供スルトキ、其ノ航行期間滿了ノトキ及航
行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

【法例拔萃】

日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ日本ニ於テ製造ス
ル船舶ノ所有者ハ其ノ製造中ト雖モ一部ノ検査ヲ申
請スルコトヲ得
第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一
箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス
第五條 船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳
之ヲ行フ
遞信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ限り前項ノ規定ニ依
ラス特ニ検査官吏ヲ指定シテ船舶ノ検査ヲ行ハシム
ルコトヲ得

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ遞信大臣ノ定ムル検査
規定ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限
旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ
船舶検査證書ヲ交付スヘシ
第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ
船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムト
スルトキハ検査官吏ハ其ノ申請ニ依リ假證書ヲ交付
シテ之ヲ許可スルコトヲ得
第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ檢
査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止

【法例 拔萃】

スルコトヲ得
(第九條以下略ス)

船舶検査法施行細則

第一條 本則ノ規定ハ特ニ明文アル場合ヲ除ク外外國船舶検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ行フヘキ外國船舶ニモ亦之ヲ適用ス

第二條 本則ニ於テ船舶ト稱スルハ前條ニ掲ケタル外國船舶ヲモ包含ス

本則ニ於テ旅客船ト稱スルハ十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶ヲ謂フ

本則ニ於テ漁船ト稱スルハ漁獵ノミニ從事スル船舶及ヒ専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其他製品ヲ運搬スル船舶ヲ謂フ

本則ニ於テ移民船ト稱スルハ日本ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海航路外ノ港又ハ別ニ定ムル地方ニ運送セントスル船舶ヲ謂フ

外國船舶検査規則第一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條ノ二 關東州船舶特殊検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル船舶ハ船舶検査法ニ定ムル検査ヲ受ケタルモノト看做ス

關東州船舶特殊検査規則ノ規定ニ依リ交付セラレタル證書ヲ有スル船舶ハ其ノ證書ノ有効期間内ニ限り船舶検査法及本則ニ定ムル證書ヲ受有セスシテ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

第三條 船舶ノ検査ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 特別検査
 - 二 定期検査
 - 三 臨時検査
 - 四 移民船検査總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船及淺濶船ニ對シテハ前項第一號ノ検査ヲ行ハス
- 第四條 初メテ特別検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ
- 一 日本船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セントスルトキ
 - 二 船舶検査法第十七條第一號若ハ二號ニ掲クル外國船舶ヲ同號ノ航路ニ使用シタルトキ
 - 三 船舶検査法第一條各號ノ船舶カ同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケヘキモノト爲リタルトキ

四 前條第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受ケヘキモノト爲リタルトキ船舶検査法第三條第二項ノ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於ケル特別検査ノ一部ヲ行フ

第五條 管海官廳ハ進水後二年ヲ經過セサル船舶ノ特別検査ヲ第一回定期検査ニ於テ定メラレタル航行期間滿了マテ猶豫スルコトヲ得

第三條第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受ケヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り該船舶ノ現ニ有スル航行期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條ノ二 船舶検査法ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケタル船舶カ検査ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲リタル後再ヒ検査ヲ受ケヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り前ニ受ケタル特別検査ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

特別検査ヲ受ケタル船舶第三條第二項ニ掲ケタル船舶トナリタル後再ヒ特別検査ヲ受ケヘキモノト爲リタルトキ又ハ特別検査ヲ受ケタル船舶カ國籍ヲ變更

【法例 拔萃】

シタルモ引續キ船舶検査法ノ適用ヲ受ケヘキトキ亦

前項ニ同シ

第五條ノ三 旅客船ニ非サル船舶ニシテ遞信大臣ノ認可シタル船級協會ニ於テ船舶検査法ノ規定ニ依リ特別検査ト同一程度ノ検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

船舶検査法第十七條第一號ニ掲ケタル外國船舶ニシテ其ノ所屬國政府ノ特別検査又ハ遞信大臣ニ於テ相當ト認ムル船級協會ノ特別検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り其ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

第七條 特別検査ハ其ノ有効期間内ト雖モ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ申請アルトキハ其ノ期間ヲ繰上ケ之ヲ行フコトヲ得

第八條 定期検査ハ船舶ノ航行期間ヲ定メントスルトキ之ヲ行フ

前項ノ規定ハ船舶カ其航行期間内ニ定期検査ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ定期検査ノ繰上ヲ認許シタルトキ

【法例 拔萃】

ハ船舶ノ航行期間ハ其滿了前ト雖モ滿了シタルモノト看做ス

第九條 臨時検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ

- 一 船舶検査法第三條第一項ノ規定ニ依リ検査官吏ニ於テ検査ヲ爲スノ必要アリト認めタルトキ
- 二 第三十四條、第五十六條、第六十三條、第六十四條若ハ第七十一條第三項ノ規定ニ依ル申請、第六十六條ノ二第一項ノ規定ニ依ル請求又ハ第七十五條ノ規定ニ依ル届出アリタル場合ニ於テ管海官廳カ検査ヲ爲スノ必要アリト認めタルトキ

第十四條 船舶検査申請書ニハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及ヒ總噸數若クハ積石數
- 二 所有者ノ住所氏名若クハ名稱
- 三 船籍港
- 四 船長ノ氏名及ヒ其ノ海技免狀ノ種類
- 五 航行セントスル航路
- 六 業務種類(漁船ニアリテハ)
- 七 検査ヲ受ケントスル期日及ヒ場所

八 検査ノ種類及其ノ申請ノ事由

第十五條 船舶検査法第三條第二項ノ規定ニ依リ製造中ノ船舶ノ検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者ハ申請書、製造仕様書及ヒ圖面ヲ製造地ヲ管轄スル管海官廳ニ差出スヘシ但シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ圖面ヲ差出スヲ要セス

前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人署名捺印シ船舶所有者ト製造者ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ連署スヘシ

- 一 船舶ノ種類及ヒ豫定ノ資格
- 二 外板及ヒ船骨ノ材料
- 三 計畫積量
- 四 計畫汽壓
- 五 計畫實馬力
- 六 汽機ノ種類及ヒ數
- 七 汽罐ノ種類及ヒ數
- 八 推進器ノ種類及ヒ數
- 九 使用ノ目的
- 十 使用ノ航路
- 十一 製造所ノ名稱及其所在地

三 擔任技師ノ氏名

三 起工ノ年月

圖面ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ

- 一 船體中央線縱截面圖
 - 二 船體中心線縱截面圖
 - 三 甲板平面圖
 - 四 汽機縱截面圖
 - 五 汽機橫截面圖
 - 六 汽罐縱截面圖
 - 七 汽罐橫截面圖
- 第十七條 船舶ノ検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但シ申請人検査執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ説明シタルトキハ検査執行地外ニ於テ検査ヲ受クルコトヲ得

第二十一條 検査官吏検査ノ爲メ船舶ニ臨檢シタルトキハ船長ハ船舶國籍證書若ハ假船舶國籍證書、登簿

船免狀、船鑑札又ハ船舶検査證書、假證書、船舶職員ノ海技免狀、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿其ノ他検査ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

【法例 拔萃】

第二十四條 検査官吏検査ヲ行フニ當リ必要ナリト認めタルトキハ検査ヲ結了スルマテ船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書又ハ臨時旅客定員證書ヲ領置スルコトヲ得

第二十六條 船舶検査證書ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種船舶検査證書ハ定期検査ヲ行ヒタル時又ハ該證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ之ヲ交付シ乙種船舶検査證書ハ移民船検査ヲ行ヒタルトキ之ヲ交付ス

漁船ニハ甲種船舶検査證書ニ代ヘテ漁船検査證書ヲ交付ス

第三十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 船舶カ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ適航證書ヲ受有スルトキ

二 船舶検査執行地外ニ於テ製造セラレ若ハ國籍ヲ取得シ其ノ他検査ヲ受クヘキモノト爲リタル船舶ヲ船籍港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受クル爲メ該船舶ヲ最寄管海官廳所在地若ハ検査執行地マテ回

【法 例 拔 萃】

- 航セシムルトキ
- 三 船舶法施行細則第四條各號ニ該當スルトキ
- 四 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書有効期間内ニ於テ内地ノ港マテ回航スルトキ
- 五 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書ノ有効期間内ニ於テ内地各港間、内地ト臺灣トノ間又ハ内地ト外國トノ間ヲ航行セントスルトキ
- 六 臺灣ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書ノ有効期間内ニ於テ船舶検査法第十七條ノ場合ニ該當スルトキ
- 七 管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又ハ繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲メ之ヲ回航セシムルトキ
- 八 管海官廳ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ノ沿岸又ハ其ノ湖川港内ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地マテ回航セシムルトキ
- 前項第二號、第三號、第七號又ハ第八號ノ場合ニハ

船舶ニ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ス

- 第一項第五號又ハ第六號ノ船舶カ旅客船ナル場合ニ於テ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ旅客及ヒ旅客室ニ關スル設備ヲ検査シ本則及ヒ船舶検査規程ノ規定ニ依ラシムルトコトヲ得
- 第三十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶検査證書又ハ假證書ニ記載スル航路定限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得
- 一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得サル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國マテ回航セシムルトキ
- 三 臺灣ニ船籍港ヲ變更スル爲メ船舶ヲ該島マテ回航セシムルトキ
- 四 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲メ工場所在地マテ且工場所在地ヨリ検査執行地マテ船舶ヲ回航セシムルトキ
- 四ノ二 管海官廳所在地外ノ場所ニ於テ一部ノ検査ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘ノ検査ヲ受ケル爲メ管海官廳所在地マテ回航セシムルトキ

- 五 第二十五條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ引繼又ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ノ管轄區域内マテ更ニ回航セシムルトキ
- 六 航路定限内ノ地ハ検査執行地ナキ場合ニ於テ検査ヲ受ケル爲メ船舶ヲ検査執行地マテ回航セシムルトキ
- 七 航行期間満了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間満了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受ケル爲メ船舶ヲ航路定限内ノ検査執行地マテ回航セシムルトキ
- 八 航路定限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路定限内マテ回航セシムルトキ
- 九 航路定限變更ノ爲メ船舶ヲ航路定限外ニ回航セシムルトキ
- 十 海難救助其ノ他管海官廳ニ於テ已ムヲ得サル事由アルモノト認ムル場合ニ限リ一時船舶ヲ航路定限外ニ回航シ再ヒ航路定限内ニ回航セシムルトキ
- 第三十六條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ヨリ歸航ノ途中ニ在ル船舶カ内地以外ノ地ニ於テ航行期間満了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間満了スヘキ場合ニ於テ之ヲ内地ノ到達港マテ回航セントスルトキハ船

【法 例 拔 萃】

- 長ハ外國ニ在リテハ最寄帝國領事ニ其ノ他ノ地方ニ在リテハ當該管海官廳ニ其ノ認可申請ヲスヘシ但シ外國ニ在リテハ相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス
- 第三十六條ノ二 遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス船舶カ航行期間満了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間満了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受ケル爲メ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於ケル目的港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受ケル爲メ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於ケル陸揚港ヲ經テ内地ノ目的港マテ回航セシメントスルトキハ検査申請人ハ事由ヲ具シタル書面ヲ差出シ最寄管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ
- 第四十五條 検査官吏検査ヲ結了シタルトキハ船舶検査手帳ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス
- 船舶検査手帳ハ船長ニ於テ之ヲ船内ニ保管スヘシ船舶検査手帳ハ検査官吏ニ於テ檢閲スル場合ヲ除外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ス
- 第四十八條 航路ヲ分チ左ノ四種トス

【法例拔萃】

- 一 遠洋航路 二 近海航路 三 沿海航路 四 平水航路
- 第四十九條 遠洋航路トハ内外國ノ各地ニ通スル航路ヲ謂フ
- 第五十條 近海航路トハ左ニ掲ケル各區内及ヒ各區ヲ併セタル區域内ヲ謂フ
- 第一區 東經百十三度ヨリ同百七十度及ヒ北緯二十一度ヨリ同六十三度ニ至ル線内
- 第二區 東經九十五度ヨリ同百七十五度及ヒ南緯十度ヨリ北緯二十七度ニ至ル線内
- 第五十一條 沿海航路トハ左ニ掲ケル各區内ノ航路ヲ謂フ
- 第一區 上總國大東埼ヨリ安房國野島埼、伊豆國新島及ヒ岬津島ヲ經テ遠江國御前埼ニ至ル線内
- 第二區 三河國伊良湖埼ヨリ志摩國大王埼、紀伊國大島及ヒ潮岬ヲ經テ土佐國甲ノ浦ニ至ル線内、紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内及ヒ淡路國潮埼ヨリ阿波國大磯埼ニ至ル線内
- 第三區 (削除)
- 第四區 紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内、淡路國潮埼ヨリ阿波國大磯埼ニ至ル線内、伊豫國

- 佐田岬ヨリ豐後國大島ヲ經テ鶴見埼ニ至ル線内及ヒ長門國觀音埼ヨリ筑前國岩屋埼ニ至ル線内
- 第五區 (削除)
- 第六區 伊豫國佐田岬ヨリ豐後國美濃埼ニ至ル線内及ヒ土佐國足摺埼ヨリ日向國内海ニ至ル線内
- 第七區 土佐國室戸埼ヨリ足摺埼ニ至ル線内
- 第八區 日向國內海ヨリ大隅國種子島、屋久島、口永良部島及ヒ黑島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内
- 第九區 薩摩國野間岬ヨリ甌島及ヒ列肥前國野母埼ヲ經テ三重埼ニ至ル線内
- 第十區 肥前國野母埼ヨリ五島列島及ヒ的山大島ヲ經テ平戸海峽ニ至ル線内
- 第十一區 肥前國野母埼ヨリ平戸島、生月島、壹岐島及ヒ對馬島ヲ經テ長門國觀音埼ニ至ル線内及ヒ豐前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内
- 第十二區 對馬島沿岸、對馬島北端ヨリ朝鮮蔚埼ニ至ル線内及ヒ對馬島南端ヨリ朝鮮鴻島ヲ經テ巨濟島コルベント島ニ至ル線内
- 第十三區 筑前國岩屋埼ヨリ長門國角島及ヒ見島ヲ經テ石見國温泉津ニ至ル線内及ヒ豐前國今津ヨリ長門

- 國本山鼻ニ至ル線内
- 第十四區 石見國温泉津ヨリ隱岐列島ヲ經テ因幡國賀露ニ至ル線内
- 第十五區 因幡國賀露ヨリ越前國三國ニ至ル線内
- 第十五區ノ二 越前國三國ヨリ能登國輪島埼ニ至ル線内
- 第十六區 能登國輪島埼ヨリ舩倉島及ヒ佐渡島ヲ經テ越後國新潟ニ至ル線内
- 第十七區 越後國新潟ヨリ佐渡島及ヒ羽後國飛島ヲ經テ酒田ニ至ル線内
- 第十八區 羽後國酒田ヨリ飛島及ヒ陸奥國久六島ヲ經テ深浦ニ至ル線内
- 第十九區 陸奥國深浦ヨリ渡島國小島ヲ經テ江良町ニ至ル線内及ヒ陸奥國尻矢埼ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内
- 第二十區 渡島國江良町ヨリ後志國奥尻島ヲ經テ茂津多岬ニ至ル線内
- 第二十一區 後志國茂津多岬ヨリ神威岬ヲ經テ積丹岬ニ至ル線内
- 第二十二區 後志國神威岬ヨリ積丹岬ヲ經テ天鹽國

- 留萌ニ至ル線内
- 第二十三區 天鹽國留萌ヨリ天賣島ヲ經テ天鹽ニ至ル線内
- 第二十四區 天鹽國天鹽ヨリ北見國利尻島及ヒ禮文島ヲ經テ宗谷岬ニ至ル線内
- 第二十五區 北見國知床岬ヨリ千島國國後島、色丹島、アキユリ島ヲ經テ根室國納沙布埼ニ至ル線内
- 第二十五區ノ二 根室國納沙布埼ヨリ落石埼及ヒ釧路國尻羽埼ヲ經テ十勝國大津ニ至ル線内
- 第二十五區ノ三 日高襟裳埼ヨリ擔振國苦小牧ニ至ル線内
- 第二十六區 擔振國苦小牧ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内
- 第二十七區 陸奥國八戸馬淵川口ヨリ陸前國金華山ヲ經テ花淵崎ニ至ル線内
- 第二十八區 大隅國奄美大島沿岸及ヒ奄美群島間
- 第二十九區 沖繩島沿岸及ヒ沖繩群島間
- 第五十二條 平水航路トハ湖川港内及ヒ左ニ掲ケル各區内ノ航路ヲ謂フ
- 第一區 相模國千駄埼ヨリ笠島ヲ經テ上總國富津ニ

【法例拔萃】

【法例拔萃】

- 至ル線内
- 第二區 駿河國三保崎ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内
- 第三區 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内
- 第三區ノ二 紀伊國駒崎ヨリ木地崎ニ至ル線内
- 第四區 紀伊國宮崎ヨリ加太浦ニ至ル線内
- 第五區 紀伊國友ヶ島水道及ヒ播磨國明石瀬戸以内
- 第六區 播磨國室津ヨリ小豆島大角鼻ヲ經テ讃岐國小田鼻ニ至ル線内及ヒ讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内
- 第七區 讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内及ヒ伊豫國梶取崎ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内
- 第八區 伊豫國梶取崎ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内及ヒ伊豫國三津濱ヨリ周防國屋代島手郡島ヲ經テ下ノ關ニ至ル線内
- 第八區ノ二 周防國島田川東岸ヨリ笠戸島崎ヲ經テ向島翁崎ニ至ル線内及ヒ向島元ヶ鼻ヨリ周防國西泊崎ニ至ル線内
- 第九區 豐後國地藏崎ヨリ美濃崎ニ至ル線内
- 二、豐後國地藏崎ヨリ沖無垢島ヲ經テ保戸島ニ至ル線内

ル線内

- 三、豐後國保戸島ヨリ大島ヲ經テ鶴見崎ニ至ル線内
- 第十區 豐前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内及ヒ筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻ニ至ル線内
- 二、長門國青海島ノ東端ヨリ虎ヶ崎ニ至ル線内及ヒ青海島ノ西端ヨリ今岬ニ至ル線内
- 第十一區 筑前國西浦三崎ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内
- 第十二區 筑前國鹿家崎ヨリ肥前國神集島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内
- 第十三區 對馬國唐洲崎ヨリ郷崎ニ至ル線内
- 第十四區 肥前國津崎ヨリ鷹島ヲ經テ值賀崎ニ至ル線内
- 第十五區 肥前國向後崎ヨリ番所崎ニ至ル線内
- 第十六區 肥前國七郎崎ヨリ黒島ヲ經テ平戸島坊ヶ崎ニ至ル線内及ヒ肥前國大瀬崎ヨリ平戸島魚見崎ニ至ル線内
- 第十七區 肥前國野母崎ヨリ三重崎ニ至ル線内

第十八區 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島崎ニ至ル線内

第十九區 肥後國天草島牛深港及ヒ黒瀬戸以内

第二十區 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内

第二十區ノ二 隱岐國島前中井口、木路口及ヒ赤灘口以内

第二十一區 出雲國地藏崎ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内

第二十二區 丹後國鷺崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内

第二十三區 越前國立石崎ヨリヲカ崎ニ至ル線内

第二十四區 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内

第二十五區 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内

第二十六區 陸前國花淵崎ヨリ宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内

第二十七區 渡島國函館山尾花崎ヨリ葛登支岬ニ至ル線内

第二十八區 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内

第二十九區 後志國高島岬ヨリカムイコタンニ至ル線内

【法例拔萃】

第三十區 釧路國尻羽岬ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内

第五十三條 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サントスル船舶ハ第五十一條又ハ第五十二條ニ掲ケタル區域中相連續スルモノニ限リ旅客船ニ在リテハ二區ヲ併セ旅客船ニ非サルモノニアリテハ二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得

第六十九條 船舶ノ汽壓制限ハ検査官吏ニ於テ機關ノ現狀ニ應シ船舶検査規定ニ依リ之ヲ定ム

第七十二條 船舶ノ航行期間ハ船舶ノ現狀ニ應シ船舶検査法第四條ノ規定ニ依リ検査官吏之ヲ定ム

第七十五條 船舶ノ航行期間内ニ於テ左ニ掲ケル一ニ該當スルトキハ船舶所有者船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ其ノ旨管海官廳ニ届出ツヘシ

一 船舶ヲ入渠若ハ上架セントスルトキ

二 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修繕變更セントスルトキ

三 汽機、發動機若ハ汽罐ヲ取放シタルトキ又ハ螺絲軸ヲ拔出シタルトキ

【法例拔萃】

船員法

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、
 港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケ
 タル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員
 トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第三條 日本ニ於テ船員トナラント欲スル者ハ管海官
 廳ニ船員手帳ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
 申請人ハ戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ
 事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄
 留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其他ノ管海官廳カ
 戸籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限リニ在ラス

一 氏名
 二 本籍地
 三 身分
 四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許
 可ヲ得ルコトヲ要ス
 未成年者カ船員手帳ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二

項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證ス
 ルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許可サレタル未成年者ハ雇
 傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シ
 タルトキハ其到着ノ日ヨリ一箇月内ニ船員手帳ノ交
 付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帳ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二
 項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二
 項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタ
 ルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月間内
 ニ管海官廳ニ船員手帳ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス
 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實
 ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到着
 シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場
 合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帳カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク
 更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帳カ滅

失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到着シタル後
 遲滞ナク船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ
 要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ
 場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帳ノ交付又
 ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海
 官廳ニ其船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス
 船員カ死亡シタルトキハ其船員手帳ヲ保管スル者之
 ヲ返還スルコトヲ要ス

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル
 者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ
 得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法
 第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコ
 トヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路
 ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板
 ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行

【法例拔萃】

スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタル
 トキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ
 其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港
 ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコ
 トヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航
 スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル
 港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
 三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ
 四 船舶カ捕獲セラレタルトキ
 五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄航シタルトキ又ハ前項第二
 號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルト
 キハ船長ハ其港ノ管海官廳若シ其港ニ管海官廳ナキ
 トキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シ
 テ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長

【法例拔萃】

ハ報告書ヲ作り其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危険アリタルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告グルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ此限リニ在ラス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由ニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申

當事者双方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帳ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帳ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帳ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帳ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ得

第三十五條 海員カ雇止期間中第九條又ハ第十條ノ規

【法例拔萃】

請スルコトヲ得

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者双方ニ讀聞カセタル後之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アル時ハ當時者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其ノ事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ

定ニ依リテ船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

- 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ柔順ノ道ヲ失ヒタルトキ
- 二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
- 三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
- 四 海員カ喧爭シタルトキ
- 五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セザリシトキ
- 六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ
- 七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ
- 八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
- 九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ

【法例 拔萃】

- 十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
- 十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ
- 第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス
 - 一 監禁
 - 二 上陸禁止
 - 三 加役
 - 四 減給
- 第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス
- 上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス
- 加役ハ七日以下トシ常務時間ニ於テ役務ニ服セシム
- 但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス減給ハ給料月額十分ノ一以下トス
- 第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但シ二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス
- 第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得
- 第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ボスヘキ

行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ルモノニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得

第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四十六條以下(罰則)略ス

船員法施行細則

第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滞ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滞ナ

定ムル事項ヲ記載スヘシ

船員最低年齡法

第二條 十四歳未満ノ者ハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條ノ二 十八歳未満ノ者ハ石炭夫又ハ火夫トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

但シ十八歳以上ノ者ヲ雇入ル、コト能ハサル港ニ於テハ十六歳以上ノ者ニ限り之ヲ雇入レ使用スルコトヲ得

此場合ニ於テハ十八歳以上ノ者一人ニ代ヘ十六歳以上ノ者二人ヲ雇入ル、コトヲ要ス

專ラ日本各港間ヲ航行スル船舶ニ於テハ前項ノ規定ニ限ラス主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ者ヲ使用スルコトヲ得

第三條 十八歳未満ノ者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ船舶内勞働ニ適スルコトヲ證明シ且醫師ノ署名シタル健康證明書ヲ有スルニ非サレハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス但緊急已ムヲ得サル事由アルトキハ此限りニ在ラス

ク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日時、場所其ノ他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 豫定ノ船路ヲ變更シタルトキ
- 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
- 三 衝突其ノ他ノ海難ニ罹リタルトキ
- 四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ
- 五 船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルトキ
- 六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ
- 七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ
- 八 船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ
- 九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ
- 十 船中ニ於テ出生アリタルトキ
- 十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ
- 十二 前各號ニ掲グル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ
- 第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其下船後遲滞ナク旅客名簿ニ書式ニ

【法例 拔萃】

【法例拔萃】

船舶職員法 (昭和四年四月一日改正)

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ但シ船舶検査法第一條各號ニ掲ケル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長 丙種船長

甲種一等運轉士 丙種運轉士

甲種二等運轉士 機関長

乙種船長 一等機關士

乙種一等運轉士 二等機關士

乙種二等運轉士 三等機關士

通信大臣ハ海技免狀ノ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得

第五條 海技免狀ハ通信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ體格検査及學術試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ船舶ノ運航若ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ教授スル學校ノ所定ノ課程及練習ヲ卒リ通信大臣ニ於テ學術試験ニ合格スト認ムル者ニハ學術試験ヲ行ハスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船舶職員タルコトヲ得ス又前條ノ體格検査及學術試験ヲ受ケルコトヲ得ス

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄ノ者

三 癡癲、白痴、身體不具其ノ他精神又ハ身體ニ缺陷ヲ有シ執職ニ不適當ナル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

五 海技免狀ノ行使停止中ノ者

六 破産者ニシテ復權ヲ得サル者通信大臣ハ海技免

狀受有者ニシテ前項第三號ニ該當スルノ疑アルモノニ就キ管海官廳ヲシテ體格検査ヲ執行セシムルコトヲ得

第七條 左ニ掲ケル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設ケルコトヲ得

一 外國各港間ノミヲ航行スル船舶

二 漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶

三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第一號表(其ノ一)

船長及運轉士定員表

航路種類	航路水平		沿海航路		
	汽船	帆船	汽船	汽船	帆船
總噸數	五百噸未滿	千五百噸未滿	二百噸未滿	千噸未滿	千噸以上
船舶職員	長 乙種二等運轉士	長 乙種一等運轉士	長 乙種二等運轉士	長 乙種一等運轉士	長 丙種運轉士
免狀種類	乙種二等運轉士	乙種一等運轉士	乙種二等運轉士	乙種一等運轉士	丙種運轉士
定員	一	一	一	一	一

【法例拔萃】

遠洋又ハ近海		近海航路第一區					
帆船	汽船	汽船		帆船			
		帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船
二百噸未滿	千噸以上	千噸未滿	千噸未滿	千噸未滿	千噸未滿	千噸未滿	千噸未滿
船	船	船	船	船	船	船	船
長	長	長	長	長	長	長	長
丙種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士

【法例拔萃】

第二區	
船	
五百噸以上	一等運轉士 甲種 丙種 近海航路 （第二區） （限ル）
五百噸未満	一等運轉士 甲種 甲種 甲種 一等運轉士
二百五十噸以上	二等運轉士 甲種 甲種 二等運轉士
二百五十噸未満	二等運轉士 甲種 二等運轉士

備考 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數
十石ヲ以テ總噸數一噸ニ換算ス本表ノ定員ハ船長ヲ
除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス
(其ノ二) 機關長及機關士定員表

航路	機關公稱馬力	船舶職員	免狀種類	定員
沿路	五百馬力未満	機關長	二等機關士	一
沿路	三百馬力未満	機關長	三等機關士	一
沿路	二百馬力以上	一等機關士	二等機關士	一
沿路	二百馬力未満	同	二等機關士	一
沿路	七百馬力未満	同	同	一
沿路	四百馬力未満	機關長	三等機關士	一

近海第二區	客船	五馬力以上ノ旅客船	五馬力以上ノ旅客船	五馬力以上ノ旅客船
機關長	一等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
機關長	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
機關長	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
機關長	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士

備考 本表ノ定員ハ機關長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シ
タルモノトス

第二號表

總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
二百噸未満	機關長	三等機關士	一
千噸未満	機關長	二等機關士	一
千噸以上	機關長	一等機關士	一

第三號表

航路種類	船舶總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
汽	千噸以上	長乙種	長甲種	長甲種
	千噸未満	長乙種	長甲種	長甲種
近	千噸以上	長乙種	長甲種	長甲種
	千噸未満	長乙種	長甲種	長甲種

【法例拔萃】

路航海

近海航路第一區

遠洋又ハ	七馬力未満	七馬力以上	七馬力以上	七馬力以上	七馬力以上	七馬力以上	七馬力以上	七馬力以上	七馬力以上	七馬力以上
三千馬力未満	二等機關士	一等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
二千馬力未満	一等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
二千馬力以上	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
二千馬力以上	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
二千馬力以上	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
二千馬力以上	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
二千馬力以上	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
二千馬力以上	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士
二千馬力以上	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士	二等機關士

汽	帆	帆	帆	帆	帆	帆	帆
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種
長丙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種	長乙種

船舶職員法施行細則
第一章 海技免狀
第一條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ効力ニ制限ヲ
加ヘタル海技免狀及其ノ行使範圍ハ第一號表ヲ以テ

【法例拔萃】

之ヲ定ム

第二條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ遞信大臣ニ於テ學術試験ニ合格スト認ムル者及其ノ者ニ授與スベキ流技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス

船舶職員法第五條第三項ニ依リ授與スル海技免狀ハ小形船丙種運轉士免狀、小形船乙種二等運轉士免狀及小形發動機船三等機關士免狀ニ限ル

第三條 船舶職員ノ有スベキ海技免狀ハ上級ノモノヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

各海技免狀ノ階級ノ上下ハ第二號表ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 船舶職員法第九條ノ三ニ該當スル海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス

船舶職員

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメザルコトヲ得但シ第一號乃至第三號ニ付テハ船舶職員ヲ雇入レ難キ場合ニ限ル
一 外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ最終港迄回航スルトキ
二 外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員

ニ缺員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ
三 内地ト外國トノ間ヲ航行スル船舶ガ外國ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ内地ノ港迄歸航スルトキ
四 平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ハ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀受有者ヲ乘組マシメタルトキ
五 航行中船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキ
六 他船ニ曳カレテ航行スルトキ
七 入渠、修繕又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ船舶ヲ航行ノ用ニ供セザルトキ
八 管内官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又ハ繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ
(中略)
前各項ノ規定ハ日本船舶ガ朝鮮、臺灣、樺太、關東州若ハ南洋群島ノ各港間又ハ此等ノ港ト内地若ハ外國ノ港トノ間ヲ航行スル場合ニ之ヲ準用ス
第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ船長及機關長以外ノ船舶職員ノ乘組ヲ省略スルコトヲ得
一 内地ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶
二 平水航路ヲ航路定限ト爲シ始發港ヨリ最終港迄

ノ航程三十海里未満ノ航海ニ從事スル船舶
第一號表 効力制限海技免狀表

効力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀	行使範圍
小形船丙種運轉士免狀	沿海航路ヲ定限ト爲ス總噸數三十噸未満ノ帆船
沿岸丙種運轉士免狀	沿海航路以下ノ航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數三十噸未満ノ漁業帆船
湖川港乙種二等運轉士免狀	一定區域ノ湖川港内ノミヲ航行スル汽船
小形船乙種二等運轉士免狀	沿海航路以下ノ航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數三十噸未満ノ旅客定員ヲ有セザル汽船
沿岸乙種運轉士免狀	沿海航路以下ノ航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數四十噸未満ノ汽船
漁船乙種一等運轉士免狀	漁業汽船
漁船甲種二等運轉士免狀	漁業汽船
汽船甲種二等運轉士免狀	汽船

【法例拔萃】

漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁業汽船
汽船甲種一等運轉士免狀	汽船
漁汽船甲種船長免狀	漁業汽船
汽船甲種船長免狀	汽船
湖川港三等機關士免狀	湖川港ノミヲ航行スル汽船
小形發動機船三等機關士免狀	公稱馬力五十馬力未満ノ發動機以下ノ航路ヲ航路定限ト爲ス公稱馬力三十馬力未満ノ發動機
沿岸發動機船三等機關士免狀	公稱馬力五十馬力未満ノ發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス公稱馬力百馬力未満ノ發動機
發動機三等機關士免狀	發動機船
近海發動機船二等機關士免狀	發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ平水航路第一區以下ノ航路ヲ航路定限ト爲ス發動機船

【法 例 拔 萃】

湖川港三等機關士試驗
 沿岸發動機船三等機關士試驗
 發動機船三等機關士試驗
 三等機關士試驗
 近海發動機船二等機關士試驗
 發動機船二等機關士試驗
 近海二等機關士試驗
 二等機關士試驗
 發動機船一等機關士試驗
 一等機關士試驗
 發動機船機關長試驗
 機關長試驗

第二條 試驗ハ別ニ告示スル場所及期日ニ於テ管海官廳定期ニ之ヲ行フ臨時ニ試驗ヲ行フ必要アル場合ニ於テハ其ノ場所及期日ヲ隨時公示ス

第三條 本令ニ規定スル乘船期間ヲ計算スルニハ乘船ノ翌日ヨリ之ヲ起算シ末日ハ終了ニ至ラザルモ之ヲ算入ス

月又ハ年ヲ以テ定ムル乘船期間ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算シ月又ハ年ノ始ヨリ起算セザルトキハ其ノ期間ハ

最後ノ月又ハ年ニ於ケル起算日ニ應當ノ日前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月又ハ年ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了スルモノトス

乘船期間ヲ計算スルニハ一月ニ滿タザル乘船日數ハ之ヲ合算シ三十日ニ滿ツルトキ一月トシ又一年ニ滿タザル乘船月數ハ之ヲ合算シ十二月ニ滿ツルトキ一年トス

第二章 受験資格

第四條 試験ヲ受ケムトスル者ハ試験開始期日ノ前日迄ニ年齢滿二十年ニ達シ試験ノ種類ニ應ジ別表受験履歴表ニ定ムル履歴ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

小形船丙種運轉士試験、小形船乙種二等運轉士試験及小形發動機船三等機關士試験ヲ受ケムトスル者ハ前項ニ定ムル資格ヲ有スル外所轄管海官廳ノ認可シケル講習會ニ於テ所定ノ講習ヲ卒リタル者ナルコトヲ要ス

同一ノ試験ニ對シ規定ノ乘船期間ニ達セザル二以上ノ履歴ヲ有スルトキハ之ヲ其ノ一ニ通算スルコトヲ得但シ規定乘船期間ノ年數ヲ異ニスルモノヲ通算スル場合ニ在リテハ各規定乘船期間ノ年數ノ比例ニ依

リ其ノ一方ニ換算シテ之ヲ通算スルモノトス

船員職業紹介法

第一條 本法ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ムヘキ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用ス

本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲ケルモノ以外ノ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用スル事ヲ得

第二條 船員職業紹介事業ヲ行ハントスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第三條 船員職業紹介ニ關シ必要アリト認ムル時ハ政府ニ於テ職業紹介事業ヲ行フ事ヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル補助金ヲ支給シテ公益ヲ目的トスル法人其他ノ團體ヲシテ職業紹介事業ヲ行ハシムル事ヲ得

第四條 船員職業紹介事業ヲ行フモノハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其報酬トシテ手数料其他ノ財産上ノ利益ヲ得ル事ヲ得ス

第六條 船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ船員職業紹介委員會ヲ置ク遞信大臣之ヲ監督ス

【法 例 拔 萃】

船員職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六ヶ月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、許可ヲ得シテ船員職業紹介事業ヲ行ヒタル者
 二、船員職業紹介ヲ爲シ其報酬トシテ手数料其他ノ財産上ノ利益ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ受ケシメタル者

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ船員職業紹介ヲ爲ス者強制シテ職業紹介ヲ爲シタル時モ又前項ノ例ニ同シ

船員職業紹介法施行規則

第二章 無料職業紹介

第四條 船員職業紹介法第二條及附則第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ニ履歴書及戶籍謄本ヲ添ヘ主タル船員職業紹介所ノ所轄管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

【法例 拔萃】

- 一 氏名又ハ名稱 本籍及住所
 - 二 船員職業紹介所ノ所在地
 - 三 船員職業紹介所ノ設備、開所豫定年月日
 - 四 船員職業紹介ニ關スル諸規定
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス船員職業紹介所設置ノ必要ヲ認メサルトキ亦同シ
- 一 禁治産者及準禁治産者
 - 二 犯罪ニ因リ刑ニ處セラレ改悛ノ狀ナシト認ムル者
 - 三 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
 - 四 其ノ他船員職業紹介事業ヲ行フニ適セスト認メタル者
- 第八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ遲滞ナク紹介毎ニ其ノ從業者ノ氏名住所及履歴ヲ記載シタル書面ニ戸籍謄本ヲ添ヘ所轄管海官廳ニ届出ツヘシ
- 第九條 遞信局長ハ船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ不適當ト認ムルトキハ船員職業紹介事業ヲ行フ者ニ對シ從業者ノ解任ヲ命シ又ハ設備ノ改善ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

- 第十四條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ船員ノ下船又ハ雇傭契約ノ廢棄ヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコトヲ得ス
- 第十六條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル業務ヲ爲スコトヲ得ス但シ豫メ其ノ業務ヲ行ハムトスル地ヲ管轄スル遞信局長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 兩替
 - 二 質屋
 - 三 酒類販賣
 - 四 日用品ノ販賣
 - 五 飲食店、宿泊所其ノ他類似ノ業務
- 第十八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ正當ノ事由ナクシテ紹介ノ申込ミヲ拒ムコトヲ得ス
- 第二十條 船員ノ職業紹介ハ申込ノ順序ニ依ル但シ正當ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十一條 紹介ノ申込ハ申込ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ
- 第三章 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介

- 第二十四條 船員職業紹介法附則第三項ノ規定ニ該當スル者(以下單ニ營業者ト稱ス)其ノ業務ヲ繼續セントスルトキハ船員職業紹介法施行後二月内ニ紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ許可ヲ申請スヘシ
- 遞信局長第一項ノ申請ニ基キ許可ヲ與フル場合ニ於テハ之ニ期間ヲ附スヘシ遞信局長ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得
- 第二十五條 營業者ハ手数料ヲ定メ船員職業紹介法施行後遲滞ナク紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ認可ヲ申請スヘシ
- 第二十六條 營業者ハ求職者ニ手数料ノ半額ヲ超ユル額ヲ負擔セシムルコトヲ得ス
- 第三十條 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外前章ノ規定ヲ準用ス

海事協同會規約

- 第一條 社団法人日本船主協會、社団法人海員協會及日本海員組合ハ帝國海運ノ健全ナル發達ニ資スルノ目的ヲ以テ海事協同會ヲ設立ス
- 第二條 本會ハ委員會ノ決議ヲ經テ前條ニ掲グル以外

【法例 拔萃】

- ノ船主又ハ船員ノ團體ヲ本會ニ加盟セシムルコトヲ得
- 第三條 本會ハ左記事業ヲ行フ
- 一 船員ノ職業紹介
 - 二 船員ノ待遇ニ關スル事項ノ協議決定
 - 三 船主船員間ノ爭議ノ豫防及調停
 - 四 船員ノ募集及寄宿所ノ經營
 - 五 其他第一案ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル事業
- 第四條 本會ハ本部ヲ神戸市ニ置ク必要アルトキハ委員會ノ決議ヲ經テ其他ノ地ニ支部ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 本會ノ財源ハ會費、寄附金其他雜收入ヲ以テ之ニ充ツ
- 會費ハ船主團體及船員團體(以下双方團體ト稱ス)均等ニ之ヲ負擔ス
- 第六條 本會ノ會長ハ双方團體員中ヨリ交互ニ之ヲ任ス
- 會長ハ會ヲ代表シ會務ヲ總轄ス
- 會長ハ各委員會ノ議長トナル會長事故アルトキハ其ノ屬スル團體ノ選出スルモノヲ臨時ニ議長ニ推ス

【法例拔萃】

第七條 本會ニ委員會ヲ置キ會長ハ重要ナル會務ヲ審議決定スル爲毎月一回會議ヲ開クコトヲ要ス
特別ノ事由ニ依リ會長必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス臨時會議ヲ開クコトヲ得、委員四分ノ一以上ヨリ請求アリタルトキハ會長ハ臨時ニ會議ヲ開クコトヲ要ス

第八條 委員ハ双方團體員ヨリ各六名ヲ選任ス
委員事故ノ爲會議ニ出席スルコト能ハサルトキ又ハ第六條第三項ノ規定ニ依リ議長トナリタルトキハ其ノ委員ノ屬スル團體ヨリ代理者ヲ出スコトヲ得
第九條 委員會ノ議長ハ高級船員又ハ普通船員ノミニ關スル事項其他特種ノ事項ヲ審議セシムル爲小委員會ヲ設クルコトヲ得

第十條 委員會ハ双方團體ノ委員各半數以上出席スルニアラサレハ議事ヲ行フコトヲ得ス出席セル双方團體ノ委員各半數以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス
議長ハ表決ニ加ラス

第十一條 議事ニ付可否決定セサルトキハ双方團體ノ協定ニ依リ選任シタル仲裁人ニ之ヲ附託スルモノトス

任免ス

第十六條 會長、委員、幹事及會計監査員ノ任期ハ各一年トシ決算委員會ニ於テ事務ノ引繼ヲナス但シ補欠ノ爲就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
第十七條 本會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス
會長ハ各期末ニ於テ事業報告書及收支計算書ヲ作製シ五月中ニ決算委員會ヲ召集シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條 本規約ハ委員全部ノ同意アルニ非サレハ之カ變更ヲナスコトヲ得ス
第十九條 本規約ノ實行ニ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

水先法

第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス（年齢滿二十三年以上滿六十年以下）

第六條 水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乗込ミタルトキハ晝間ニ在リテハ水先旗ヲ掲揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

【法例拔萃】

ス

第十二條 双方團體ノ間又ハ船主團體員タル船主ト船員團體若クハ船員團體ニ屬スル船員トノ間ニ於ケル爭議ハ委員會ニ附議スルコトヲ要ス委員會ノ決議ノ成立又ハ不成立ニ至ル迄ハ船主ハ爭議ニ關係アル船員ノ雇止ヲ爲サス又船員團體ハ同盟罷業ヲ行ハス且爭議ニ關係アル船員ヲシテ怠業其ノ他故意ニ相手方ノ利益ヲ害スヘキ行動ニ出テシメサルヘシ

第十三條 會長ハ委員會ノ決議ヲ經テ双方團體ノ委員中ヨリ各一名ノ幹事ヲ指名シ會務ヲ處理セシム
會長ハ委員會ノ決議ヲ經テ書記其ノ他事務員ヲ任命シ會務ニ從事セシムルコトヲ得

第十四條 本會ニ會計監査員ヲ置キ本會ノ會計ヲ監査セシム
會計監査員ハ委員會ノ決議ヲ經テ双方團體ヨリ各一名ヲ選任ス

第十五條 本會ハ神戸ニ船員職業紹介所ヲ設ク必要アルトキハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ他ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得
會長ハ委員會ノ決議ヲ經テ船員職業紹介所ノ職員ヲ

第七條 水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ

第十八條 主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及機裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得
第二十一條 水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

水先法施行細則

第一條 水先人試験ニ合格シタル者ハ試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ水先區ノ名稱、本籍地、出生ノ年月日及合格ノ年月日ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ登録ヲ申請スヘシ

第六條 逓信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ナリト認ムルトキハ登録ヲ爲ス逓信省ハ左ノ場合ニ於テハ抹消ノ登録ヲ爲ス
一 抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間内ニ之ヲ爲サ、ルトキ
二 詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ

【法例拔萃】

- 三 海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無効ト爲シタルトキ
- 四 水先免狀ノ水先區カ新ニ授與スル水先免狀ノ水先區ニ包含セラル、ニ至リタルトキ
- 第十三條 水先區ヲ甲乙ノ二種ニ分ツ
甲種水先區ハ左ノ十區トス
一 東京灣水先區 安房國洲ノ崎ヨリ相模國城ケ島西端ヲ經テ諸磯崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
二 隅田川水先區 武藏國品川舊第三砲臺ヨリ品川掛燈浮標ヲ經テ洲崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
三 和泉灘水先區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線及淡路國江崎ヨリ播磨國明石川口ノ西岸ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
四 内海水先區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地蔵崎ニ引キタル線及長門國網代崎ヨリ筑前國岩屋崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
五 下關水先區 豊前國部崎ヨリ北東ニ引キタル線及筑前國岩屋崎ヨリ長門國網代崎ニ引キタル線ヲ

- 以テ境界トス
- 六 長崎港水先區 肥前國福田崎ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及同國沖ノ島南端ヨリ香燒島南端ヲ經テ深堀ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 七 島原海灣水先區 肥前國國崎ヨリ肥後國鵜瀬崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トシ三角港ヲ包含セシム
- 八 函館港水先區 渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 九 室蘭港水先區 膽振國エンルム崎ヨリ大黒島ヲ經テホテイシ崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 十 小樽港水先區 後志國平磯岬ヨリカヤシバ岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 乙種水先區ハ左ノ一區トス
伏木港水先區 越中國伏木港燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧ヲ以テ境界トス
- 第十四條 水先案内料ハ總噸數千噸又ハ千噸未満ニシテ吃水十呎又ハ十呎未満ノ船舶ニ付キテハ第一號表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若ハ千噸未満又ハ吃水一呎若ハ一呎未満ヲ増ス毎ニ同表ニ定ムル額ニ百分ノ六ヲ加フ

第一號表

水先區	航路	汽船水先案内料
東京灣水先區境界線・横濱錨地間	東京灣水先區境界線・横濱錨地間	壹圓
東京灣水先區境界線・隅田川水先區境界線間	東京灣水先區境界線・隅田川水先區境界線間	壹圓
東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	壹圓
横濱錨地・隅田川錨地間	横濱錨地・隅田川錨地間	壹圓
隅田川水先區境界線・隅田川錨地間	隅田川水先區境界線・隅田川錨地間	壹圓
友ヶ島水道・神戸錨地間	友ヶ島水道・神戸錨地間	壹圓
友ヶ島水道・大阪錨地間	友ヶ島水道・大阪錨地間	壹圓
神戸錨地・大阪錨地間	神戸錨地・大阪錨地間	壹圓

- 第十五條 前條ニ於テ吃水ト稱スルハ各水先區ニ付キ水先人水路ヲ嚮導スル爲メ船舶ニ乗込ミタルトキヨリ其嚮導ヲ終ルマテノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ吃水ヲ謂フ
- 第三十九條 水先組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス但二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ專屬水先區ノ組合員トス
- 第四十六條 水先人組合ニ組合長一名ヲ置クヘシ水先人組合ニ組合副長又ハ其他ノ役員ヲ置クコトヲ得
組合長其他組合ノ役員ハ組合員ノ選舉ニ依リ上任シ其任期ハ三年以內トス
組合長組合副長ノ内一人ニ組合員以外ノ者ヲ選舉スルコトヲ得
- 第六十條 水先人水先區ニ於テ左ノ事項アルコトヲ認メタルトキハ直ニ其狀況ヲ遞信省ニ報告スヘシ
一 航路、航路標識ニ異變アルコト
二 航路ノ妨害トナルヘキモノ存在スルコト
三 其他航路上危險ノ虞アル事實アルコト

【法例拔萃】

【法例 沿革】

灘 内 海 及 下 關	
神戸錨地・門司若ハ下關錨地間	一三〇
神戸錨地・内海水先區西境界線間	一四〇
神戸錨地・若松錨地間	一五〇
門司、下關、若松錨地・下關水先區西境界線間	一五〇
門司、下關錨地・若松錨地間	一五〇
門司、下關錨地・下關水先區東境界線間	一五〇
下關水先區東境界線・若松錨地間	一五〇
下關水先區西境界線・下關水先區東境界線間	一五〇
豐後水道北口・下關水先區東境界線間	一五〇
豐後水道北口・神戸錨地間	一三〇

島 原 海 灣		
長崎港	水先區境界線・港内錨地間	一三〇
	水先區境界線・口ノ津錨地間	一三〇
	水先區境界線・三角錨地間	一三〇
	水先區境界線・三池錨地間	一三〇
	水先區境界線・住ノ江錨地間	一三〇
函館港	水先區境界線・港内錨地間	一三〇
室蘭港	水先區境界線・港内錨地間	一三〇
小樽港	水先區境界線・港内錨地間	一三〇
伏木港	水先區境界線・港内錨地間	一三〇

備考 帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但

シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

海員懲戒法

- 第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ
- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
 - 二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ間ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
 - 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
 - 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
 - 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
 - 六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

【法例 沿革】

- 七 亂醜粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
- 第二條 懲戒ハ左ノ三種トス
- 一 免狀行使ノ禁止
 - 二 免狀行使ノ停止
 - 三 譴責
- 第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所ノ之ヲ定ム
- 第四條 免狀行使ノ停止ハ一ヶ月以上三年以下トス
- 第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此法律ニ規定ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス
- 第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス
- 第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

名稱	位置	管轄區域
東京地方		東京府、神奈川縣、新潟縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣

【法例拔萃】

海員審判所	東京市	茨城縣、栃木縣、三重縣
海員審判所	愛知縣、靜岡縣、山梨縣	岐阜縣、長野縣、宮城縣
海員審判所	福島縣、岩手縣、山形縣	大阪府、京都府、兵庫縣
大阪地方	奈良縣、滋賀縣、福井縣	石川縣、富山縣、鳥取縣
海員審判所	島根縣、岡山縣、廣島縣	和歌山縣、德島縣、香川縣
海員審判所	愛媛縣、高知縣	山口縣、長崎縣、福岡縣
門司地方	門司市	大分縣、佐賀縣、熊本縣
海員審判所	宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣	
函館地方	函館區	北海道、青森縣、秋田縣

海上衝突豫防法

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所ト問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス
 本法中汽船ト雖モ帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヒサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用フルキハ帆ヲ用ウルト用ヒサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ
 本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ
 本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ
 第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス
 第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ

(中略)

第三條 汽船他船ヲ曳キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲

スヘシ

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高さニ於テ最モ見易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

第十條 他船ニ追越サレントスル船舶ハ他船ニ向ケ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

第十二條 汽船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ又ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ
 霧中降雪其他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ
 一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ

【法例拔萃】

長聲ヲ一發スヘシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隔ハ大約一秒時タルヲ要ス
 三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ
 四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

航方

第十八條 二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行達フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鉞路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ
 本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行達フテ衝突ノ虞アルトキニ限り適用スヘシ兩船各々其ノ鉞路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス
 本條ヲ適用スヘキ場合ハ兩船トモ正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行達ヒタルトキ即チ書間ニアリテハ我船ノ橋ト他船ノ橋ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキ

【法例 拔萃】

ニ限ルヘシ
 本條ハ晝間他船ノ我船ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄リタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

航路信號
 第二十八條 航行中ノ汽船他船ニ近寄リ航路ヲ變セシトスルトキ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ航路ヲ通知スヘシ

船舶通報規則

短聲一發 我船航路ヲ右舷ニ取ル
 短聲二發 我船航路ヲ左舷ニ取ル
 短聲三發 我船全速力ニテ後退ス
 特例

第三十條 本法ハ行政官廳ニ於テ規定シタル港、川其他内海ノ通航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス
 難船信號

第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ
 一 晝間信號
 二 夜間信號

第一條 船舶通報ヲ別チ左ノ二種トス
 一、通過報
 二、信號報
 (後略)

船舶通報事務取扱燈臺

犬吠崎	下總國犬吠崎
稚內	北見國野寒岬
釧路	東京海灣釧路

金華山	陸前國金華山ノ南東端
尻矢崎	津輕海峽ノ東口
神崎	對馬國南端
六連島	下關海峽西口六連島(夜間ハ取扱ハス)
佐多岬	大隅國南端小岩島
大角鼻	讚岐國小豆島ノ南東端大角鼻
絶影島	朝鮮絶影島(夜間ハ取扱ハス)
神威岬	後志國神威岬(夜間ハ取扱ハス)
小島	朝鮮黃海道大靑群島(夜間ハ取扱ハス)
潮岬	紀伊國潮岬
大瀨崎	五島列島福江島ノ南西端
日ノ御崎	紀伊水道東側日ノ御崎
西能登呂岬	樺太西能登呂岬
鷺鑾鼻	臺灣南端(夜間ハ取扱ハス)
神島	志摩國伊良湖水道神島ノ北東端(夜間ハ取扱ハス)
港門島	朝鮮全羅南道所安群島(夜間ハ取扱ハス)

信號所設置場所

【法例 萃】

遞信省告示ニ基キ船舶通航並ニ潮流ノ信號所ノ設置場所ハ左ノ如シ

設置場所	信號ノ種類
下關海峽部崎	船舶通航及潮流信號
臺場鼻	同
火ノ山下	船舶通過信號
赤阪	同
來島海峽中渡島	潮流信號
内海三原瀬戸大濱崎	船舶通航及潮流信號
高根島	同

開港港則

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ境界ハ左ノ如ク定ム(港ノ境界詳細ハ省略)

神戸、橫濱、新潟、夷港、大阪、長崎、函館、清水、武豐、名古屋、四日市、糸崎、徳山、今治、下關、門司、若松、博多、唐津、住ノ江、口ノ津、三池、三角、鹿兒島、嚴原、佐須奈、鹿見、那霸、濱田、境、宮津、敦賀、七尾、伏木、青森、小樽、根室、釧路、室蘭、大泊、真岡

【法例 拔萃】

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ掲クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ届出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スヘカラス

著港届ハ日曜及大祭日ヲ除ク外二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但著港届ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ税關手續ヲ與ヘサルモノトス

第三條 各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマテハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

第十一條 船舶カ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且日出ト日没ノ間ニハNMノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ斷ニス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日没ノ間ニハCノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ藍火若ハ閃火ヲ示スヘシ

海商法

商法第五編 拔萃

船舶及ヒ船舶所有者

第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百四十三條 差押又ハ假押差ハ發航ノ準備ヲ終リタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス但其船舶カ發航ヲ爲ス爲ニ生シタル債務ニ付テハ此限りニ在ラス

第五百五十七條 船舶ノ賃借人カ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

船長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非ラサレハ船舶所有者、備

船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備ヲ終リタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十六條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲ニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終リタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

【法例 拔萃】

船ヲ去ルコトヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ

二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ

三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 海員カ疾病ニ罹リ又傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪エサルニ至リタルトキ

五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

【法 例 抜 萃】

第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入タルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

船舶無線電信施設法

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル日本船舶ハ無線電信ノ施設ナクシテ遠洋航路又ハ近海航路ニ於テ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス但シ航海ノ目的其他ノ事情ニ依リ已ムコトヲ得スト認メラル、トキハ主務大臣ハ期間ヲ指定シ其ノ施設ナクシテ之ヲ航行ノ用ニ供セシムルコトヲ得

- 一 總噸數二千噸以上ノ船舶
 - 二 五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶
- 前項第二號ノ人員ハ旅客ニ付テハ旅客定員ニ依リ之ヲ算定ス
- 傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ハ之ヲ第一項第二號ノ人員中ニ算入セス
- 第二條 當該官吏ハ無線電信施設ノ検査ヲ行フ爲必要

アルトキハ何時ニテモ船舶ニ臨檢シ又ハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條 本法ハ日本船舶ニ非ラサル船舶ニシテ本法施行地内ノ港ニ出入スルモノニ之ヲ準用ス

貿易及荷動

【法 例 抜 萃】

第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入タルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

船舶無線電信施設法

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル日本船舶ハ無線電信ノ施設ナクシテ遠洋航路又ハ近海航路ニ於テ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス但シ航海ノ目的其他ノ事情ニ依リ已ムコトヲ得スト認メラル、トキハ主務大臣ハ期間ヲ指定シ其ノ施設ナクシテ之ヲ航行ノ用ニ供セシムルコトヲ得

- 一 總噸數二千噸以上ノ船舶
 - 二 五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶
- 前項第二號ノ人員ハ旅客ニ付テハ旅客定員ニ依リ之ヲ算定ス
- 傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ハ之ヲ第一項第二號ノ人員中ニ算入セス
- 第二條 當該官吏ハ無線電信施設ノ検査ヲ行フ爲必要

アルトキハ何時ニテモ船舶ニ臨檢シ又ハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條 本法ハ日本船舶ニ非ラサル船舶ニシテ本法施行地内ノ港ニ出入スルモノニ之ヲ準用ス

貿易及荷動

【貿易及荷動】

輸出入重要品累年比較

(單位千圓)

品名	輸出		輸入	
	昭和二	昭和三	昭和二	昭和三
生絲	七四三、四三四	七三三、六九七	七八一、〇六五	五七三、〇五
綿織物	三六、七九四	三五、八九二	二六、七〇三	一五八、八七〇
綿織物	三三三、八四九	三五二、二七	四二二、七〇六	一〇一、八七
莫大小製品	二五、〇九三	二七、七七八	三五、七五	九二、二〇六
石炭	二五、五〇七	二四、五二二	二二、七一	三二、一七
精糖	二八、九三〇	三六、四二五	二九、九七五	六四、九五六
製茶	一〇、八九七	一一、八四八	一一、〇二七	六七、八三〇
陶磁器	三〇、四九五	三〇、六三七	三五、九六二	三三、六七三
木器	一五、九五二	一七、九六三	二二、一四八	三三、一三
層糸、真綿	一三、八六八	一三、五〇八	一一、九九八	六七、七五
絹織物	一三九、六二五	一三〇、〇五八	一四九、九五	一一〇、八八四
水産物	三三、一九七	一七、三七五	三三、四三六	三三、〇五
罐詰食物	一九、八五〇	二二、〇三〇	三五、八三一	八六、八七
豆類	一〇、三三七	一〇、四〇一	一四、六四一	二七、七〇七
紙類	一九、二九一	二五、六七三	二六、九二	三三、七五〇
硝子及製品	一六、六六〇	二二、九四三	一三、四四五	三六、〇〇四
小麥粉	一四、二五八	二四、七二七	二六、八二五	二二、八二
鐵製品	三、〇五八	一三、六八〇	一五、〇〇三	二七、八二
鐵製器具	一〇、五三〇	一〇、九九八	一三、八五五	二五、四三〇
機械類	一一、三一	一〇、六〇五	一二、五九四	二四、二三八
棉花				五四、五九六
鐵類				一〇六、八五
羊毛類				一〇一、六七
機械類				七六、六一
砂糖類				七五、七九
豆類				五、九〇七
米類				六、九七六
小麥物				三、六三
毛織物				五、九二五
木材				一〇、七五八
石炭				四、五五
石油				九、八八二
生油				三、七〇七
硫酸安母尼				三、七五〇
自動車				一八、五九
採油原料				一八、八五
植物纖維				三五、六五〇
鐵類				二〇、九七七
石油				二四、二三八

對外國別貿易表

(單位千圓)

國別	大正十四年		昭和元年		昭和二年		昭和三年		昭和四年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
支那	四六、四三八	二四、六五七	四二、八六一	二二、九四〇	三三、四一三	三六、〇三四	三七、二四一	三三、五四七	三六、六五二	二〇、九七四
關東州	一〇一、六六二	一七、六九五	九九、六〇六	一五、八〇三	九一、二七〇	一三、四四七	一一〇、一九〇	一五〇、四三九	一四、四七六	一六、六三一
香港	七三、六二	四七、五	五二、九七三	一、四二六	六六、五八	一、五九八	五、二〇四	一、一三	六、〇六五	六〇七
英領印度	一七三、四二	五七、五三	一五、九五	三九、一三三	二七〇、五九二	一四六、〇〇六	二八五、四七〇	一九八、〇五六	一九八、〇五六	二八八、一〇七
海峽殖民地	四四、九〇四	三七、〇〇四	四一、四九七	三九、八七二	三五、八七三	二〇、四四九	三七、四〇四	二七、九二八	四一、六三四	七七、三六
佛領印度	八五、五五六	一〇三、三七二	七四、七五四	一〇三、〇七六	八二、五八一	一〇三、七七五	七三、四一四	一一、〇三六	八七、二五	七七、三六
佛領印度	四、〇二七	四八、七一九	六、二〇六	二四、五九	三三、七九	四、一一	二〇、三五	二、六九五	九、五九〇	三、八七四
露領亞細亞	三二、一二	一四、六七八	五、二九九	三三、八三六	七、七七六	二四、五二六	一一、一九七	三二、九二六	一五、二〇一	三三、八七四
比律賓諸島	二九、三五	一六、七〇〇	二七、八二	一八、七二四	三、八三四	一七、八四一	二九、〇五四	一六、三四二	三〇、五二八	一八、〇四四
暹羅	七、八二〇	三三、七三四	九、二七〇	一四、三四四	一一、一四六	三三、三〇〇	五、七六三	一九、〇六七	一〇、六三三	二〇、八一
其他諸國	八、七三	四、三三	八、一七三	四、一四八	八、二〇一	四、七八一	五、三九九	四、四三六	一〇、九六九	二、六三九
合計	一〇〇、五六〇	一三三、八二六	九〇、四五	一〇一、七五八	八四、五四	八七、三九〇	八三、九三四	九三、一四四	九一、五二五	八五、七、九五三
(歐羅巴洲)										
英吉利	五九、七二六	三三、七九二	五九、四九三	一七、〇二四	六四、九三九	一五、三二七	五八、九〇四	一六四、八四〇	六三、一八三	一五三、〇五〇
佛蘭西	五八、八五四	三三、三七七	四二、四二	二四、五四五	五四、〇四五	二七、三一	六三、四〇八	二四、〇〇六	四四、四八四	二六、一八五
獨逸	一一、八四四	一三、八八九	八、三二	一四、三三〇	一〇、六三	一三、三九〇	一一、五八一	一三、五三三	一三、四四六	一五、七、二七三
白耳義	一、八二八	一、九九九	一、六八	一四、三四〇	二、〇五	一四、三二八	一、八六九	一四、四九七	二、八九〇	一五、八二八
伊太利	八、二〇一	三、三八八	五、二五一	六、七四六	三、八六五	六、三七	六、一九〇	九、三三四	六、一〇八	七、五五〇
瑞西	三、五六	二〇、七五	四九五	二、八一九	一、四一六	一八、〇九三	一、二七九	一九、六四〇	六四七	一七、五七〇

【貿易及荷動】

【貿易及荷動】

奧太利	四七	二、八八五	三、五三	三、二八五	二、七三	二、八五七	一、〇四	一、七二四	六三	一、七一八
チエツコ	五	二、五九	五	五、六〇	五	二、八〇五	九	一、三八二	一、四	一、九六〇
和蘭	二、六二七	五、六五	二、四九六	四、七三六	三、三八七	三、九八一	六、九二四	四、七七二	六、九一七	五、四六二
瑞典	三、七四	二、〇六七	四、六八	三、九四六	四、九七	一〇、八八九	八二二	一〇、七六七	八六四	一、〇三五
露西亞	二〇	三、三五三	二八	五、二六三	五、九	四、二四	四、五三八	四、五三八	三、六六〇	四、六八〇
波蘭	五、八	二、九一	四	七、九三	八、六九	一、六〇六	一、一九七	二、一四一	二、〇三三	三、〇八〇
西班牙	一、八九四	三、五七	二、五〇一	二、二八四	七	七、五七二	一一	八、二三五	一、三二二	一、三五八
丁班抹牙	九二〇	八、九〇	九、五〇	一、〇四九	八、六八	一、三六三	八、六九	一、三二二	一、七五五	一、三五八
土耳其	八〇四	五、九九	六〇八	四、四〇	二、九四七	三、〇〇一	三、四三〇	二、四七	二、五五一	六、〇五
葡萄牙	三、八三二	八、八二	四、三三	四、八三	二、九四七	三、〇〇一	九	四、四七	二、五五一	二、〇二
其他諸國	三、四四	二、六七	八	二、九	五	四、九	九	四、四七	一、〇七二	七、七
合計	一、五三、六〇二	四、四七、七七	一、二九、四〇〇	四、一六、三〇三	一、四七、八九二	三、八七、七九	一、六〇、三四五	四、〇三、七〇三	一、四七、二四八	四、一九、八四七
（北亞米利加洲）										
合衆國	一、〇六、二五三	六、六四、九九二	八、六〇、八八〇	六、八〇、一八五	八、三三、八〇四	六、七三、六八五	八、三六、一四一	六、五五、五〇三	九、一四、二〇一	六、五四、〇五五
加奈陀	二〇、八三八	三、七、一三	二、四、七五三	六、三、九元	二、七、四〇一	五、五、六九九	二、七、〇四七	六、六、四九八	二、七、〇七八	六、八、七三九
墨西哥	一、三七一	八〇	一、一四五	一、三九	一、二六五	一九	一、三三二	二、三四	一、三三二	七、〇〇
其他諸國	三、一四九	二、九	二、六〇九	五、九七	一、〇六一	一〇、三〇	六、一一	九、五四	一、二五六	七、五八
合計	一、〇三、六九三	七、四、九七三	八、九〇、一〇二	七、五、四九八	八、六六、七四八	七、三九、九七三	八、五八、五九八	六、九三、六〇〇	九、四七、七三四	七、四、三四七
（南亞米利加洲）										
秘露	一、六六〇	七、七七	一、九五二	一、七四	一、三三	一、六八	一、七八五	九、五	二、六〇一	五、八
智利	一、九一七	五、三四	一、九二六	八、六九〇	二、〇六三	七、八六八	一、八八四	六、二六六	二、七一九	一〇、四一四
亞爾然丁	八、四六三	二、〇五三	六、三三	二、四九六	九、五二八	二、〇〇三	六、九七〇	四、六七三	八、五七九	三、三三五

輸出入貿易船國別

(單位千噸)

伯刺西爾	一、五八一	六八	一、五九七	一、五二	一、二五〇	二、九四	一、九八二	二、三九	一、五七二	三、八〇
ウルクアイ	四、〇八二	一四八	五、〇三三	四、三〇	六、八一九	一、四三	三、八八〇	五	四、四六六	一、五四
其他諸國	一、七、七〇五	八、四二二	一、六、八三二	一、一、九四三	二〇、八八六	一〇、四七七	二、一、三〇	二、一、九九	三、〇八六	一、八
（亞弗利加洲）										
埃及	二、五、二六五	三、六三五	二、三、〇九八	三、一、九五八	二、九、〇〇六	二、四、六六三	二、三、七四	二〇、三四〇	三、一、三五二	二、五、八二四
喜望峯殖民地	九、五三八	一、三二	一〇、七四一	九、一六	一、六四〇	一、〇八三	一、一、六四四	一、一、三四一	一、三、一七九	一、四、四七
及ナタル	八、一四六	七、五二〇	九、三三五	八、四二〇	一〇、五八八	一〇、六八五	六、四二六	六、二六一	一、三、二三	一、一、四〇五
東亞弗利加	四、三、九五二	四、四七七	四、三、一五四	四、一、二八六	五、一、三四	三、六、四〇一	四、三、九二四	三、三、二〇九	六、〇、五三四	四、一、五三七
其他諸國	四、三、九五二	四、四七七	四、三、一五四	四、一、二八六	五、一、三四	三、六、四〇一	四、三、九二四	三、三、二〇九	六、〇、五三四	四、一、五三七
（其他諸洲）										
濠太利	四、七、四九五	一、四九、九九九	五、一、六一	一、二八、三九六	五〇、五六六	一、三三、八四〇	四、三、〇〇〇	一、三〇、四九四	四、四、〇七五	一、三三、六〇〇
新西蘭	三、一〇〇	一〇五	二、九四五	六、九〇	三、三四七	四、三〇	三、〇九七	七、九六	四、〇、九四	六、七七
布哇	八〇、六九	五二	六、七〇〇	一、四〇	六、八九四	一、〇四	六、四六六	一、七五	六、二七	一、四、五
其他諸國	四、二	四、〇一五	五、四五	二、九四五	二、二四	三、八六〇	四、五、六	五、一、三〇	四、〇二	五、一、七七
合計	五、九、〇七七	一、五四、一四一	六、一、八〇二	一、三三、一七二	六、一、〇二二	二、二七、三三五	五、三、〇二一	一、三六、五九六	五、四、八四三	一、三八、六〇一
通計	二、三、五、五八九	二、五、七、二六五	二、〇、四、七七	二、三、七、四八四	一、九、三、三二七	二、二、七、九二五	一、九、七、九五五	二、一、六、三三四	二、四、八、六八八	二、二、六、二四〇

【貿易及荷動】

國別	大正十四年		昭和元年		同二年		同三年		同四年	
	出港	入港	出港	入港	出港	入港	出港	入港	出港	入港
日本	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
	一、一、五五	一、一、四六七	三、一、五八	三、一、四三五	一、三、三〇五	一、三、二七七	一、三、四八一	一、三、四三三	一、四、〇八九	一、四、〇八六
	二、八、三一	二、八、二五一	三、一、三三	三、一、八七三	三、二、八八	三、二、六九	三、四、五三	三、四、七三	三、七、〇三六	三、六、八七

【貿易及荷動】

清水	新湯	三池	宇品	高濱
28	33	45	63	47
五、五〇三	四、九三三	三、四二四	二、七三三	三、四九七
20	21	22	87	86
一、二四六	一、〇三三	一、〇二七	一九七	二〇〇
15	50	19	13	20
二、八五三	七、五	二、五九	三、一五	二、三三
御手洗 184	糸崎 69	今治 26	本表は三種別中何れかに二十五位迄を占めたるものを收む、二十六位以下省略。	
六五九	一九、三九	六〇、四五	45	55
二	三三	四五	23	22
二、〇四	一、九五六	一九三	21	21

五港入港船舶

(昭和四年)

國籍	種別	航路	横濱		神戸		長崎		門司		大阪	
			船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
日本	汽船	内國航	七、四八	五、四三、五九一	一、八六〇	一、七、八九一、四九五	三、三三	七、六、七、九四	四、四一	八、七、六、三、二四二	三、三〇三	六、一、五、四〇七
日本	帆船	外國航	一、三〇〇	八、五八〇、九九六	二、七五	一、三〇、九七、三七九	四二	二、三、七、四、三六	二、三五八	九、三、六、二、九〇	二、一七〇	八、四、八、七、五二
英國	汽船		四、七三	三、六九、〇〇三	六〇二	四、八〇三、六九二	八七	八、八、一、八四	三三	二、三、七、〇、五三	一四三	九、〇、一、六三
英國	帆船		三、三二	二、八三、一四二	二四五	二、五〇九、七八八	一三	八、六、六、九七	二〇	一、七、二、九〇	六	四、八、二、〇、三四
佛蘭	汽船		四〇	四、二、四、七	六	七〇八、一〇九	一	九、三、三、六	一	一、九、七、六	四二	二、九、九、七、二
佛蘭	帆船		四	三、六、一、四七	六〇	四、五、一、八五	一四	八、七、五、〇六	三〇	二、四、八、四〇	三	一、五、九、四、〇
獨逸	汽船		八	五、八、七、一、六八	二四	八、四、三、五、〇三	三	一、八、四、四、三	七	四、五、七、二、一	四	一、五、三、九、〇
獨逸	帆船		一七	九、八、三、四	一九	一〇、七、五、八	一六	九、三、七、九〇	二六	一、七、四、八、七	一	二、四、五、七、七
瑞典	汽船		一〇四	五〇、五、六、九	六	三、五、六、一、九一	一	二、一、六、〇〇	一七	一、一、三、七、八三	六	二、四、五、七、七
瑞典	帆船		三	一、九、四、五、〇六	二五	一、五、六、一、八六	三	一、九、七、〇、九	一六	一、九、一、三、一	二	一、五、二、七、一
諾威	汽船		三	一、九、八、三、〇三	二四	一、九、七、〇、九	一	八、二、三、九、九	八	一、九、九、二	一六	四、〇、〇、六、六
諾威	帆船		三	七、八、四、二	三	八、二、三、九、九	一	四、七、九、三	八	一、九、九、二	一六	四、〇、〇、六、六
丁太	汽船		三	七、八、四、二	三	八、二、三、九、九	一	四、七、九、三	八	一、九、九、二	一六	四、〇、〇、六、六
伊太	汽船		三	七、八、四、二	三	八、二、三、九、九	一	四、七、九、三	八	一、九、九、二	一六	四、〇、〇、六、六
露西	汽船		三	七、八、四、二	三	八、二、三、九、九	一	四、七、九、三	八	一、九、九、二	一六	四、〇、〇、六、六

其他
總計
汽船
帆船
本表ノ外ニ開港港則施行規則第二十六條ニ依リ免許ヲ與ヘタルモノ神戸港二四五隻、長崎港二四五隻、門司港一、九八〇隻、大阪港一、六三三隻アリ

日英米外國貿易月表

昭和四年

昭 和 四 年 一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	日本 (單位千圓)		英國 (單位千磅)		米國 (單位千弗)	
											輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一八一、六九	二四〇、八三六	六六、六九一	二六、〇六四	四九一、〇〇〇	三七一、〇〇〇
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一四七、三三	三三七、四七	五九、九六	九一、三九	四四四、〇〇〇	三七一、〇〇〇
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	一四七、四八三	三二一、一〇六	六八、六〇九	九八、五九三	四八六、〇〇〇	三八三、〇〇〇
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	一七六、五三三	三三、七〇〇	七〇、六三〇	一〇四、一六八	四二七、〇〇〇	四〇九、〇〇〇
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	一八三、九九三	三九、九三七	七七、九〇八	一〇三、四九二	三九七、〇〇〇	四〇一、〇〇〇
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	一五九、九三〇	一七六、三三七	五九、五〇九	九一、四九七	三九七、〇〇〇	三五三、〇〇〇
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	一八八、二三	一六七、二四六	七四、四八九	九三、五五〇	四〇二、八六一	三五三、〇〇〇
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	一九〇、七二六	一五七、三三七	七三、〇六五	一〇〇、九三	三八〇、七五一	三五三、〇〇〇
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	二〇四、〇四八	一五五、二三三	六、八四〇	九八、三六八	四三七、一六二	三五三、〇〇〇
十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	二〇四、〇四八	一五五、二三三	七、七七八	一一〇、二七八	五二八、五二四	三五三、〇〇〇
十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	一九九、三三一	一四六、八一五	七、三六一	一〇八、二二七	四四二、三〇〇	三五三、〇〇〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一九九、三三一	一四六、八一五	六、三六七	一〇六、五七四	四二六、五九六	三五三、〇〇〇

【貿易及荷動】

昭和五年

【貿易及荷動】

芬蘭	一五、〇〇〇	同(他ノ交通ヲ含ム)
蘭洲	一五、〇〇〇	同(他ノ交通ヲ含ム)
和蘭	一五、〇〇〇	同(他ノ交通ヲ含ム)
諸威	一五、〇〇〇	同(他ノ交通ヲ含ム)
瑞典	一五、〇〇〇	同(他ノ交通ヲ含ム)
丁抹	一五、〇〇〇	同(他ノ交通ヲ含ム)
芬蘭馬克	一八、三〇〇	
磅	一八、三〇〇	
フローリン	一八、三〇〇	
クロイーネ	一八、三〇〇	
クロイーネ	一八、三〇〇	
クロイーネ	一八、三〇〇	

荷動

世界主要農産物産出高

(一九二七年)

小麥	千キントル	二、〇五二	ライ麥	千キントル	一、五五三	燕麥	千キントル	二、二八〇	玉蜀黍	千アツセル	八八、〇〇〇
大麥	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
歐洲	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
佛蘭	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
伊太	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
西班牙	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
獨逸	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
羅馬	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
塞耳	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
英吉	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇
洪甸	千キントル	一、〇四一		千キントル	一、五五三		千キントル	二、二八〇		千アツセル	八八、〇〇〇

波蘭	二、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二
其他	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一
北亞米利加洲計	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三
合衆國	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三
加奈陀	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二
亞細亞洲計	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二
英領印度	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四
日本	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四
亞弗利加洲計	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四
南亞米利加洲計	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七
南洋洲計	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六
總計	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三

世界砂糖主要産地別

(單位千噸)

波蘭	二、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二	三、〇五二
其他	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一	一、〇四一
北亞米利加洲計	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三
合衆國	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三	三、〇九三
加奈陀	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二	七、三三二
亞細亞洲計	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二	一、二八二
英領印度	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四	九、〇三四
日本	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四	九、七二四
亞弗利加洲計	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四	三、三三四
南亞米利加洲計	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七	六、一八七
南洋洲計	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六	四、五三六
總計	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三	九、四三三

【貿易及荷動】

【貿易及荷動】

內歐	米棉	印棉	埃及棉	其他	合計	亞細亞	支那	日本	印度	露國
伊國	七、三三六	九〇三	三、一六六	一、九五六	一〇、九三二	四九	—	—	—	—
佛國	一、三三六	八二	三、二五	三、二五	一〇、九三二	—	—	—	—	—
獨逸	一、三三六	一、七三	七〇	一、一〇〇	一〇、九三二	—	—	—	—	—
英國	八三	一、四	六	一、一三	一〇、九三二	—	—	—	—	—
羅巴	六八	一、九	七	一、一三	一〇、九三二	—	—	—	—	—
合計	六八	一、九	七	一、一三	一〇、九三二	—	—	—	—	—

世界小麥荷動狀況

歐洲生產	英國輸入	歐大陸輸入	全歐洲輸入	歐洲外輸入	世界荷動
一九二〇年	三、九三	九、四九	一三、四二	一、七四	一六、一六
一九二一年	三、九三	九、四九	一三、四二	一、七四	一六、一六
一九二二年	三、九三	九、四九	一三、四二	一、七四	一六、一六
一九二三年	三、九三	九、四九	一三、四二	一、七四	一六、一六
一九二四年	三、九三	九、四九	一三、四二	一、七四	一六、一六
一九二五年	三、九三	九、四九	一三、四二	一、七四	一六、一六
一九二六年	三、九三	九、四九	一三、四二	一、七四	一六、一六

米材輸入趨勢

年次	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
因に各國別輸出力は合衆國六、四六千噸、加奈陀五、九七千噸、亞爾然丁三、二四萬噸、濠洲三、七九千噸、印度其他三、六三萬噸	九一、九〇、八〇〇	三六、七、四〇〇	七、七、三、八〇〇	七、七、三、八〇〇	七、七、三、八〇〇	七、七、三、八〇〇	七、七、三、八〇〇	七、七、三、八〇〇	七、七、三、八〇〇	七、七、三、八〇〇
（單位B M 呎）	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年
橫濱	四五一、七六七、九〇四	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六
大阪	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六	四〇七、七二六、二〇六
名古屋	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九	九二、〇〇六、六六九
神戸	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八	三四、〇〇八、〇五八
（單位石）	一九二八年	一九二九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
太平洋岸	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八	八、九六九、〇七八
日本海岸	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四	一、七〇三、一五四
九州	五三、七九六	五三、七九六	五三、七九六	五三、七九六	五三、七九六	五三、七九六	五三、七九六	五三、七九六	五三、七九六	五三、七九六
北海道	七九、六九二	七九、六九二	七九、六九二	七九、六九二	七九、六九二	七九、六九二	七九、六九二	七九、六九二	七九、六九二	七九、六九二
支那方面	二八、四三六	二八、四三六	二八、四三六	二八、四三六	二八、四三六	二八、四三六	二八、四三六	二八、四三六	二八、四三六	二八、四三六
朝鮮臺灣其他	八二、一一〇	八二、一一〇	八二、一一〇	八二、一一〇	八二、一一〇	八二、一一〇	八二、一一〇	八二、一一〇	八二、一一〇	八二、一一〇

四年度北洋材積取成績

（單位石）

積地別	樺太	天鹽北見	沿海州	合計		
（弧内は前年度）	二、九四六、六八一（一、五〇八、五八二）	三、五三、二四一（四八五、六四一）	五、四三、三四四（六、九四、九八三）	三、八五、一六六		
揚地別	太平洋岸	日本海岸	九州	北海道	支那方面	朝鮮臺灣其他
積取石數	八、九六九、〇七八	一、七〇三、一五四	五三、七九六	七九、六九二	二八、四三六	八二、一一〇

三年度内國炭移送地方別表

炭名	瀨戶内海方面	阪神方面	伊勢灣方面	京濱方面	山陰北陸東北方面	朝鮮方面	其他	合計
筑豐炭	一、四三、三三五	三、三三、三八七	九、五九、九〇六	四、六二、八八四	二、五二、九七〇	一、四一、五四三	三、三三、三三四	六、八八七、七九〇
福阿炭	三、七三三	六、二、五三六	一、〇九、九二八	四、六、三六八	三、七〇九	五、八一〇	一、八二、七〇七	四、八六一、六一
佐賀炭	一、〇、九〇六	一、九三、七九	一、〇九、〇九七	三、〇〇、七三〇	二、四、二四〇	二、〇、九	三、七四、八〇六	八、六三、三三〇
平戸炭	一、〇、九〇六	一、九三、七九	一、〇九、〇九七	三、〇〇、七三〇	二、四、二四〇	二、〇、九	三、七四、八〇六	八、六三、三三〇
高島炭	四、三、五三	五、九、八八八	九、四、四八	三、三、八九三	四、四、八三	四、二、八四	五、二、七九	二一、三、四〇
松島炭	一、九、八六	二、〇、九五〇	四、三、九六四	一、七、〇五	—	一、四、六六〇	八、一、三九八	二、八、七、九四三
月別	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計	（單位噸）
積取石數	一〇、六〇〇	三、六、七三〇	一、二、五〇、二八三	一、九七、九九五	二、二、四、八五三	二、二、四、八五三	三、八五、一六六	（單位噸）

【貿易及荷動】

海運

貿易及荷動

崎戸炭	七、三三七	一四、〇五五	三〇、一三三	一五、〇九八	七、一三〇	七、二八〇	三〇、一三〇
三池炭	六、四四六	二〇、七九九	三〇、七五四	二七、一三三	三、九五三	一四、二七五	二九、四二五
字部炭	六、四二五	五五、二二一	三、〇七三	二八、八四四	六、四〇三	三、三五六	一、四七四、〇三七
常盤炭	—	—	—	四、五八八	二、四二八	—	—
北海道炭	—	—	—	一、二七六、五五四	—	—	—
臺灣炭	—	—	—	—	—	—	—
合計	二、三六、七三三	四、八五、九四二	一、七〇、七六六	二、七〇、八六四	一、六三、五〇七	二、九三、一七三	二、四一、八八二

三年度輸入炭輸入地方別表

瀬戸内海方面	四三〇、二九二	三九八、七六二	四三、八三四	—	—	—	—
伊勢灣方面	二四、八〇〇	六四、五〇〇	—	—	—	—	—
京濱方面	—	—	—	—	—	—	—
東北及北陸方面	—	—	—	—	—	—	—
九州方面	—	—	—	—	—	—	—
朝鮮、樺太	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—

豆粕輸入状況

昭和二年	一、二〇九、四〇〇噸	四三	年	九七三、七八三噸
昭和三年	一、二五八、五〇〇噸	四三	年	八二五、三一四噸
昭和四年	—	—	年	—
昭和五年	—	—	年	—
昭和六年	—	—	年	—
昭和七年	—	—	年	—
昭和八年	—	—	年	—
昭和九年	—	—	年	—
昭和十年	—	—	年	—
昭和十一年	—	—	年	—
昭和十二年	—	—	年	—
合計	—	—	年	—

今一昨年昨年各月の輸入量を比較対照するに左の通りである。

昭和二年	九五、二一〇噸	八五、四四八噸	四七、六八三噸	三八、〇四九噸
昭和三年	八八、七三四噸	一一〇、九六三噸	四三、二一一噸	六、三〇二噸
昭和四年	一一〇、八五九噸	一一〇、九六三噸	—	—
昭和五年	一一九、二二五噸	一四一、九五〇噸	—	—
昭和六年	一一一、八七四噸	一六四、五七八噸	—	—
昭和七年	一〇一、九九二噸	二〇五、三六五噸	—	—
昭和八年	—	—	—	—
昭和九年	—	—	—	—
昭和十年	—	—	—	—
昭和十一年	—	—	—	—
昭和十二年	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

海運

海運一年史 (自四年七月至五年六月)

海運大勢

折角順調の状態を辿れる海運界も偶濱口民政黨内閣が成立し金の解禁を標榜とする緊縮政策を以て臨んだので一般財界はショックを受け購買の減退爲替相場の變動で輸出貿易は不利輸入防壁となり一般海上荷動は輸移出入貨物とも非常なる閑散となり意外にも七月末から近海運賃暴落傾向となり一方北米航路も米材並に小麥輸入不振に陥りこれ又運賃崩落し市場大悲觀狀況を現出し早くも神戸船主會は共同警備其他不況對策を決議し東京大阪兩船主に激を飛し一方船主協會の問題ならしむるありて種々銘案が論議されたが古船解體補助を始め他方主義であつた結果遂に何物をも發見せず自然の推移に放任するの外はなかつた斯て我海運界は金解禁の犠牲となり米材運賃五弗若濱石炭運賃六十錢の

【海運】

レコードを以て越年した。愈金解禁實施を控へた昭和五年の春を迎へた解禁の影響は寧ろ準備時代に屬し解禁後は見違はれ輸入の増加は手控へられた市場物資の荷動國民の解禁恐怖安定とて或る程度の樂觀が豫想されてゐたのである然るに意外なことは金解禁と恰も前後して銀の大崩落となり前年來引續く生糸相場も愈崩落の極度に達する印度關稅引上實施から我棉製品の出に大打撃を與へ多少望を囁してゐた穀物類の荷動は遂に絶望に終つた等世界的天不景氣に見舞はれ金解禁の打撃は一層深刻化し遠洋運賃は南米歐洲九志を最低に浦鹽歐洲十六志米材六弗といふ標準であり一時小康期待であつた近海方面も北洋材百八圓を最高とし六月末には八十圓臺に崩落した世界的原因に出發せる今回の不振は自然定期船迄波及し郵船は三步減の五歩配當商船は無配當を曝露し従つて五十圓拂込の郵船株が三十一圓商船株十八圓といふ未曾有の慘狀に終つた併し關係事業である造船業並に海上保險等は前途に大悲觀を迎へつゝ相當の仕事と成績を以て上半期を過した以下斯界に於ける重要記録の概要を摘録する

索引

海運一年史	一三	△航路	世界備船料消長	二四
海運大勢	一四	主要港運程表	備船成約月別記録	二四
市況大勢	一四	補助命令航路	△船價	二七
各國海運保護政策	一四	命令航路内容及受命者	本邦船價表	二七
日本船主番附	一五	航路補助内容	本邦新造貨物船平均價格	二八
世界大船主	一六	會社別經營航路内容	世界新造貨物船價	二九
世界最大船舶	一六	日本中心内外競争航路	本邦賣買船月別表	二九
△船舶	一六	航路別國別配船	本邦對外賣買船	二九
世界汽船增加趨勢	一六	社外船配船表	輸出入船明細	二九
本邦海運發達趨勢	一六	本邦船配船表	△海員	二九
世界船舶噸數	一七	世界船配船表	海員現在數	二九
世界船舶噸型別年齡比較	一七	世界船配船表	海員事務成績	二九
世界船舶國別年齡比較	一七	世界船配船表	海技免狀受有者別	二九
世界優秀船舶別速力調	一七	世界船配船表	海員審判件數	二九
世界優秀船舶國別比較	一七	世界船配船表	海技受驗者	二九
世界モーター船國別調	一七	世界船配船表	船舶職員登錄	二九
世界油槽船國別調	一七	世界船配船表	海員審判所裁決事件種類	二九
世界船舶動力別比較趨勢	一七	世界船配船表	無料船員職業紹介成績	二九
本邦汽船累月現在數	一七	世界船配船表	海員標準給料制	二九
本邦汽船最速力調	一七	世界船配船表	世界主要海運國海員給料比較 (甲)	二九
本邦船舶資格内容	一七	世界船配船表	同 (乙)	二九
本邦内燃機船一覽	一八	世界船配船表		

海運

海運一年史 (自四年七月至五年六月)

海運大勢

折角順調的狀態を辿れる海運界も偶濱口民政黨内閣が成立し金の解禁を標榜とする緊縮政策を以て臨んだので一般財界はショックを受け購買の減退爲替相場の變動で輸出貿易は不利輸入防壁となり一般海上荷動は輸移出入貨物も非常なる閑散となり意外にも七月末から近海運賃暴落傾向となり一方北米航路も米材並に小麥輸入不振に陥りこれ又運賃崩落し市場大悲觀狀況を現出し早くも神戸船主會は共同緊縮船其他不況對策を決議し東京大阪兩船主に檄を飛ばし一方船主協會の問題ならしむるありて種々銘案が論議されたが古船解體補助を始め他力主義であつた結果遂に何物をも發見せず自然の推移に放任するの外はなかつた斯て我海運界は金解禁の犠牲となり米材運賃五弗若濱石炭運賃六十錢の

【海運】

レコードを以て越年した。愈金解禁實施を控へた昭和五年の春を迎へた解禁の影響は寧ろ準備時代に屬し解禁後は見送られ輸入の増加は手控へられた市場物資の荷動國民の解禁恐怖安定とで或る程度の樂觀が豫想されてゐたのである然るに意外なことは金解禁も恰も前後して銀の大崩落となり前年來引續く生糸相場も愈崩落の極度に達する印度關稅引上實施から我棉製品の輸出に大打撃を與へ多少望を囑してゐた穀物類の荷動は遂に絶望に終つた等世界的大不景氣に見舞はれ金解禁の打撃は一層深刻化し遠洋運賃は南米歐洲九志を最低に浦鹽歐洲十六志米材六弗といふ標準であり一時小康期待であつた近海方面も北洋材百八圓を最高とし六月末には八十圓臺に崩落した世界的原因に出發せる今回の不振は自然定期船迄波及し郵船は三步減の五歩配當商船は無配當を曝露し従つて五十圓拂込の郵船株が三十一圓商船株十八圓といふ未曾有の慘狀に終つた併し關係事業である造船業並に海上保險等は前途に大悲觀を迎へつゝも相當の仕事と成績を以て上半期を過した以下斯界に於ける重要記録の大要を摘録する

索引

海運一年史	一三三	△航路	世界備船料消長	二三四
海運大勢	一三四	主要港運程表	備船成約月別記録	二三四
市況大勢	一四〇	補助命令航路	△船價	
各國海運保護政策	一四〇	命令航路内容及受命者	本邦船價表	二二七
日本船主番附	一五九	航路補助內容	本邦新造貨物船平均價格	二二六
世界大船主	一六〇	會社別經營航路內容	世界新造貨物船價	二二九
世界最大船	一六〇	日本中心内外競争航路	本邦賣買船月別表	二二九
△船		航路別國別配船	本邦對外賣買船	二二九
△船增加趨勢	一六四	社外船配船表	輸出船明細	二二九
△船減少趨勢	一六五	本邦船配船表	△海員	
△船噸數	一六五	世界船配船表	海員現在數	二二二
△船噸數別年比較	一六五	世界船配船表	海員事務成績	二二三
△船噸數別年比較	一六五	東洋中心航路改廢新設	海技免狀受有者別	二二三
△船噸數別年比較	一六五	蘇土運河通過統計	海員審判件數	二二三
△船噸數別年比較	一六五	巴拿馬運河通過統計	海技受驗者	二二三
△船噸數別年比較	一六五	△運賃	船船職員登錄	二二三
△船噸數別年比較	一六五	世界標準運賃	海員審判所裁決事件種類	二二三
△船噸數別年比較	一六五	定期航路運賃	無料船員職業紹介成績	二二三
△船噸數別年比較	一六五	世界主要航路別運賃指數	海員標準給料制	二二三
△船噸數別年比較	一六五	△備船	世界主要海運國海員給料比較(甲)	二二三
△船噸數別年比較	一六五	昭和四、五年中備船料統計	世界主要海運國海員給料比較(乙)	二二三
△船噸數別年比較	一六五	本邦備船料消長		二二三

◇議會解散と特別議會 第五十七議會は豫定の如く形式的成立を告げたのみで愈二十一日の休會明日を以て解散された折角與へられた機會にも海事關係者の立候補者は案外少数で解散前の代議士であつた、平出、井上、藤原、堤、葛原、青山及檀野諸氏は立候補を斷念し新に山本平三郎、勝田銀次郎、白城定一、橋本喜造、米窪滿亮、岡崎憲、秋田寅之助の諸氏が立候補したが結局開票の結果は

中橋徳五郎 内田信也 若宮貞夫 勝田銀次郎
板谷順助 山本厚三 佐々木平次郎 中谷貞雄
福田五郎 山本平三郎

の十氏で他は惜敗した斯で第五十八特別議會は四月二十一日を以て召集されたが會期僅に三週間の短期日であつたので折角成案決定を告げた船員保險法案並に労働組合法等の提出もなく僅に提出された海運關係の法律案は左記二件であつた。

一、船舶金融法案(政府提出)可決
一、船舶業組合法案(議員提出)衆議院委員會通過
因に船舶業組合法案並に定款の原文は左の如きもので

ある

◇船舶業組合法案の内容は左の如し
船舶業組合法草案

- 第一條 船舶業組合ハ海上運送業ノ改良發達ヲ圖リ組合員共同ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス
- 第二條 船舶業組合ハ法人トス
- 第三條 船舶業組合ハ船舶法又ハ朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ノ所有者及賃借人ヲ以テ其ノ組合員トス但シ官廳又ハ公署及船舶ヲ他人ニ貸貸スル使用者ハ此ノ限ニ在ラス
- 左ニ掲クル船舶ハ前項ノ適用ニ付テハ之ヲ船舶ト看做サス
 - 一、汽船又ハ内燃機船ニ非サル船舶
 - 二、總噸數五百噸未満ノ船舶
 - 三、運送ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノニ非サル船舶
 - 四、前三項ノ外命令ヲ以テ定ムル船舶
- 第四條 船舶業組合ヲ設立セムトスルトキハ前條ノ規定ニ依リ組合員タルヘキ者二十人以上發起人トナリ

其ノ組合員タルヘキ者二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ則立總會ヲ開キ定款其他必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ同意ヲ爲シタル者ノ所有シ又ハ賃借スル船舶ハ前條ノ規定ニ依ル船舶ノ三分ノ二以上ナルコトヲ要ス

船舶業組合ハ前條第一項ノ認可アリタル日ニ於テ成立ス

船舶業組合成立ノ後役員ノ選任アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ

第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一、名稱及事務所ノ所在地
- 二、役員ノ定數、權限及選任、解任ニ關スル規定
- 三、會議ニ關スル規定
- 四、業務及其ノ執行ニ關スル規定
- 五、組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定
- 六、庶務及會計ニ關スル規定

第七條 船舶業組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス
主務大臣ニ於テ營業上ノ特別ノ情況ニ依リ組合員タ

ラシメス又組合ノ脱退ヲ許スコトヲ得

第八條 船舶業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ業務ヲ行フ

- 一、海上運送業ノ發達改善ヲ圖リ組合員共同ノ福利ヲ増進シ共通ノ弊害ヲ矯正スルニ必要ナル事項
- 二、海上運送業ニ關スル研究及調査
- 三、海上運送業ニ關スル紛議ノ調停及仲裁
- 四、海上運送業ニ關スル證明及鑑定
- 五、其他前各項ノ目的ヲ達成スルニ必要又ハ有益ナル事項
- 第九條 船舶業組合ハ海上運送業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得
- 船舶業組合ハ行政ノ諮問ニ對シ答申スヘシ
- 第十條 行政官廳ハ船舶業組合ニ對シ海上運送業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得
- 第十一條 船舶業組合ハ營利事業ヲ爲シ若クハ組合員ノ營業ニ關與スルコトヲ得ス
- 第十二條 左ニ掲クル事項ハ總會ノ決議ヲ經ヘシ
 - 一、定款ノ變更
 - 二、經費ノ豫算及賦課徵收方法

【海 運】

- 三、業務報告及收支決算ノ承認
 - 四、理事及監事ノ選任又ハ解任
 - 五、解散
 - 六、其ノ他重要ナル事項
- 前項第一號、第二號及第五號ニ掲グル事項ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十三條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ所有又ハ貸借船舶ノ噸數經費分擔額ニ應シ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得
- 第十四條 總會ノ決議ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
- 第十二條第一號及第五號ニ掲グル事項ノ決議ニハ總組合員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當タル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス
- 組合員ハ豫メ組合ノ承認ヲ經タル一定ノ者ヲシテ總會ニ出席シテ議決權ヲ行使セシムルコトヲ得
- 總會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ議

決權ヲ行使スルコトヲ得ス

- 第十五條 船舶業組合ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 理事 若干名
 - 監事 若干名
 - 評議員 若干名
- 理事ハ理事長一名ヲ互選ス
- 第一項ニ掲グルモノノ外定款ヲ以テ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
- 第十六條 理事長ハ船舶業組合ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス
- 理事長事故アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス
- 理事ハ理事長ヲ補佐シ船舶業組合ノ事務ヲ處理ス
- 第十七條 監事ハ船舶業組合ノ事務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス
- 第十八條 評議員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員中ヨリ之ヲ選任ス
- 但シ法人タルコトヲ妨ケス
- 評議員ハ理事長ノ諮問ニ應シ及定款ニ定ムル事項ヲ議決ス

評議員會ノ決議ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル評議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四條第三項乃至第五項ノ規定ハ評議員ニ之ヲ準用ス

- 第十九條 船舶業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ賦課シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得
- 前項ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ理事長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ
- 前項ノ徵收金ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ時効ニ就テハ市町村税ノ例ニ依ル
- 經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得
- 第二十條 船舶業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得
- 前項ノ使用料及手数料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ

【海 運】

提起スルコトヲ得

- 第二十一條 船舶業組合ハ收支決算ヲ主務大臣ニ報告スヘシ
- 船舶業組合ハ少クモ毎年一回其ノ業務成績ヲ主務大臣ニ報告スヘシ
- 第二十二條 船舶業組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス
- 第十九條第二項ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス
- 第二十三條 船舶業組合解散シタルトキハ總會ニ於テ清算人ヲ選任スヘシ清算人缺ケタルトキ亦同シ
- 清算ノ選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十四條 前條ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ主務大臣清算人ヲ選任ス
- 第二十五條 清算人ハ船舶業組合ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
- 第二十六條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ總會ノ決議ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 總會前項ノ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ清算及財産處分ノ方法ヲ定ムヘシ

【海 運】

第二十七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ定款、經費ノ豫算及賦課徴收方法又ハ清算及財産處分ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 船舶業組合ノ總會ノ決議又ハ役員若ハ清算人ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一、組合ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止
二、總會決議ノ取消
三、役員又ハ清算人ノ解任

附 則

第二十九條 市制町村制ヲ施行セサル地域内ニ營業所又ハ住所ヲ有スル船舶業組合員ノ經費又ハ過意金ヲ滯納スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ其徴收方法ヲ定ムルコトヲ得

◇船舶組合定款記載要項

第一項 當組合ハ組合員共同一致シテ海上運送業ノ改良發達ヲ圖リ組合員共同ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第二項 當組合ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ業務ヲ行フ
一、海上運送業ノ發達改善ヲ圖リ組合員共同ノ福利ヲ増進シ共通ノ弊害ヲ矯正スルニ必要ナル事項
二、海上運送業ニ關スル研究及調査
三、海上運送業ニ關スル紛議ノ調停及仲裁
四、海上運送業ニ關スル證明及鑑定
五、其他前各項ノ目的ヲ達成スルニ必要又ハ有益ナル事項
六、海上運送業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スル事
七、行政廳ノ諮問ニ對シ答申スル事
八、行政廳ノ海上運送業ニ關スル事項ニ付キ調査ヲ命セラレタル場合之ニ對シ答申スル事

第三項 當組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但組合員ノ所有又ハ貸借セル船舶ニシテ組合法第三條ニ所謂船舶噸數カ一萬噸ヲ超ユルトキハ一萬噸ヲ超ユル毎ニ一個ツツノ議決權ヲ追加スル程度ニ於テ噸數、經費分擔額ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルモノトス

第四項

同一ノ仕事ヲ爲スモノナリ

◇改正された法令 内閣が更迭する議會は解散されて短期の特別議會が開會されたのみであるから海事關係法令の公布乃至改正されたものは殆んど指摘するに足らず結局左の數件に過ぎぬ

- 一、海事資源調査規則 (十一月廿七日公布 十二月一日實施)
- 一、造船資源調査規則 (同)
- 一、船舶職員法施行細則 (二月十五日公布 五月十日實施)
- 一、船舶職員試験規程改正 (三月十八日公布 五月十日實施)
- 一、阿片運送取締規則 (三月十七日公布即日實施)

一、船舶金融制度
◇國際労働問題 海運界不振のため繋船手當給食料及手當等の妥協的減額が行はれたが中には一方行爲のため爭議を醸し海員組合、海員協會等は失業者救濟爭議解決等に忙殺さるゝ等海上労働界は多忙であつた殊に八時間制案を協議する國際海上労働會議が十月十日にジュネバに於て開催されるので代表並に顧問隨員一行は九月二十四日神戸出帆白山丸で出發した因に代表顧問は左の如し

第六項 左記事項ニ付テハ當組合ニ於テ之ガ議決ヲ爲シ又ハ之ヲ實行スルヲ得サルコトヲ定款ニ記載スルカ又ハ其他適當ノ方法ヲ以テ之ヲ表示シ置クモノトス
(1) 當組合ハ營業ヲ爲ササル事
(2) 各組合員ノ營業上ノ自由ヲ妨ケサル事
(3) 各組合員ニ對シ營業上ノ制限ヲ爲シ又ハ營業上禁止的行爲ヲ爲ササル事
(4) 運賃率ヲ定ムル行爲ヲ爲ササル事
(5) 當組合ハ借入金ヲ爲ササル事
本組合ハ主トシテ労働問題ヲ除キタル日本船主協會ト

【海 運】

【海 運】

◇政府代表

吉阪 俊藏

浅野 平二

顧問

長谷川 公一

長岡 信捷

随員

篠原 昌治

鈴木 八郎

随員

石井 金樹

福原 敬次

随員

大谷 龍造

倉林 賢造

◇使用者代表

上谷 續

顧問

浦田 格介

丸山 直次

嘱託

友澤 甚輔

◇労働者代表

濱田國太郎

顧問

米窪 滿亮

鈴木 仁一

嘱託

古川 宗彬

今次會議は明後年開催される會議の豫備的會議であるから決定的決議を爲すものではなく謂ば議題に對する

下協議的の會議であつた而して其主要案件は

一、船舶上における労働時間の規律

一、疾病の場合における海員の保護（船舶上におい

て傷害を被りたる海員の手當を含む）

一、海港における海員の福利の増進（海員宿泊状態

の改善）

一、船長、運轉士、機關士の最少限度において具備

すべき職業上の資格

等が主たるもので會議の劈頭に於て英國資本代表の列席拒絶から資本代表側が代表選出方法の改正を條件に出席拒絶となり一時大波瀾を惹起したが妥協になり會議は豫定の如く終了を告げた。

◇海運不況對策 漸く安定傾向にあつた海運界は濱口民政黨内閣が出現し金解禁準備のための緊縮政策を採つたので輸入防止を始め經濟界不振に陥り一般貨物輸送激減し例年繁忙季なるに近海運賃は早くも七月に入り低落歩調となり六月末北洋材百三十圓若濱石炭一圓六十五錢を唱へた運賃が七月末には前者は九十五圓後者は一圓二十錢と暴落し新穀輸送期待外の遠洋も稀有の不振で世界的不況期到來し海運界の大問題となり共同繋船案を始め左の如き對策が各團體に於て提唱研究された

（船主協會案）

一、遠洋航路補助に關する件

二、海事金融に關する件（一、新造船並に輸入船に對する資金、二、船舶運轉資金）

三、船腹調節の件（一、不經濟船の解體獎勵二、老齡

船の輸入防遏三、新造船及び輸入船の統制及び船舶

輸入税）

（神戸船主會案）

一、外國港間を航行する船舶には政府より補助金の下

附を受くること

一、遠洋方面へ配船するに資力ある大型船主にして未

だ經驗なき船主のため外國港灣事情調査委員會を設

くること

一、積荷制限として一割乃至一割五分減とするこ

一、備船の損失に對しては船主及び備船者が折半する

こと

一、不經濟船は之を解體せしむるため政府から補助金

の下附を受くること

（東京船主會案）

一、不定期自由遠洋就航船に對し航海獎勵制度の復活

を望む

二、現有船舶の實質改善のため之れが先決問題たる老

齡船整理方法の立案實現を望む

三、船舶再保險官營實施を望む

四、船舶金融機關の特設を望む

【海 運】

（其他各方面の意見）

一、旅客船を除いた船舶の定期検査の廢止

一、船舶輸入税の廢止船舶噸税の輕減

一、不定期船の自由に航海せる方面の命令航路廢止

一、情實的重複航路の整理

一、定期船不定期船の航路協定

一、船主の團結を圖り荷主の壓迫を排し運賃の自繩自

縛的低下を阻止

一、船主オペレーター間の提携に依り運賃市場の競争

阻止

一、船主團體の結合を鞏固にし船費の節約遠洋航路發

展方法の調査研究

一、海事行政統一

一、水陸連絡設備並に小運送改善

一、補助航路使用船舶の資格制限及び該航路の整理統

一

一、自國船利用

一、滿鐵の海運政策（大連汽船）變更

更に海運界の深刻は愈極度に達しこれが救濟對策は五

年に至り

【海 運】

一、北洋材積取プール團(五社)

一、船舶金融法制定

右二案が實現したのみで最後に強制船主組合法案が問題となり衆議院の委員會を通過した

◇優秀船の配船 國策的立場から郵商兩社が犠牲を拂ひ建造中であつた優秀船は着々竣成左の如く配船した

一、桑港線 淺間丸十一月十二日秩父丸は四月一日

龍田丸は四月二十二日横濱出帆處女航海(郵船)

一、シヤルト線 第一船氷川丸は五月九日横濱發處女航海(郵船)

一、南米東岸線 ブエノスアイレス丸十一月十二日

リオデシヤネイロ丸は六月七日神戸出帆處女航海

(商船)

一、濠洲線 第一船シドニー丸は十二月三日神戸發

處女航海

◇世界各國海運政策 當年間中に世界が議會に提出した海運關係施設の主要なるものを指摘せば左の如し

一、海運政策一般

佛國 造船業不振原因の研究依頼囑解體船に對する輸

入税免除船舶輸出制限

獨丁 同船舶検査證書相互承認に關する協定成立

ユーゴスラヴィヤ 海運補助

二、郵便補助

米國 院船拂受人に對する郵便契約優先許可法案米

國船との競走的立場に在る外國船運業者に對する郵

便契約許可禁止法案郵便契約規定をカナダ諸港航路

に適用せんとする法案最近決定の郵便契約に對する

新船建造要求高き郵便補助金見積額

西班牙 政府の Compania Transatlantica 社整理並

に一時的經營管理と補助航路改廢

三、航路補助及航路經營契約

米一露 American Acatic Line, Inc.(米)對 Am-

Demetra Transport Corp.(露)の紐育—歐露北部諸

港間航路契約成立

伊太利 Lloyd Triestion 社に對する航路補助契約

改正 Societa Venezianadi Navigazione Vapore

に對する印度航路補助契約

智利 政府のアルセンチン、伯刺西爾航路補助

四、海運金融及造船補助

日本 海運金融案(貴衆院通過)

佛國 造船獎勵金制度復活提案海運金融法實施成績

優秀船建造補助

諾威 船舶抵當貸附銀行一九二九年度營業成績諾威

船主船舶金融組合設立

五、船舶國營

勞農ロシア 商船隊大擴張計畫

秘露 唯一の同國汽船會社政府の管理に移さる

六、船舶課税

米一希 船舶二重課税相互免除條約成立

諾威 船舶減價消却金に對する所得稅免稅點改正

七、差別待遇

佛・白 兩國諸港乗下船移民並に船客輸送均等待遇

に關する條約概要

八、海運團體

日本 船舶業組合法案

印度 印度人船主協會創設

九、海運機關

【海 運】

英國 ロイド・レヂスター英國民間航空機検査權獲得

一〇、海 員

佛國 船員保險法改正年金増額法概要

獨逸 船員最低賃銀引上

白耳義 海員最低賃銀引上

◇國汽整理案決定 前内閣以來懸案であつた國際汽船の整理は九月三十日の預金部運用委員會に於て左記内容の如く決定した

決定事項

一、國際汽船株式會社關係興業債券條件變更の件

預金部所有國際汽船株式會社關係第一百回興業債券

二千九百二十萬圓は左の通り條件を變更して昭和四

年九月末日に於て借換せしむること

一、利 率 年二分

二、利拂期 毎年三月末日及九月末日

三、期 限 昭和三十四年九月末日

四、償還方法 元金は昭和四年より同十四年迄十年間据置、昭和十五年より同三十四年迄毎年三月末

【海 運】

日及九月末日の二回定額償還すること
 五、未拂利息 昭和二年六月二日以降同四年九月三十日迄の第一次未拂利息二百四萬二千三百九十八圓は昭和三十四年九月末日迄無利子にて支拂を猶豫すること

附 帶 條 件

一、興業債券の元利(第一次未拂利息を含む)は國際汽船株式會社より支拂の有無に拘らず期限通り日本興業銀行に於て支拂第一銀行及十五銀行は右日本興業銀行の債務に付各其の三分の一を支拂保證すること
 二、國際汽船株式會社に於て整理案に依る收支豫想表以上の利益を得たる時は之が處分に付銀行と協議すること
 前項の場合に於て銀行は豫め政府の承認を受け又は政府の協議に應ずること
 三、日本興業銀行は第一銀行及十五銀行と協同して國際汽船株式會社の業務の改善及其の監督に付最善の努力を爲し其結果に付時々之を預金部に報告する
 國際汽船は多年の懸案である整理案が愈成立を告げたので十月末總會を開きこれを承認した。

市 況 大 勢

緊縮内閣の海運壓迫 海運界の大勢は北洋材の大半は未契約であるに對し船腹は殆んど大手筋の手に握られてゐるから市場は樂觀的安定であり船腹の準備を整へた大手筋は市場運賃を煽るべく盛んに政策的採算度外の備船を進める状況であつたが七月に入り突如濱口緊縮内閣の實現を動機に金解禁を發表する事になり對外爲替一齊輸入手控へ内地消費節約實行豫算の切詰め等政府の消極政策の壓迫露支國交斷絶は浦鹽經由荷物の杜絶等各方面から惡材料の續出で例年北洋材の積取最盛期の八月上旬に於て運賃界は急轉直下早くも左の如き運賃慘落を見た

	七月上旬	八月上旬	去年同期
北 洋 材	二五圓	九圓	二〇圓
若 濱 石 炭	一、六〇圓	一、三〇圓	一、五〇圓
北 米 材	七弗五仙	六弗五仙	八弗五仙
大型備船料	二、〇〇圓	一、五〇圓	一、八〇圓
近海一區配船	一、九三、八四五	二、〇五、九五一	二、二五、〇〇〇

右の運賃は全く採算割れである斯く運賃界の慘落を見

たのは北米一帯の不作と米材輸入の杜絶大型船の近海配船増加であるが一面大手筋の市場維持對策が不能となつた反動と當業者の狼狽等が原因で急轉直下の市場を實現したもので神戸船主會の如き緊急總會を開き共同緊船案を提唱する騒ぎであつた斯くて市場は左の如き慘狀を呈した

	七月	八月	九月
大型備船料	一、八〇錢	一、三〇錢	一、三〇錢
小型備船料	三、〇〇錢	二、八〇錢	二、〇〇錢
南米歐洲	二三志	一九志	一八志
北 米 材	八弗半	七弗半	六弗半
北 洋 材	一〇圓	七圓	六圓
若濱石炭	一、五錢	一、〇五錢	一、〇錢

◇稀有の運賃慘落 市場の不振から大型船の歐洲配船が競はれ八九兩月に亘り左の如く合計二十二隻の成約を見た

北米太平洋濠洲	二隻	六六、八五噸
大 連 歐 洲	一〇隻	六八、八〇噸
北米西岸歐洲	四隻	三七、八〇噸
北米西岸智利	三隻	二五、七〇噸
其 他	四隻	三三、八〇噸
合 計	三隻	二九五、二〇噸

【海 運】

右の如く大手筋の遠洋配船で多少安定傾向となり近海運賃は底入れ傾向であつたが萬一の期待であつた遠洋荷動は世界的穀物類出廻不振に全く絶望となり近海荷動は益々不振となり比較的安定を持してゐた石炭運賃も十一月に入り急落し若濱石炭運賃は一圓割れから五十五錢といふ稀有の慘落を示し南米運賃亦十二志を唱へ表面の緊船は數隻だが停船は到る所に姿を表し幾多の不況對策も實現難の絶望に唯だ來春の局面轉開を頼みに悲慘なる越年であつた左に歲末市況を示す

	十月	十一月	十二月
北米材運賃	七弗五仙	六弗	六弗半
南米歐洲運賃	一六志	三志	三志
若濱石炭運賃	一、〇錢	〇錢	〇錢
近海配船	一六萬噸	一五萬噸	一四萬噸
北米配船	五萬噸	六萬噸	六萬噸
大型備船料	一、五錢	一、四錢	一、三錢
小型備船料	二、五錢	二、〇錢	二、〇錢

◇不安に生れた海運 金の解禁は愈一月十一日を以て實施され議會は二十一日解散となる銀の暴落は稀有のことで印度の綿布系關稅は實施されるといふ状況で新年早々海運界は悲觀材料の出揃ひであつた折角期待さ

【海 運】

れてゐた米材並に小麥の輸入も金解禁に無影響で出廻らず少麥の輸送は世界的に不振を極め旁運賃界は昨年未よりも低落傾向を辿り荷待の停船は到る所に散在する状況にあつたこれに對し船主は北洋材の先物契約を一月二十五日迄見送る申合を勵行し自重的態度を採り一方支那揚げの外米輸送が弗々引合はれ中型船消化に機會を與へる等二月中旬を最低として三月に至り三井山下、國際、川崎及太平洋海運の五社で北洋材プールの組織し運賃統制に備へ一方北洋材初航積取も開始されるこいふ状況運賃市況は漸次好轉し各方面とも一齊に昂騰し前途に多少の期待を有つて小康を呈するに至つた斯て市場は左の如き状況を辿つた

	一月	二月	三月
大型備船料	一、三〇錢	一、三〇錢	一、五〇錢
小型備船料	二、〇〇錢	二、〇〇錢	二、五〇錢
南米歐洲運賃	一五志	二志	三志
米材運賃	六弗五仙	六弗	七弗
北洋材運賃	一〇〇圓	九五圓	一〇〇圓
若松橫濱運賃	八〇錢	七五錢	一、一五錢

◇期待違ひの慘狀 四月初めの樂觀筋の期待はこの景

氣を以て推移せば或は夏季の我國中心海運界は相當調を保ち運賃も或る程度の昂騰を見るであらうと俄に樂觀期待の市場を招來せる觀であり神戸海運集會所の如き左の船腹需要を見越して樂觀を唱へてゐる

品名	本年	昨年
一、北洋材	一千萬石四月から十月七ヶ月百五十萬石七十萬噸	
一、米材	八百萬石一ヶ月六十六萬石三十萬噸	
一、小麥鐵材	毎月六萬噸(太平洋)	
一、長江筋	大治四十萬噸秋港二十五萬噸馬鞍山二十萬噸沈家營二十萬噸合計百萬噸	
一、支那炭輸送	撫順、開平、四川炭約十五萬噸	
一、漁業用船腹	五十萬噸一ヶ月平均八萬噸	
一、其他近海船腹	八十萬噸石炭、豆粕、鐵石其他	
一方近海二區乃至南洋に掛けての配船は未曾有の旺盛を極め左の如く四月末の配船は百十八隻七十七萬噸を算する盛況であつた。		
然るに右の如く五月に入り外米輸送一段落し米材輸入		

が絶望の状況となり歐洲各國の繋船は一月の百五十萬噸が一躍して六百萬噸を算する慘狀にある等の關係から五月末を最高潮として六月に入り俄然船腹過剩北洋材の見送支那の動亂等から荷動期待を裏切り再び運賃暴落傾向に轉じ六月末に至り北洋材七十五圓若濱圓割れ米材六弗を出現早くも夏枯現象となり各方面に繋船續出する再び不況對策が議論される等非常な杞憂現象を呈するに至つた因に過去三ヶ月の市況は左の如し

	四月	五月	六月
大型備船料	一、六〇錢	一、五〇錢	一、〇〇錢
小型備船料	三、〇〇錢	二、〇〇錢	二、〇〇錢
南米歐洲運賃	二三志半	二三志	三志半
米材運賃	七弗七五仙	七弗	六弗
北洋材運賃	一〇五圓	一〇三圓	七五圓
若松橫濱運賃	一、二五錢	一、二五錢	一、〇〇錢

斯て本年上半期の海運界は中型船の活躍で一時小康を保つたが各方面の悲觀材料と世界的荷動不振船腹過剩は大勢如何ともする能はず遂に悲惨なる運賃崩落を以て幕を閉ぢ前途に杞憂現象を胎すに至つた。

◇市況大勢 終りに過去一ヶ年間に於ける海運市況の大觀を以下數字上に現はす

【海 運】

船型	備船料	荷物	最高	最低
八千噸以上	一、八〇錢	(石炭)	一、五〇錢	六〇錢
六千噸以上	一、八〇錢	(豆粕)	一、六〇錢	八〇錢
四千噸以上	二、五〇錢	(米材)	七弗五仙	七錢
二千噸以上	三、〇〇錢	(小麥)	三志	二志
二千噸以下	四、〇〇錢	(丸太)	一三圓	七圓

世界的に運賃界は昨年七月を最高とし漸落に慘落を重ねた慘狀であつたに比し備船料界は大手筋の長期成約のため比較的割高を以て終始し運賃崩落の割合に船主の苦痛少く四五月に於て始て苦痛を平均するに至つた

船舶現在高

【海運】

四年六月	日本	四、七六、八六噸	世界	六、四〇八、二五噸
五年六月		四、三三、九六噸		六、〇三六、〇〇噸
進水船 (自一九二九年七月至一九三〇年六月)				
一九二九年		一四、一五噸		二、四九、八〇噸
一九三〇年		一六、九三噸		

以上は海運大勢を示したものであるが結論として賣買船並に備船の各月に於ける成約レコードを摘録する

月別	船名	船齡	重量噸	船價噸當
七月	神護	一九二七	六、八二	七〇、〇〇
八月	長府	一九三〇	一、八五〇	二九、九〇
九月	陽明(解體)	一九二八	一〇、六八五	一三、五〇
十月	廣永	一九二九	六、八二〇	六〇、〇〇
十一月	因幡	一九二七	七、五〇〇	四〇、〇〇
十二月	三福	一九二九	一、九〇〇	八〇、〇〇
一月	ハドソン	一九三〇	六、一〇〇	二四、〇〇
二月	江崎	一九二九	六、七六六	五九、三〇
三月	惠山	一九三三	四、六四〇	一四、五〇
四月	榮福	一九三三	一、三〇〇	八三、〇〇
五月	南海	一九二七	八、〇〇〇	二七、五〇
六月	壽滿	一九二二	三、〇〇〇	一八、〇〇

月別	船名	重量噸	航路	備船料
七月	春晴	八〇七〇	北米	一、八五
八月	紅海	二、〇五〇	近海	二、〇〇
九月	登久	七、七五〇	近海	一、五〇
十月	春洋	四、二〇〇	近海	二、〇〇
十一月	大福	八、八〇九	遠洋	一、八〇
十二月	甲南	八、八〇八	遠海	一、七五
一月	甲福	二、八五五	遠海	一、八〇
二月	甲順	八、七三九	遠海	一、七五
三月	廣河	三、九六二	近海	一、五〇
四月	加賀	八、一三六	遠海	一、五〇
五月	蒙古	一〇、六七〇	遠海	二、〇〇
六月	鐵山	二、一五〇	近海	一、二〇
七月	平仁	六、七一一	近海	一、二〇
八月	豐川	二、六四一	近海	一、二〇
九月	黑川	八、〇〇〇	近海	一、二〇
十月	西山	四、八七一	近海	一、二〇
十一月	北海	七、二二六	近海	一、二〇
十二月	平海	二、二五〇	近海	一、二〇
一月	平海	八、二一〇	近海	一、二〇
二月	平海	二、四〇〇	近海	一、二〇
三月	平海	七、二〇〇	近海	一、二〇
四月	平海	四、四〇〇	近海	一、二〇
五月	平海	四、四〇〇	近海	一、二〇
六月	平海	四、四〇〇	近海	一、二〇

各國海運保護政策

各國の海運保護政策は戦後海運界が依然として世界的に不振の域を脱せず斯業の窮状は勢ひ列國共に海運政策上の施設に於て海運造船補助の傾向最近著しきものあり左に各國の採れる保護制度の概要を記述せん

△日本

□遠洋航路補助法

帝國臣民又は帝國臣民のみを社員若しくは株主とする商事會社にして運送業を営むものは、(一)歐洲、(二)北米(三)南米、(四)濠洲の航路に、五年以内の期間を限り、航海補助金の附與を受け、定期航海を營むことを得船舶資格補助航海に使用さる、船舶は、總噸數三千噸以上にして、一時間十二海里以上の速力を有し、帝國船籍に登録されたる、船齡十五年以内の鋼製汽船たるを要す。外國製造の船舶は使用するを得ず、但し帝國船籍に登録の際、船齡五年以内にして、已むを得ざる事由に出づるものは、主務大臣の認可を得て、之を使用するを得補助金額一使用船舶總噸數一噸、航海里數一千海里につき速力一時間十二海里を有するものに對し、五十錢以内速力一時間一海里を増す毎に、其百分十を増したる金額以内にして、航海の状況に應じ支給さる。船齡五年を越ゆる船舶に對しては、一年毎に其百分五を遞減さる。外國製造の船舶に對しては、半額の支給に止まる。特に主務大臣の認可を得たる設計に依り製造した船舶、又は定期航海の開始後五年を経過せざる航路に使用する船舶に對しては、右金額百分二十五以内の増給あり。

義務(一)旅客、貨物の運賃を定むるに、主務大臣の認可を経ざるべからず。(二)郵便物及び郵便用品を無賃にて搭載し、無線電信の通信に關する設備を爲し、且つ通信事務又は航路視察の爲め、主務大臣の派出する吏員を無賃

【海運】

【海 運】

にて乗船せしめざるべからず。(三)其費用を以つて一定の航海修業生を乗組ましめざるべからず。
 (四)主務大臣の定むる補償金額を以つて、其船舶を公用の爲め收用又は使用せらるゝを拒む能はず。(五)補助金を受けて航海する期間、及び最終の航海を終はりたる日より三年間、其船舶を外國人に譲渡し、貸渡し、又は擔保に供することを得ず。以上を其義務の主要なるものとす。

航路一航路の起點、終點、其各航路に使用すべき船舶條件等左表の如し。

起點	終點	寄港地	使用船舶	航海度数
北米航路	桑港線		三 一萬二千五百噸以上 一萬三千五百噸以下	十八海里以上 二十海里以下 每四週一回 十四航海
西廻航路	香港、神戶、長崎、上海		六 六千噸以上 九千七百噸以下	十三海里以上 十五海里以下 每三箇月一回 六航海
南米航路	西岸線	香港、神戶、門司	六 六千噸以上 九千七百噸以下	十三海里以上 十五海里以下 每三箇月一回 六航海
南米航路	東岸線	神戸、長崎、上海	六 六千噸以上 九千七百噸以下	十三海里以上 十五海里以下 每三箇月一回 六航海
南米航路	東岸線	神戸、長崎、上海	六 六千噸以上 九千七百噸以下	十三海里以上 十五海里以下 每三箇月一回 六航海
南米航路	東岸線	神戸、長崎、上海	六 六千噸以上 九千七百噸以下	十三海里以上 十五海里以下 每三箇月一回 六航海

右の外歐洲、北米シヤトル及濠洲の三線は事實上廢止に付削除す

□ 郵便定期航路補助規定

郵便定期航路補助の爲め左の條件に依り昭和四年度以降三箇年度間毎年度百二十三萬圓以内を支出するの契約を結ぶことを得

- 一、政府の命する所に依り郵便物を遞送すること
- ▲ 横濱倫敦線は總噸數七千五百噸以上速力一時間十五海里以上の鋼製汽船を以て毎二週一回以上一年期間二十六回以上航海を爲す事
- ▲ 神戸沙府線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十二海里以上の鋼製汽船を以て毎二週一回以上一年期間二十回以上航海を爲す事
- ▲ 神戸香港線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十四海里以上の鋼製汽船を以て毎三週一回以上一年期間十六七回以上航海を爲すこと
- ▲ 横濱メルボルン線は總噸數五千噸以上速力一時間十五海里以上の鋼製汽船を以て毎月一回以上一年期間十二回以上航海を爲すこと
- 一、政府に於て必要と認むる時は各航路内に於て寄港地増加し又は之が變更を命することあるべきこと
- 一、政府の認可を受けたる時は前記の資格に適合せざる船舶を使用するを得ること
- 一、政府は必要に應じ相當金額を給與して各航路に使用する船舶を公用の爲め買収し又は使用する事を得ること
- 一、補助金は命令書の定むる所に從ひ支給すること
- 一、政府は契約者に於て命令を履行せず若は命令に違背したる事實ありと認めたるときは所爲の輕重により相當の金額を徴收すること
- 一、前數項に於て一年期間と稱するは其年四月一日に起り翌年三月三十一日に終る一周年間を謂ふ
- 即ち郵便補助航路左の如し
 - 一、横濱、倫敦線
 - 一、神戸、シヤトル及神戸香港線
 - 一、横濱、メルボルン線

□ 船舶金融補助法

(日本興業銀行其他造船資金貸付補助)
 政府、日本興業銀行其他ノ銀行ノ造船資金融通ニ付當該銀行ニ對シ補助給ヲ爲スノ必要アリ依テ左ノ條件ニ依リ

【海 運】

【海 運】

其ノ貸付金額五百萬圓ヲ限リ之ニ對シ補給金ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ要ス

- 一、貸付ハ左記ニ依ルコトヲ要ス
 - イ、造船資金ノ融通ニ限ルモノトス
 - ロ、十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ルモノトス但シ其ノ期間内ニ於テ二年以内ノ据置期間ヲ定ムルコトヲ得
 - ハ、製造セラルル船舶(製造中ノ船舶ヲ含ム)ニ第一順位ノ抵當權ヲ設定スルヲ要ス但シ製造中ノ船舶カ竣工スル迄ハ一時他ノ船舶又ハ其ノ他ノ物件ヲ擔保トスルコトヲ得
 - ニ、擔保價格ハ抵當タル船舶ノ價格ノ三分ノ二以内ニシテ且保險金額ノ五分ノ四以内トス
 - ホ、貸付利率ハ年六分トス
- 二、貸付ヲ受クル者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニシテ海運業ヲ營ム目的ヲ以テ内地ニ於テ船舶ヲ製造スルモノニ限ルモノトス
- 三、製造セラルル船舶(製造中ノ船舶ヲ含ム)ハ總噸數五千噸以上半載速力一時間十四海里以上ノ鋼製貨物船ニ限ルモノトス
- 四、補給金ハ貸付金額ニ對シ年一分五厘ニ相當スル金額トス
 - 貸付ニ充ツル資金ノ原價カ年六分ヲ超ユル場合ハ其ノ超過スル率ニ相當スル金額ヲ前項補給金額ニ併セ補給シ貸付ニ充ツル資金ノ原價カ年六分ニ達セサル場合ハ年六分トノ差率ニ相當スル金額ヲ前項補給金額ヨリ減スルモノトス
- 五、債券ノ發行ニ依ル資金ヲ以テ貸付ニ充ツル場合ニ於テハ前項ノ資金ノ原價ハ該債券ノ發行者利廻トス
- 六、貸付ヲ爲サントスルトキハ豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

△英 吉 利

- 一、航海保護制度 政府は郵便定期航海補助契約を締結し左の補助金を支給す
 - (イ) 彼阿汽船 プリンデイシー孟買線(每週二回)、プリンデイシー上海線(二週一回)、プリンデイシー・アデレイド線(毎月一回)年額三十萬五千磅
 - (ロ) キューナード汽船 サザンプトン紐育航路(每週一回)年額六萬五千三百九十磅、右の外假裝巡洋艦としてモ度は一〇、五〇〇千磅である

レタニア號の速力維持其他の爲め海軍省より年額九萬磅

(ハ) 太洋航業(白星線) サザンプトン紐育航路(每週一回)年額七萬二千磅

(ニ) 阿弗利加汽船並英阿汽船 共同經營に係る李浦西部阿弗利加航路(每週一回)前者年額五萬二千二百二十三磅、後者年額一萬百三十二磅

前記の外殖民地及外國間の郵便物航送の爲多數の會社に郵便航送料を支拂ふ

二、造船保護制度 貿易助成法(一九二一年制定)の下に七千萬磅の範圍内に於て英國の産業貿易其他の投資に對し英政府は保證を與へ居り其中船舶港灣等の一九二五年六月末迄に保證せられたる金額は千六百九十三萬餘磅に達す

北部愛蘭政府貸付保證法(一九二二年實施)は一九二七年三月末現在に於て六、四二四、〇四五磅に達す因に保證限度は一〇、五〇〇千磅である

△北 米 合 衆 國

多年海運擴張の素懷を有して果たす能はず、偶戰爭の機運に乘じ、破天荒の大船舶國となれる米國の海運政策に付ては述ぶべきこと頗る多きも、一九二八年議會は左の如き積極方針に出でた

一、民間商船建造貸付資金を一億二千五百萬弗を倍加して二億五千萬弗とす而して貸付額を造船若くは修繕費の四分三に増加し利率は最も安くし期間を十五年乃至二十年に延長すること

一、外國郵便契約船に對し一節につき二弗五十仙乃至三弗とし速力及噸數の増加によつて補償額を増加すること

一、商船海軍豫備制を確立し之に屬する船員に對し其海軍に於ける階級に應じ年々三ヶ月分の給料を支拂ふ、

一、船舶院所屬船拂下は委員五名の承認を要すること

一、國庫より十ヶ年二億五千萬弗を支出して船舶修繕、改良新造を行ひ米國商船隊の確立を計ること

因に一九二九年度郵便補助豫算總額は九百八十萬弗にして此内米國汽船六社に支拂ふべき純然たる外國郵便航送補助金は一、一五七、〇六六弗である尙右以外に封度レートに依る郵便航送料は七三五、五六〇弗である

其他政府は其所有に係る船舶及航路の民間拂下方針を採り其價格及支拂方法等は會社に極めて有利なる條件を附し最近に至り政府の海運保護は頗る顯著なるものあり其振興に關する今次議會提出の重要法案は總數三十に達す

【海 運】

【海 運】

する程にて官民共に裨りに劃策を怠らず
一九二七年度に於ける造船貸附高は三百十六萬二千弗、デーセル機關改造契約高二百七十八萬餘弗に達した

△佛・蘭・西

- 一、郵便航路補助
 コルシカ航路(フライスネット社)七百五十萬法 極東及濠洲航路(エムエム社)五千五百五十萬法 紐育航路(ゼネラルトランスアトランチック社)七百五十萬法 西印度及中米航路(同上)八百萬法 南米航路(南大西洋社)千四百五十萬法 其他
 二、油槽船建造補助 一九二五年七百七十萬圓(建造數一九二四年二十一萬七千噸)一九二六年八百二十萬圓(建造數一九二七年二十六萬一千噸)
 三、一九二八年下院は海事金融法案(船主造船低利資金貸附)を可決した、右條件は左の如し
 金額 一ヶ年二億萬法總額十億法(實施期間五ヶ年)
 利率 年九歩八厘(大藏省の負擔額第一年七百五十萬法其後逐年増加して第六年には三千七百萬法に達し其後最終年迄増減なし)
 償還期限 二十ヶ年(最高限度)

△獨逸

最近同國郵便物が、漢堡及「プレーメン」から直接海外に航送さるゝに至り、戦前と同様、政府は郵便物運送の報償として、現行萬國郵便條約に依り、航送料を支拂ふべき旨汽船會社と契約を結べるが、其の以外には目下何等補助の施設なし。

一、造船保護制度 政府は一九二五年五千萬馬克を限度として同國船主が自國造船所に於て建造する場合長期低利の貸附を行ふ貸附額は契約造船價格の半額利子は建造中一分五厘竣工後第一年四分第二年後六分とし償還期限は最大限度十ヶ年とし船舶は元利の償還せられたる場合の外竣工後十年間は他に讓渡することを得ず
 尙造船材料に對する特惠鐵道運賃を規定し普通運賃に比し三割乃至三割五歩低廉である

△伊・太・利

一、航海保護制度 一九二三年政府は極東印度黑海地中海其他殖民地沿岸方面に對する航路補助費として一億四千七百十三萬リラを計上し伊太利海事會社(四線)伊太利海運會社(一線)トスカナ汽船(五線)ロイドトリエスチノ汽船(七線)等と契約を締結したが一九二七年左記の如く支給方法を改正した

年次	必要航路	有効航路	合計
一九二六年度	三、九三三リラ	三、一五三三リラ	九、五五三三リラ
一九二七年度	三、七九〇	六、七三三	一、五、六六三
一九二八年度	三、〇三三	六、九六五	一、〇、〇〇〇
一九二九年度	三、〇三三	七、〇〇一	一、〇、〇三三

而して一九二九年度補助金を最高とし次年度より逐年遞減して最終年度には(一九四七年)五二、九四二千リラとなる

一、造船保護制度 一九二三年度より實施した造船保護の大意は左の如し
 造船機獎勵金 總噸數一噸に付貨客船は四百リラ貨物船は三百リラ
 船舶材料輸入税の免除 國內に於て其全部又は一部の改造及内燃機關汽罐其他部分品製作に必要な材料の輸入税を免除す
 所得税其他の免除 前述の獎勵金を受くる汽船又は帆船は三ヶ年乃至五ヶ年間所得税又は工業税を免除せらる
 解撤補助金 古船を解撤して之れに代ふるに同型又は其れ以上の新船を建造する場合には解撤すべき船舶一總噸毎に四リラの補助金を附與す

△和・蘭

海外各地及殖民地に對する郵便定期航路に付郵便補助金並郵便航送料制度を設けたり其主要なるもの左の如し
 (イ)ロツテルダムロイド汽船 ロツテルダム・パタビア間(二週一回)二千四百盾

【海 運】

【海 運】

(ロ)ネザールランド汽船 アムステルダム・パタヴィア間(二週一回)二千四百盾(サバニ寄港及航海日数短縮に依り)七千盾増額
其他アムステルダム南米間及アムステルダムニユーオリンス間並ロツテルダム紐育間に其々一定の航送料を支給す

△ 威 諾

一、船舶金融 一九二七年ベルゲンに船舶抵當貸付銀行設立され(資本金四、一八〇千クローネ)總噸數三百噸以上鋼製内燃機船に限り償還期限十ヶ年とす(但船齡八年以上四ヶ年とす)
一、航海保護制度 スタンゲル、キルケネス間(毎週一回)ベルゲン、キルケネス間(毎週三回)ツロイン、ムキルケネス間(毎週一回)の快速力維持の爲四會社間に使用船一隻に付年額二十三萬クローネの補助金を支給す其地スバンスケ汽船會社の四航路に對し年額七萬クローネの補助金を支給す
三、造船保護制度 船齡二十年以上の貨物船の輸入を禁止し造船材料輸入關稅の補償として新造船三百噸以上の汽船に對し輸入船價の二分及修繕船同一分五厘を支給す但外國に於て機關を裝置したる場合は其補償額は前記金額の三分の二とす
尙政府は一九二八―二九年度海運補助豫算 五、八〇四千クローネを議會に提出した本補助金は沿岸航路三十七線に對し郵便航送料として支給される筈である

△ 瑞 典

特定航路たるストックホルム、スベア會社の瑞典芬蘭間毎週一回の定期航海に於て年額三萬クローネの補助金を下附す尙冬期間の航海に對し二萬クローネの補助金を附加支給す
其の外自國建造船に對し資金の貸付を爲す制度を設け利子四分期間八ヶ年とす最初の二ヶ年据置其後六ヶ年間に全額六分の一宛年賦償還とし年賦償還不履行の場合は年六分の利子を支拂ふものとす
尙一九二八年議會は貸付基金を三百萬クローネ増額依つて總額は二千三百萬クローネとなる(の件並貸付利息年五歩(一歩引上)の件を可決す)

△ 西 班 牙

一、航海補助 現在航海保護制度は一般航海補助と特定航路補助との二あり之を總括して略記すれば左の如し

バルセロナ、ウルガイ間
攻馬智利 秘露航路
比律賓 西海岸航路
亞弗利加 西海岸航路

受 命 者
アトランスアトランザツク

補 助 金
二六、三三三、八セタ

契約期限
一九二一年迄

一、造船保護制度 造船獎勵金を支給することとし總噸數百噸以上の船舶を建造する場合一噸に付旅客汽船は四百七セタ並に公試運轉速力十六節を超えるときは一節に付普通獎勵金の一割を増額支給す
其他外國より輸入する船舶に對し五分乃至五割(普通税率に對し)の輸入税加重を爲し加ふるに船齡十年以上の船舶輸入を禁止す一方造船材料の輸入に對しては之を免除する等保護的色彩頗る濃厚である

△ 芬 蘭

政府は一九二八年議會に對し始めて左の如き造船補助案を提出した

(イ)造船貸付法案 貸付金額一〇〇、〇〇〇千芬蘭馬克

(ロ)造船業補助案 造船所に對する造船材料に關する補助と造船業者に對する純然たる補助金下附の二案

(ハ)航路補助申請 一九二六年新設されたるフキニツシュ、ソウスアメリカン、ライン(月一回)に對し七百五十萬芬蘭馬克補助の申請を議會に諮つた

△ 智 利

政府は一九二八年一月法律による新海運補助法案を實施した大要左の如し

(イ)二ヶ年以上巴奈馬運河經由定期航路を經營せる智利國汽船會社に對し一ヶ年二百萬ペソ迄の補助金を支給する

(ロ)補助會社は純益より積立金を控除し殘額より株主に對し一割の配當金を支拂ひ猶剩餘金ある場合は株主と國家間にて按分すべき事

(ハ)本法實施に依り生じたる經費は領事館料を一齊に一割方増額することに依り支辨する

△ 伯 刺 西 爾

最大の「ロイド、アラシレイロ」會社は、政府の直營に係るものにて、又航路補助金の支給を受け居る會社は、沿岸航行のものなり、其の補助金の年額合計二千萬「ミルレース」に達せり。

【海 運】

